

ナラセシニ石佛ノ大日二跡ホリ出シ即チ堂ヲ建テ安置ス三光寺ト號ス寺アリシ所トテ今モ其所ノ  
アサナトス

憩亭六 羽賀沖 三光寺 小山 羽賀二 牧山

古蹟

穴海 穴濟 別見

羽賀 或ハムカシノ葉雅屯倉コ、ニアリト云

茶臼山城

羽賀彈正 同中津三郎

皆内藏人 備後古城記ニ皆内藏人ハ郷分村古城主皆内出雲守カ家弟ナリト云

附 釋祐正ハ杉原又太郎信平カ末葉ナリ沼隈郡早戸村ニ住シ法跡ニテ村長チカマ織田内府本願寺

ヲ攻ラレシ時馳上リテ防ク弓ヨク彎テヨホト敵ヲ惱マス事シツマリテ顯如ヨリ圓金百鎰チアタヘ

シチカタク辭シテウケス自策名號文章ト云モノ三通ヲ給ハリテ歸ル早戸村池下ノ九右衛門ハ祐正

カ嫡孫ニテ久シク持ツタヘシニ後貧シクナリ一族中津原桑田與太郎ト云者ニ讓ルト云

### 森 脇 村

福山ヨリ一里十八丁北ニアタル村東西十一丁五十七間南北十丁五十二間

田 畝

七十七町一反二畝五步 内畠四十四町三反八畝三步

歳 額

七百二十七石四斗四升四合 内畠三百十六石四斗七升五合

戸 口

戸百十二 口四百八十四内女二百四十七僧八替一

畜

牛三十三 馬十

溝 渠

蘆田川 品治郡下山守村界ヨリ中津原村界マテ六百二十五間コレヲ古川ト云

新川 下山守村界ヨリ此村邊土手マテ三百六十間

砂川 中津原村界マテ五百二十二間

橋 約

假橋 新川ニアリ

廟 墓

八幡宮 キヨトウニアリ生土神也

小祠三

塔 寺

満行寺 光耀山淨土眞宗中山南勸正坊末寺

法藏坊 萬年山誓蓮寺同宗照光寺末寺中條村安滿ト云所ヨリコ、ニ移ル年代シラス

憩亭二 中市荒神社中 下山守村界

古蹟

柳原 昔光裏寺ト云アリテ年々施餓鬼アリシ處卒都婆カ淵ト云岸ミナ柳ナリシヨシ淵ハウツモレ

テ今ナナ里名トス光臺寺ハ岩成ニアリ

### 下岩成村

福山ヨリ一里半北ニアタル村東西十二丁南北六丁  
 明細書ニ云神邊庄ヨリ宮内ノ間ムカシ岩成原ト云ソノ内宗岡ノ郷ト云ハ東ハ道上西ハ山守南ハ七  
 社山北ハ勝渡山石州道ヲサカフ今四箇村ホトノ内ナリト云  
 備前ヨリ檢地ノ節津田左源太村ノ庄屋直言セシトテ憤リシニソノトキ村ノ醫師田中玄琢カ家ニ一  
 族甲田嘉兵衛カ女姉妹ヤシナハル水野家ヘ仕ヘ國除ノ後來リシナリコノ女檢地ヲ見物ニ出タルヲ  
 見テ遊女ヲ貯ヘ役人ヲ誑カサントスルナラント申合テ繩ハリヲツメ斗代ヲモタカクモリシユヘ他  
 村ヨリモ難義ナル村ナリト云傳フ

田 畝

八十三町三反一畝二十四步 内畠二十二町四反一畝二十九步

歲 額

千八十七石六斗二升一合 内畠二百八石七斗八升五合

戶 口

戸百四十九 口六百四十三内女三百二十六僧三替二

畜

牛三十六 馬七

溝 渠

加茂川 上岩成村界ヨリ道上村界マテ長五百三間

砂川 万能倉村界ヨリ上山守村界マテ長二百五十八間小川也

堰 關

開關二 一ハ長十間九尺横一間五尺万能倉村砂川ニアリ一ハ長三十間横三尺六寸加茂川ニアリ

大門樋 高八尺五寸八分横一間六尺九寸諸村用水

捨門樋 高六尺九寸横一間一尺 惡水ナリ

橋 約

石橋 長二間横一間五尺東城往還ニアリ

圮 長二間横一間

廟 墓

深草大明神 捨門樋ト云所ニアリ祭神大已貴尊

六郡志に明曆丙申夏野田氏の婢投石といふ所にて尿せしにたちまち火も出でてあやしき蛇わらは  
 る婢主人の家にはしり入りて絶業す須臾に蘇せしを見れば形相おそろしけになりてければ深草大  
 明神なりむかしよりこゝにわれども汝等しらすもし瑞殿を作りて祭らば國民安く守るへしと云野  
 田氏父老にはかりて夏目田久太夫といふものに祝詞せしめ試にその處をほりしに坂本彌兵衛とい  
 ふもの一丈餘はりて古鏡ひとつをとりいたす裏に大已貴命深草大明神といふ銘あり即公廳にねか  
 ひて一祠をたて神田をそへて祭るそののち備前より檢地ありしもの凶歳つゞきて修覆せさうしか  
 は享保三年戊戌正月十四日より夜黄狐祠中より出てはしり鳴こと數十日父老讀して修覆せんと決  
 しそれより鳴かすと云

宮原氏記アリ文長ケレハ略ス野田氏ハ馬場九郎兵衛ト云者ナリ

城大明神 城ト云所ニアリ宗岡播磨守成滿チマツル成滿ハ此村ノ古城主ナリト云

天神社 宗岡氏勸請ス捨門樋ニアリ

塔 寺

光圓寺 平白山淨土眞宗光照寺末寺寺モト中條村ニアリ天台宗也水野家ノ時コ、ニ移シ今ノ宗トナル水野記ニ寛永十六年 公命ニテ寺ヲ改ムソノトキ見エサル寺本庄ニ圓正引野ニ醫王大門ニ眞明津下ニ光圓專光野々濱ニ長福千田ニ神宮市村ニ眞光森脇ニ寶藏行中津原ニ正善下岩成ニ光圓等ヲノスサレハ此寺ソノ後ニウツリ來リシヤ

小佛屋一  
憩亭二 牛田 木船

古蹟

古城 宗岡播磨守成滿 備後古城記ニ岡崎四郎義眞ノ末流延元年中尊氏ヨリ岩成ノ庄ヲ賜フト云今按ニ成滿天文甲午三月五日卒ストイヘハ尊氏ニ從ヒシハ其祖先ナルヘシ成滿代ハ雲州尼子經久ノ旗下ニ屬セシトミユ今ノ城大明神ハ成滿ノ城跡ニテ神ハソノ靈ナリト云家臣馬場永武川田信久宗岡重則アリ其後斷絶ス

牛田 信久重則等カ屋鋪ノ跡ナリ永武カ屋鋪ハ光臺寺ノ南一丁計リニアリシト云附 此村久五郎ト云者高須村十兵衛カ一類ニテ杉原氏ト云家ニ傳來ノ書類多クアリ鎌倉執權家ヨリノ書五十五通今略シテ文ヲ附録ニ出ス

六郡志ニ祖先長州萩ニ往テ任フルモノ一人ノミナラス高須藤右衛門ト云ハ二百七十石給領スソノ人本書ヲモテユキ自筆ノウツシチノコシチクコレナリト云今按ニ杉原系圖ニハ北條高時カ代此國ニ來ルト云サレハ文書ノ時世ウタカヒ多シ後ニ出ス

### 上岩成村

福山ヨリ二里北ニアタル村東西八丁南北六丁五十間榜示一枚アリ

田 畝

六十九町九反三畝二十八歩 内畠十四町六反三畝二十二歩

歲 額

七百一石六斗二升二合 内畠百十八石二升八合

戸 口

戸八十二 口三百九十七内女百七十五替二外穢多八

畜

牛十九 馬二

溝 渠

加茂川 下加茂村界ヨリ下岩成村界マテ長七百六十九間

小溝十七派

堰 圃

堰四 猪ノ木 新溝 天滿 河真子

開入

橋 約

假橋二 加茂川石州街道 光臺寺渡

廟 墓

今宮大明神 河真子ニアリ祭神蛭子尊

六郡志云疫癘行はるれば紙船を造り紙離をのせ神前に加持して鴨川に流す吳竹集に被草け被する時の人形なり歌にかたしるとよむ見し人の形代ならば身にそへて戀しき時の撫ものにせん宗砌か

連歌に宮かはによるや山田のはらへ艸と云この事邊郷にのこりたるもすせうにこそ  
水野記ニ岩成ノ今宮延暦十八年艸創社領モト二十貫山名理興カトキ十貫アリシト云同書ニ八幡宮  
ヲ山城へ移セシハ貞觀ノ比也天平寶宇ノ艸創ウタカハシ

天神宮

天満ニアリ

小祠四

江良墓

江良段之丞カ事總叙ニ出ツ

塔

寺

阿彌陀堂

光臺寺渡リニアリ光臺寺ト云寺跡ナリ光臺寺ヲ引テ江良村ノ廣徳院トス光臺寺ハ宗岡

播磨守ノ香火院ナリ

シヨシ此堂ニ光臺寺ト云額アリ明王院惠旭ノ筆ナリ

憩亭一

稻月

古

蹟

勝渡山城

宮刑少輔入道正味

一本古城記ニ正渡山ニ作ル宮三郎入道正渡開創シ正味代雲州尼子旗下ニ屬

シ後雲州ニテ討死スト云六郡志ニハ小藤備前守トイフ者ハシメテキツキ故小藤ト云ト云別本

古城記ニ毛利龜路山ノ宮ヲ降セシトキ所々ノ小塙ミナ抜カルコレソノ一ナリト云

栗原左衛門尉 備後古城記ニ云後太平記ニ出ツ此城南ハ街道三方ハ沼ナリ一類戰歿ノ時西光寺

ト云香火院ト共ニ破却スト云此山西南ハ此村東北ハ八軒屋西北ハ下加茂村ニカ、ル

福山志料卷之十三 終

福山志料卷之十四

安那郡

安那和名鈔ニ夜須奈ト訓スモト深津ト一郡ニテ上古ノ穴國ノ地ナリ穴ハ婀娜ト訓ス

舊事記國造本記曰吉備穴國造 纒向日代朝御世和邇臣同祖彦訓服命孫八千足尼定賜國造 谷川

士清日本紀通記曰安那穴之訓後人再譯夜須奈猶駿河國益戶郡之例 景行天皇紀曰日本武尊從海

路遠倭到吉備以渡穴海其所有惡神則殺之 又曰西州既謚百姓無事唯吉備穴濟神及難波栢濟神皆

害心以放毒氣令苦路人並爲禍害之數故悉殺其惡神並開水陸之徑

今按ニ安那深津モト同郡ナレハ穴ノ海ハ今ノ手城水呑ノ海山手中津原神邊諸村マテ曲リ入シ所

ヲ云也ソノ傍近ノ地スナハチ昔ノ穴國ニテ地形マコトニ洞穴ノコトシ別ニ辨説又圖アリ

安開天皇紀屯倉ニ 廩殖 贍年部

續日本紀養老三年 茨城 今ソノ所ナシラス

和名鈔郷六 天家或云大 高迫 三谿今ナテ 拔屋 大坂八尋村 驛家延喜式諸國驛傳曰備後國安那品治者度各

延喜式神名帳二座 多那伊奈太伎佐耶布都神社 天別豐姬神社

安開ノ御時マテ備後ノ外ニ婀娜國アレハソノ後郡トナリシナルヘシ今ノ境南ハ深津郡東ハ備中國

北ハ神石郡西ハ品治郡ニ連ル全郡統ル所二十八村ソノ内六村ト粟根半村ハ石州大森ニ隸シ二村ハ

豐前中津ニ隸シ今管内ニ入ル所十九村ト粟根半村トナリ高屋川ハ備中ヨリ上御領村ニ入り竹田平

野等ノ池塘湖谷ノ水ヲ合シテ西流シ中津原村牧カ端ニテ葦田川ニ入ル加茂川ハ葦原一派百谷一派

加茂村ニ合シ岩成村ヲ經テ川北村ノ西ニテ高屋川ニ入ル境外山野村傍近ノ水ハ備中ニ入ル南北山

連り中ニ野アリ

上竹田 下竹田 八尋 上御領 下御領 湯野 平野 川北 川南 徳田 十九軒屋 十三軒屋  
道上 八軒屋 上加茂 中野 粟根 下加茂 東法城寺 西法城寺

上竹田村

福山ヨリ三里東北ニアタル村東西九町三十二間南北二十一町二十二間東備中國小田郡稻木村ニ接ス

田 畝

七十九町九反一畝十一歩 内島三十町五反五畝二十三歩

歳 額

九百三十七石七斗七升一合 内島二百四十石二升四合

戸 口

戸百二十三 口六百十五内女三百二

畜

牛六十九 馬五

溝 渠

中川 備中小田郡篠坂村出ヨリ坪生村界ヨリ下竹田村マテ堤長千百間

池 塘

川谷池 周五町二十一間

鼓池 周四町四間

小池十七

橋 約

堤十

石梁一

宮ノ前ニアリ

板橋二 大坪並ニアイカハチニアリ

山 溪

小澗七

廟 墓

八幡宮 宮ノ端ニアリ生土神

良大明神 良ノ窪ニアリ

小祠十三

塔 寺

小佛屋二

内ニ鼓カ岡長福寺ト云アリアル時本尊蟲ハミタルヲ修セシニ佛ノ背ヨリ楡三鏡一鼓氏累世ヲ記セシ  
シ鼓鬼簿ヲ出ス鼓ノ一族サラニ一字ヲ建テ鐘ヲ鑄ナトシテ今ノ如クス鼓ハ佐々木秀義カ裔ナリ家  
藏スル所ノ古書類イロ々アリ附録ニ出ス傳ニ云コノ薬師 聖武ノ時國別ニワカタレシ其一也  
憩亭九 鼓 川谷 山崎 泰砂子 堂砂子 内砂子 仁五 長谷端 松ノ前

過竹田村

西山正

溪流淺濬路縱横日落輿丁信脚行十里長堤詩未就林風吹送暮鐘聲

乙巳三月十日赴神邊驛途上

三十里程行且歌背鷗波去入煙蘿荒村春遍竹田外幾處桃花夕照多

西山ハ姓正ハ名字ハ士雅備中鴨方人寛政ノ初 幕府ニ徵レント云議アリ既ニ命アルヘカリシテ此人必起ツマシト云人アリテヤム故ニ或ハ徵士トモ云

下竹田村

福山ヨリ三里東北ニアタル村東西十五町南北二十六町

田 畝

百二十二町七反六畝十三步 内畠四十一町五反二十一歩

歳 額

千四百三十八石九斗二升 内畠三百二十三石六斗七升六合

戸 口

戸二百二十一 口九百九十六内女四百八十四替二

畜

牛百九十八 馬十三

溝 渠

中川 上竹田村界ヨリ平野村界マテ堤長千三百七十六間高屋川ニ入ル

高屋川 八尋村ヨリ平野村界マテ堤長七十五間

ハサマ川 宇山村ヨリ出長二千三百二十五間中川ニ入此川筮多シ大サ境内ニナラヒナシ長サ一丈

弱ナルモノアリ

池 塘

ハサマ池 周四町二十間

流田瀬戸池 周五町四十七間

蕨池 周六町三十三間

沼坂池 周五町十二間

ケシ池 周七町

八反田池 周二町四十八間

小池十一

橋 約

石梁一 江草ニアリ

堤四

山 溪

權現山 此村ノ西南ニアリ

嶺二

猪迫 平野ニ通ス

ヒナ 八尋ニ通ス

谷二

小湖七

附

此村ニ草ムラ一處草ノ枯タル所アリ其處圓カニシテ漸々ヒロクナリ盛夏ト云ヘトモ翠色ナシ土人

コレヲ蛇喰ト云コレヲ除クニハアマタ竹ヲ尖リテ其所ニウチ立ルコトアリト聞ケトモ試ミタル人  
モナシ錢穀備要ニコレハ蛟ノ伏スル所ナリ其ヌケ出ル時洪水出テ人民田畝ヲソコナフコトアリト  
テ預防ノ術ヲノス數年前村人アツマリテ其地ヲホリシニ地中ニ一小穴アリソレニ石ヲ投コムニ幾  
ハクヒロキカ知レサル故恐テナシテホル事ヲヤメヌ其比警州ニ此事アリ水十餘村ヲ漂没ス是ヲノ  
事ヲキ、テ掘試ミシナリ川北村ノ山中ニモ有シカ今ハナシ何レノ國何レノ山ニモ或ハコレ有ト云  
備要ノ説左ニ記ス

伐蛟説 雅王十二年警兩紅府院魏刊刻  
通飭乾隆五十一年延臣父奏准頒行

嘗考月令載伐蛟之文古人多斬蛟之事蓋蛟爲害于民實甚多剪除凡以爲民也江南地方如徽寧六霍等處  
蛟水爲患人畜田舍隨波蕩然殊可憫惻訪之故老考之傳文識產蛟之處得伐蛟之法蛟以卵生數十年而起  
生蛟之地冬雪不存夏苗不長鳥雀不集其土色赤其氣朝黃而暮黑星夜上衝于霄其卵入地自能動轉漸吮  
地泉其形即成聞雷聲漸起而上其地之色與氣亦漸明而顯蛟未起二三月前遠聞似秋蟬悶在手中而鳴  
又如醉人聲此時能動不能飛可以掘而得及漸起離地面三尺餘聲響漸大不過數日俟雷雨而起多在夏末  
秋初之間穿山破岸水激湧湧爲害不可勝言矣善識者于春夏之間觀地之色與氣及未起二三月前掘土三  
五尺餘其卵即得其大如甕其圍至三尺餘先以不潔之物鎮之多備利刃刮之其害遂絕或于雪後見其地圍  
圓不存雪不生草木再視其地之色與氣掘得其卵煮而食味甚美此土人經驗之言也  
又物理小識云雄與雌蛇交入土爲蛟盤  
閱人謂之蛟符望地氣而知之掘而食之  
今按此文王之  
枕錢穀備要ニ出

廟 墓

八幡宮二社 ハサマ谷 大地谷

小祠三十三

塔 寺

小佛屋五

憩亭八 山崎 江草 梅谷 燕谷 長砂子 大地 退端 岸

古 跡

大地山城 皆内左馬介定兼備後古  
城記 一本古城記ニ初尼子後大内ニ隨ヒ本鄉村ヨリ爰ニ移ル永祿中

上方ニ牢人スト云

三吉丹後守備後古城記  
天正年中 一本古城記ニ筑前守康俊モト三次ノ城主ナリ後此處ニ移住シ杉原盛重ニ屬ス  
ト云

別見

六郡志に三吉氏の後今は服部と改む丹後守か子孫にて毛利家の書多く藏む杉原盛重強勇の人を  
好み盜賊穢多をもむらばす丹後守周防人藤井九郎助同六郎左衛門などは出陣の跡守らせらるへ  
さものなりとすめまた備前より景山關助をも呼よせて扶持せしむ杉原落家せしかは又福島丹  
波へ申し水野家の時丹後守か孫三吉又左衛門また申出つ關助九郎助事三吉村の所にくはし  
明細書に明顯山象鼻三吉丹後守秀史居城東西十五間南北二十五間有ト云是ヲミレハ城跡ハ二所  
トミユ史或ハ央ニ作ル

### 八 尋 村

福山ヨリ三里東北ニアタル村東西十九町三十六間南北八町四十八間東備中小田郡大江村ニ接ス

田 畝

八十一町一反一畝一步 内島三十六町七反七畝十八步

歳 額

八百四十四石五斗二升七合 内畠二百六十七石三斗四升二合

戸口

戸百六十二 口七百五十四内女三百七十七

畜

牛六十 馬一

溝渠

高屋川 上御領村界ヨリ下竹田村界マテ堤長百五十六間

中川 上備中大江村ヨリ出下竹田村江草ニテ高屋川ニ入ル堤長九百九十二間

大溝 中川下樋ノ口ヨリ下竹田村江草マテ長百八十間

堰

雁又井手 沼中井手 堤崎井手 折返井手 古池跡井手 五反田井手 山田井手 唐熊井

手

開五 土井端門樋一 小開四

池塘

權田池 周四町十二間

小池七

橋

唐橋 石梁ナリ高屋川ニアリモト長サ八間ノ板橋ナリシカ天明元年石橋トナル同六年丙午ノ大水

ニ流折レ今ハ石一枚ノ假橋ナリ

石梁四 新川 堤崎 折返シ 森

此外石梁堤ミナナリ

山溪

嶺一

大サコ 上御領ニ通ス和名鈔ニ云大坂コレカ

廟墓

二宮大明神 祭神吉備津彦命生土神棟札ニ水野美作守源勝慶造立トアリ水野記ニモト社職十六人

末社回廊等アリ舊領七十貫ト云

小祠七十二 内六十一ハ名ノミニテ祠ナシ

塔寺

福正寺 中光山淨土眞宗東本願寺末寺由來書ニ毛利家臣藤間兵部開基ト云兵部事光明寺光園寺ノ

由緒書ニ見ユ又秀頼公親筆名號ヲ藏ム慶長十年二月七日秀頼書之トアリ

今按ニ慶長十年ニハ秀頼イマタ十歳左右ナリ別ニ一ノ秀頼ト云人アリヤ

神宮寺 圓久山眞言宗遍照寺末寺

小佛屋一 大サコニアリ

憩亭十三 和名木谷 森谷 山田谷 谷ノ上 射場 梨子ノ木 小岸 後平 永徳寺 普門寺

横路 沖 大二五

### 上御領村

福山ヨリ三里七町東北ニアタル村東西十七町南北七町東備中國小田郡大江村後月郡高屋驛ニ接シ  
北公領本郡三谷村ニ接ス行程記ニ一本榎ト云處ヲ堺トス村人此地名ヲ擧ルモノナシ關議アリ今ノ



山陽道ヨ、ヨリ神邊今津二驛ヲ歷高須村坊寺領ヲ踰ユ

田 畝

百三十七町八反六畝十八步 内畠四十三町九反八畝二十五步

歲 額

千六百六十八石五斗六升二合 内畠三百三十二石五斗三升七合

戸 口

戸二百二十四 口九百二十九内女四百五十七僧五替二

畜

牛八十八 馬九

溝 渠

高屋川 上備中國後月郡高屋村高草上出江村鯉川ヨリ出堤長千六百四間

清水川 上奈良原ヨリ出高屋川ニ入ル堤長七百五十間

池 塘

大倉池 周十町十間地東中條村ニアリ布地四千九百九十二步

三反田池 周十町十間

張田池 周四町

小池八

堰 剛

堰七 下井手 雁又井手 北井手 瀧山井手 小井手三

橋 約

板橋二 野上渡 道城渡

石梁 未久渡 雁又渡 夏目渡 下井手渡

小石梁三

山 溪

谷十一

石

八丈岩 大平野山ニアリ東西五間二尺五寸南北七間半高二間半面席ノコトシ

千人隠岩 長十間厚サ六間七尺

階子岩 四間一尺四方厚サ九尺

足形岩 東西五間五尺五寸南北四間二尺

紅岩 イヤ谷奥ニアリ男女口ヲ開キシ形アリテ唇ノ處紅ノコトシ

鬼之間岩 長十三間六尺横三間高二間

鳴岩 響石也三ツ重リテ三ツナカラ調子ノ高下異也

烏帽子岩 東西三間南北二間高三間五尺

龜岩 東西五間六尺五寸南北九間半 イツレモ同シ山ニアリテ紅岩ニ石ハ別ニアリ

廟 墓

八幡宮 八幡山ニアリ生土神

二宮大明神 祭神吉備津彦命備中ヨリ宮内ヘウツシ申ス時ノヤスミ所ナリト云水野記ニモト領百

貫杉原ノ時五貫末社等アリト云

天王社 祭神軀祇園ト同シ

山陽道コ、ヨリ神邊今津二驛ヲ歷高須村坊寺領ヲ踰ユ

田 畝

百三十七町八反六畝十八步 内畠四十三町九反八畝二十五步

歲 額

千六百六十八石五斗六升二合 内畠三百三十二石五斗三升七合

戶 口

戸二百二十四 口九百二十九内女四百五十七僧五替二

畜

牛八十八 馬九

溝 渠

高屋川 上備中國後月郡高屋村高草上出江村鯉川ヨリ出堤長千六百四間

清水川 上奈良原ヨリ出高屋川ニ入ル堤長七百五十間

池 塘

大倉池 周十町四十間地東中條村ニアリ布地四千九百九十二步

三反田池 周十町十間

張田池 周四町

小池八

堰 圃

堰七 下井手 雁又井手 北井手 瀧山井手 小井手三

橋 約

板橋二 野上渡 道城渡

石梁 未久渡 雁又渡 夏目渡 下井手渡

小石梁三

山 溪

谷十一

石

八丈岩 大平野山ニアリ東西五間二尺五寸南北七間半高二間半面席ノコトシ

千人隠岩 長十間厚サ六間七尺

階子岩 四間一尺四方厚サ九尺

足形岩 東西五間五尺五寸南北四間二尺

紅岩 イヤ谷奥ニアリ男女口ヲ開キシ形アリテ唇ノ處紅ノコトシ

鬼之間岩 長十三間六尺横三間高二間

鳴岩 懸石也三ツ重リテ三ツナカラ調子ノ高下異也

烏帽子岩 東西三間南北二間高三間五尺

龜岩 東西五間六尺五寸南北九間半 イツレモ同シ山ニアリテ紅岩ニ石ハ別ニアリ

廟 墓

八幡宮 八幡山ニアリ生土神

二宮大明神 祭神吉備津彦命備中ヨリ宮内ヘウツシ申ス時ノヤスミ所ナリト云水野記ニモト領百

貫杉原ノ時五貫末社等アリト云

天王社 祭神鞆祇園ト同シ

小祠三十二

塔 寺

明正寺 證林山淨土眞宗東本願寺末寺由來福山光明寺ノ條ニミユ寺中ニ蟠松一章アリ藤岡刑部カ  
手植ナリト云此寺ノ開ケシハ刑部死後ナレハ生前ニ來リウヘシナルヘシ東西十三間南北八間アリ  
小佛屋三

憩亭十五 馬シヤグリニ 奈良原ニ 堂砂子ニ 辻堂 末友 一里塚 宗繁 森砂子 山手 荒  
谷 夏目堀 藥師田

古 跡

瀧山城 宮下總守入道光寄 備後古城記ニ  
光音トアリ 一本古城記曰明應元年城開創宮三郎義兼山野村ヨリ此所  
ヘウツリ同常陸守兼光入道同光寄ノトキニ至リ天文二十年毛利家ノ爲ニ追出サレ備中ヘ出奔ス後  
京都ニ死スト云

按ニ此古城半ハ備中大江村ノ分ニアリ明細書上ニハ見エス軍書ミナ備後ト記シ主テ光音トス  
藥磨山 宍戸孫六郎秀安 備後古  
城記 一本古城記曰大内義隆ノ臣其後毛利家ニ仕フモト下御領村ヨリ此  
所ヘ分ルト云

目崎左近秀見 一本古城記曰宍戸隆家ノ家老ト云

六郡志に明正寺より西の山上に龍王と稱する大石あり是重政氏の城地なり今此名氏此村にのこ  
れりといふ

### 下御領村

福山ヨリ二里十二町東北ニアタル村東西八町南北十町二十七間四尺北公領本郡東西中條ノ二村ニ

接ス榜示ニ枚アリ石州雲州ノ道コノ村西邊ヨリワカレテ中條ニ出テ府中驛ヲ歷テ荒谷ニ入ル

九十四町九反九畝十二步 内畠三十町五反七畝

田 畝

千一百一石三斗八升六合 内畠二百四十六石三斗七升八合

戸 口

戸百三十五 口五百十二内女二百四十九僧二替二外穢多五十九

畜

牛六十一 馬三

溝 渠

高屋川 上御領村界ヨリ平野村界マテ堤長二百六間

トウ々川 一名百瀬川 水源東中條村大原池ヨリ出平野村界ニテ高屋川ニ入ル谷口ヨリ八百二十間

池 塘

大原池 周八町二十間東中條村地内ニアリ布地一萬七千八百七十六步

大原下池 周七町五十七間

小池四

橋 約

石梁二 トウ々川高淵 國分寺前

山 溪

谷五

石

狐岩 天王谷ニアリ

硯岩 トウ々川奥ニアリ

乗物岩 小屋谷ニアリ

夫婦岩 法道寺上ニアリ

鳩岩 山王山ニアリ

鳥岩 國分寺西トウ々川中流ニアリ今埋レテミエス此石川中ニ直立シテ柱ノ如ク高二丈アマリ

人攀上ルコト不能故毎年鳥巢ヲツクル因テ名ツク五十年前ノ川浚ノトキ役夫アツマリテ鳥岩ハ

タシカニ此處ニ在ト竹竿ヲ刺コミテサカシメレトモ手コタヘセスコ、カシコト尋ヌルチ八十ノ

老翁ミテ鳥岩ナラハ今ハ二丈ハカリモ砂底ニアルヘシト云シユヘヤメタリト云

今按ニ二丈アマリモ抽タルモノ二丈ハカリモ底ニアレハ通シテ五丈ハカリモ埋レシナリ其後五

十餘年又幾丈カヘタテツラン攝州生田川ハ懸幕ノ事ニ水鳥ヲ射三人身ヲ投シコト大和物語ニミ

ユ備中ノ板倉川ハ妹尾太郎組合テ水底ニ沈シコトアリ二川今平地ヨリ高ケレハ溪澗ノ沙淤イツ

カタモ同シ平生ハ水乏シクテ澁澁タラス雨フレハ暴漲シテ田畝ヲ漂没ス亂世打ツ、キシヨリ厲

禁アレトモ用ユル人ナクテ此ニイタル一嘆ヲ發スヘシ左ノ一條三代格ニミユ

太政官符

應禁制研損水邊山林事

產業之務非尸堰池浸潤之本水木相生然則水邊山林必須鬱茂何則大河之源其山巒然小川之流其岳童

焉爰知流之細大隨山而生夫山出雲雨河澗九星山童毛盡露潤澗乾謹按太政官去大同元年六月八日下

五畿内七道諸國符備右大臣宣奉 勅山川海湖濱、野林原等一切收入公私共之但山岳之体或於國爲

禮事須蕃茂勿令代損又山城國葛野郡大井山者河水暴流則堰堤淪沒採材遠處遺失灌漑因茲國司量便

禁制河邊諸國若有此類者不論公私不在收限者然則大堰之岳專有禁制小川之山不在禁限因茲百姓憚

遠食近川上山林任意伐取至有旱年水泉涸乏禾苗焦枯動致損害職此之由也望諸川澗泉源溝池等縱令

溉田水邊山林敷澤不問公私悉加禁止並莫伐損云云

廟 墓

八幡宮 生土神

小祠十二

塔 寺

國分寺

唐尾山眞言宗年代久シク興敗シハ々ニシテ小地トナリ今明王院ノ末寺トナルイツノ頃イ

カナル故ト云コトヲ知ラス由緒書ニ云杉原カ時安那郡一郡ニ賦シテ修覆セシメ二十貫ノ地ヲ附シ

テ香火ヲ資ク其後福島カ時莊園コト々ク取上ラレ延寶癸丑ノ洪水ニ流レ草堂ワツカ一字ノコレリ

水野勝種侯神邊網付山ノ材ヲ賜ハリ杉原カ舊例ヲ用ヒ郡中ノ縁ヲ募テ修覆チ加ヘシメ延寶己未ニ

成就ス云云

今按ニ今ノ方丈二王門先住如實上人コレヲ建テ少シク寺刹ノカタチヲ成トイヘトモ昔ノ二十分

之一ニモナラス此寺諸國ニアリ由來開基ノ事ハ云コトヲマタス令義解類聚國史類聚三代格等ニ

見エタル國分寺及定額寺ノ條ヲ引テ當時ノ光景ヲ想ヒ見セシム如實ハ紀州ノ産和歌ヲ好ミ花草

ヲ愛シテ無欲ナル僧ナリ西山拙齋ト善シ拙齋カ贈リシ聯句ニ唯愛名花不愛錢ト云句アリ其人想

フヘシ國分二寺ノコト別ニ辨説アリ

類聚三代格卷第三國分寺條

勅朕以薄德忝承重任未弘政化寤寐多慙古之王者皆能光業國泰人樂災除福至何修何務能致此道頃者

◎福山志料卷之十四 安那郡

年穀不豐疫癘頻至暫懼交集唯勞罪已是以廣爲蒼生遍求景福故前年馳驛增飾天下神宮去年普令天下造釋迦牟尼佛尊金像高一丈六尺者各一鋪并寫大般若經各一部今春已來至于秋稼風雨順序五穀豐穰此乃微誠啓願、靈祝如答載惶載懼無以安寧案經云若有國土講宣讀誦恭敬供養流通此經王者我等四王常來擁護一切災障皆使消釋癘疫亦令除去所願遂心恒生歡喜冥令天下諸國各敬造七重塔一區并寫金光明寂勝王經妙法蓮華經各十部朕又別擬寫金字金光明寂勝王經每塔各令置一部聖法之盛與天地而水流擁護之恩被幽明而恒滿其造塔之寺兼爲國華必擇好處實可長久近人則不欲薰臭可及遠人則不欲勞衆歸集國司等各宜務在嚴飾兼潔潔清近感諸天庶幾臨護布告遐邇令知朕意

續日本紀曰天平十三年三月己巳詔每國僧寺施封五十戶水田十町尼寺水田十町僧寺必令有二十僧其寺名爲金光明四天王護國之寺尼寺令有一十尼其寺名爲法華滅罪之寺兩寺相去宜受教戒若有闕者即須補滿其僧尼每月八日必應轉讀寂勝王經每至月半誦戒羯磨每月六齋日公私不得漁獵殺生國司等宜恒加檢校同天平勝寶八年十二月己亥備後等二十六國國別頒下灌頂幡一具道場幡四十九首緋綱二條以充周忌御齊莊飭用了收置金光明寺永爲隨事出用之

太政官符

應勸造國分寺并禁犯用寺物事

一諸國國分寺年中所造成物費用財物依實勘錄每年附朝集使申上即令開奏

一今聞國分寺封田等物或國曾不宛造寺又無供養僧而國郡司等非理用盡或國雖不用猶不存心唯收藏中空令朽損

一國分寺封并佃稻地子等物宜收納寺家臨應宛用國司共知聽國師處分施行

一每年奉施三寶物等心依內教宛用及封田并諸財物若有國郡司乖理犯用者即解見任官依法科罪永不用

大納言正三位藤原朝臣永平宣備奉勅如件天平寶字八年十一月十一日

類聚國史曰聖武帝十八年五月庚申禁諸寺競買百姓墾田及園池永爲寺地

令 義 解

一僧尼卜相吉凶及小道巫術療病者皆還俗凡僧尼非在寺院別立道場衆教化云云

注曰謂道場教化須還俗離立道場而不教化者須科違令毀去道場

凡僧尼不得私畜園宅財物及輿販出息

注輿販賤買賣也出息貨物生子也凡僧尼犯此法者其物皆沒官

弘太政官謹奏

垂化設教資章程以方通道俗訓人違彝典而即妨比年在京僧尼不練戒律淺識輕知巧說罪福之因果門底應頭詐誘都裏之衆庶內讀聖教外虧皇猷遂令人之妻女動有事故自剃頭髮動稱弘法輒離室家無懲綱紀不顧親夫或負經棒鉢乞食於路衢之間或僞誦邪說寄迹於村邑之中聚宿爲常妖訛成群初似修道終爲奸亂永言其弊特須禁斷望請京城及諸國國分遣判官一人當其事嚴加捉搦云云制可之

養老六年七月十日

日本後紀曰延曆十四年夏四月庚申勅云云去延曆四年制多乘法云云落髮遜俗本爲修道而淫濫如此還傷佛教非徒穢法門了所亂國典僧綱率而正之不得更然

同流僧良勝於多禰島以與女同車也頭書續日本紀曰弘仁年中犯罪僧藥師良勝被配多禰島云云

弘乾政官符

禁斷僧尼出入里舍事

出家之人本事行道今衆僧多乘法旨或私定檀越出入園巷或誣稱佛驗誑誤愚民非唯比丘之不慎教律抑是所司之不勤捉搦也不加嚴禁何整緝徒自今以後如有此類擯出外國云云

延曆四年五月二十五日

大政官符

應禁制僧俗飲酒及贈物事

頃年習俗澆薄飲宴无度損人費、物職此之由是以前年正月二十三日殊施嚴科重加禁止唯爲俗人制茲淫費即於僧侶有何嫌疑然恐有破戒濫行之輩違佛敎乖王法不知有識之嘲無顧護法之厭宣所司條示僧綱下知諸寺嚴加禁遏勤致清淨若有違越者必錄其名送所司科罪一如法條又出家之人理無生產唯仰一鉢當有何蓄而今或聞試業之時資供豐盈贈遺煩費一以身素清貧無階營設者雖有高才難果其業豈云釋迦之元意緇徒濟行乎自今以後宜禁僧侶飲酒及贈物若有僭犯其罪準上僧綱三綱知聞不糾及隱忍不言即與同罪曾不寬宥

貞觀八年六月四日

弘大政官符

應許晝日男入尼寺女入僧寺

右大政官去五月二十八日下左右京畿内七道諸國符備大政官去弘治三年四月十六日符備大納言三位藤原朝臣園人宣奉勅僧尼之制事明令條男女之別非无禮法頃者諸寺僧尼其數寔多外記勝因内虧戒律精進之行无顯淫犯之狀屢聞僧綱顔面不如提攝官司寬宥无心糾正又法會之時懺悔之日男女混雜彼此无別非禮之行不可勝論敗道傷俗莫甚於斯永言其弊理合懲肅宜令京職并諸國勝示部内諸寺并所有道場令加禁遏云云如聞士女級慕禮佛倘畏皇憲不得向寺具以慈悲之道一子猶口圍繞之場四象半釋宜在白晝任令出入但至夜時固加禁止云云

今按ニ昔ハ男子ノ尼寺ニ詣シ女人ノ僧寺ニ詣スルハ嚴禁ナリ其後漸々ニ弛ニ非法甚シキ故コ、ニ至テ晝テハ許シ夜テ堅ク禁セシレシナルヘシ顔面ハ俗ニ云ヨキカホテスルト云コト也

弘大政官符

禁凡下百姓將田宅園地賣買與寺事

右案田令云凡官人百姓並不得將田宅園地捨施及賣買與寺又天平十八年五月九日符備諸寺競買百姓園田園池永爲寺地宜加禁斷如有違犯日本後北朝賣買人並依法科罪又延曆二年六月十日符備自今以後私立道場及將田宅園地捨施并賣買與寺主典已上解却見任自餘不論蔭贖决杖八十官司知而不禁者亦同罪者被右大臣宣備奉勅如聞或寺詐附他名實入寺家如此之類往々而在前後雖禁違犯猶多此而不肅豈曰皇憲宜前施捨賣買田宅園地于細勘錄附使申上自今以後復有此類咸皆沒官以懲將來

延曆十四年四月二十七日

右數條コノ寺ノミノ令ニアラサルコトアリトイヘトモソノ比ノ寺院僧尼ノ政并ニ男女信詣香火等ノアリサマツマヒラカナレハ國分凡寺院ノ魁首ユヘコ、ニ略舉シテ今時ノ寺院亂雜法ナキニ異ナルヲ見コレニテ宥範冤獄ニ死セシ罪ナキモ必シモ罪ナキニ非ス福島寺田ヲ收取セシ非法モ必シモ非法ニ非ルヲ見又總シテ寺院文書等ノ得失ヲモ見ルヘクス前條出處ヲ出サ、ルハ三代格ニミユ

法道寺 山伏アリ水野家ノ時ヨリ今ニ至リ例年六月朔ハシメテ其年ノ新米ヲ献ス由緒書ニ

後深草院ノ御宇三條右大臣藤原法道ト云人實治二年ニ開基セルニテ愛宕山華嚴院法道寺ト號ス貞享中ノ火災ニ傳來什物類等悉ク燒失シ杉原ノ墨付ワツカニ殘レリト云附錄ニ出ス

今按ニ 後深草ノ御時公卿遠國ニ寺觀ヲタツル事イフカシ此二村ヲ御領ト云ニテオモヘハ或

ハ三條家ノ庄園領地ナリシヤ或ハ長講堂領ナトノ如キ處諸國ニ散在シテ御宇ヲハ加ヘシヤ法道或ハ寶幢法幢ニツクル

憩亭ニ 田村 柳原

古跡 茶臼山城

六戸備前守隆家備後古城記 備中府志 一本古城記曰享祿年中長州ヨリ此所ニ移ル大内家臣後毛利家ニ仕フト云

菊池肥前守備後古城記

今按ニ菊池ハ陰徳太平記ニ見エテ杉原壓下ノ將ナリ此人嫡子右近允トモニ戦功多シクハシク總叙ニ出ス

安田文治

備後古城記ニ天文年中ニ居シト云

湯野村

福山ヨリ二里東北ニアタル村東西十町南北十一町北公領本郡西中條箱田ノ二村ニ接ス

田 畝

百二十一町七反一畝二十一步 内畠三十九町一反二畝二十九步

歳 額

千四百五十四石一斗八升七合 内畠三百十六石七斗

戸 口

戸百六十七 口七百三十一内女三百三十五僧四替一

畜

牛八十 馬三

溝渠

高屋川 平野村界ヨリ川北村界マテ堤長八十五間

トウ々川 下御領村ト此村ノ界ニアリ長八百二十間

大坪川 水源西中條村具谷深水山田三淵合シテ高屋川ニ入ル長九百十四間

大溝一派 高淵井手ヨリ支レ川北ニテ高屋川ニ入ル

堰 關

堰三

高淵井手 此村川北兩村ノ田用水ナリ

馬崎井手

同 右

トウ々平井手

開五

トウ々谷 兵庫溝二 大坪 馬崎

池 塘

中陣池 周四町十四間アサナ丁屋ニアリ此池ノ南曲ヨリ大聲疾呼スレハ西ナル山半ヨリ答應カフル事

アサヤカナリコ、ヨリ中條ヘ行潤隄ノ南ニヨリタル處ニテ呼ヘハ中條ノ深見谷ノ東ノ嶺ト此嶺ト

兩方ヨリ答フ伊勢ノ宮川又志摩ノ磯邊ノ北ノ岡ニ鸚鵡石アリソノ類諸所ニアリコ、ハ石ニモアラ

ス岡ノ窪キ所ニ聲アリ元ノ張翥詩ニ僕夫相呼岩壑間空響應人作人語ト云コレハ潤道屈曲ノ間トミ

ユコ、ハ野中ノ小岡ナリ一種來聲ヲウケテアトヘカヘス處アルト見エタリ

小山池 周九町

福田池 周四町

小池二

橋 杓

石梁五

堀一

廟 墓

山王社 山王山ニアリ祭神日吉ト同シ生土神也九月申ノ日ヲ以テ祭ル申ノ日モシ三日アレハ中ノ

日ヲ用ユ

小祠三十 内ニ兵庫神ト云アリ明細書ニ云鳥井兵庫ハ此村ヲ領セシ時憫農ノ心深カリシユヘ神ニ

祝ヲトウ々川ノ堤ニアリ矢田氏ノ兵庫カ郎等ノ裔ニテ今モソノ宮ヲ守ル此アタリ城ノ内トテ兵

庫屋鋪ノ跡ナリト云又道景神ト云二社一ハ中陣一ハ久貝尻ニアリ宮次郎左衛門ヲ祭ル道景ハソノ

實名ナルヘシ

六郡志に砂橋の北に山名か勸請せし三島明神あり今荆棘のみにて祠は見ぬすといふ

竹繼塚 同書に又次郎左衛門塚といふ杉原か時竹繼次郎左衛門といふ者此所を領す此村は用水不

自由なる村なり高淵の井手早魁の時は川北へ十五日此村へ十五日水をとりて其費の三分の二つは

川北三分の一は此村より出す竹繼或時手柄ありて恩賞として夏中はねつるべ一からの水をたまは

るそれよりして今に至りそれたけの水をとる事は此村はいふにおよはず川北よりもどかむる事あ

たはず是を竹繼の一から水といふ塚は砂の橋の北十歩はかり北に行て田の中にありと云

兵庫塚 山王山端ニアリ

六郡志に杉原の比の事にや鳥井兵庫といへる郷侍下御領村國分寺の脇城の内といふ所に居住し下

御領の内向湯野といふ所より此村へかけて二十貫ほどの所を領す上御領重政氏の女を妻にむかへ

けるが往古より用水不自由なりけるにや舅より引出ものとして一夏に三日三夜つゝ用水をまいら

すべしと約束しけるより兵庫地はかりへ三日三夜つゝ二度水を引けるいつの頃よりか二日二夜つ

ゝ二度にて一村になりぬ其間遠くして掘濬の墜費ありといへども古來よりの毎例としてかくの如

しといふ是を湯野村の引出の水とも兵庫水ともいふ所名にはあらず今においてたえず

梅樹塚 中陣ト云處ニアリ梅一本アリ宮次郎左衛門コ、ニテ討死セシ塚印ナリト云此人ノ事陰徳

太平記ニ見ユコ、ニテ戦アリシ事ハ傳ハラス然トモ中陣ト云所アリ陣所ノ跡ナルヘシ

伊平左平二人墓 ムカシヨリコノ村ニアリト云ツタフ今ソノ所ヲシラス二人ハ入江大内藏カ家僕

ナリ大内藏ヨリ以前ノ事ナルヤ主人親ノ隣ヲ報スルトキ忠ヲ盡セシト云

古塚十一 内二塚ハ口ノヒロサ一間四方フカサ四間アリ古塚ノコト千田村ノ所ニクハシ他村コト

タクシルサス

塔 寺

東福院 湯野山松岡寺真言宗明王院末寺本尊ハムカシ此村湯迫ト云所ニ温泉出シ時ノ湯薬師ノヨ

シイヒ傳フ大内ヨリ杉原マテハ領十貫アリシト云

小佛屋四

憩亭六 中溝 正傳寺 溝上 溝下 中陣 平尾寺

古 跡

山王山城

宮次郎左衛門尉景則 一本古城記ニ云天文中此所へ移リ山名忠興ノ爲ニ攻落サレシト云道景

ト云ハコノ人ノ父祖ナリシヤイヒ傳ル事モナシ



平野村

福山ヨリ一里二十町東北ニアタル村東西十九町南北五町

田 畝

八十三町五反四畝二十六步 内島三十三町七反二十二步

歳 額

千四十八石六斗二升六合 内島二百八十五石二斗二升

戸 口

戸百四十八 口六百九十四内女三百四十七僧一外穢多九十六

畜

牛八十一 馬八

溝 渠

高屋川 下竹田村界ヨリ川北村界マテ南堤千八百二十二間北堤五百八十間

大溝二

小溝二十一

皆高屋川ニ入ル

堰 開

堰二 安森井手 竹正井手

開四 竹正石樋 安森石樋 セキトウ石樋 木クリ樋

池 塘

中池 周三町四十八間

小池十八

橋 約

砂橋 高屋川ニワタス九州街道ニアリムカシハ板橋ナリシテ明和八年石橋トス石欄干アリ長八間

二尺六郡志ニ板橋ノ前ハ土橋ナリシヨシミユ

石梁二 藏元 立土

假橋六

山 溪

戸ノ山 黄葉山ニツク

嶺三

岡 猪追コエ

菅野谷 下竹田ハサマ谷ニ通ス

名越谷キレコシ峠 下竹田灘谷ニ通ス

谷十二

圃五

廟 墓

八幡宮 名越谷

清瀧大明神 石田

小祠四十三

塔 寺

法樂寺 龍池山真言宗明王院末寺天長年中ノ創立ト云寺内ノ山ノ岸ニ穴アリムカシノ壙ナリト云

ソノ深サ知ル人ナシモト末院十二領四十五貫アリシト云

観音堂 観音寺谷ニアリ山伏華嚴院持ナリ観音寺ト云寺跡ナリト云

小佛屋三

憩亭五 古市 菅野 竹正 砂 石堂

平野路東西岐中岐欲迷爲困投宿近不長夕陽低

西山正

平野路東西岐中岐欲迷爲困投宿近不長夕陽低

平野憩亭留別某

間遊幾日爲詩忙看月吟雲心欲狂別手憩亭微雨外秋山顏與別愁長

古跡

古城山 古市ニアリ南西北面ハ川北村ニアリ東面此村ニアリ城主ハ川北村ニ詳ニ出ス此村ニ屋嘗

氏ナルモノアリ古書數通テ家藏ス大内毛利家ノモノナリ附録ニ出ス

福山志料卷之十四終

福山志料卷之十五

川北村

福山ヨリ一里十四町東北ニアタル村東西十七町二十八間南北十町四十五間申明亭榜示七枚アリ

水野家ノ時福島家ヨリ引渡帳ニハ川南川北一村ニテ麓村ト云西邊ニ二十軒屋ト云所アリモト人家

アリテ一村落ナリソノ村中ニ高屋川流レソノ南チ川南分ト云シヨシナリサレハ麓村ト云ハ山ニチ

カキ所ノミナルヘシ今驛用チ南北二村ニテ供シ二村チ神邊ト云ムカシ神邊ノ庄ト云ハ岩成ヨリ東

諸村ノ總名ナリシヨシナリ

神邊驛

カンノヘ亦カンナヘトモ云西國ヨリノ先觸狀ニ神名邊トカキタルモアリ

今按神邊明神ハ事代主命チアハセ祭ルユエ神奈備爾坐須事代主命ト云出雲國造祝詞ニヨリテ庄

ノ名トストモキコユ神奈備チ神邊トモカクコト仙覺萬葉抄咏鳴鹿歌ノ條ニ三諸之神邊山余チみ

つもろのかみへのやまにト傍訓シテ抄ニ云此句古點にはみひろなるかみのへやまと點すみひろ

のかみのへ山いまたさともよはすおはつかなしよつて和換云みひろのかみなみ山と云へしみ

ひろのかみなみと和すへき事は部の字へとよめども所にしたかひてひとよめり備の字ひなれと

もところにしたかひてへとよひひとへとかよふ事つねのならひなりこれ同内相通なり尋云ひと

へとかよふ事は不審なし神邊はかみなへやかみへをかみひとはいふども文字に見ゆるなをよ

みかくしてかみなみとなせるをはいかこ心得へきや答云此事まことにたつねられたるに似たり

しかれどもこれ案の内也傍例によりてよひなりたどへは海上とかけるうのかみといふへし海の

義なり然ともうなかみと云水上みのかみといふへししかれどもみなかみといふ田上山たのかみ

やまといふへししかれどもたなみやまといひこれみなのをなとよふ同内の男聲をよふなり更に不可有不審云々歌枕名寄ニモ神邊山ノ注ニ或抄云神南備山也案云神之邊之山ニ可和歟是只神南備山之變本也但先達歌枕神南備山之外無之神ノ山ト云云兩條オナシク大和ノ神南備ヲサシ云ナリ高橋元赤ト云人旅寢してさくそさひしき神なみの驛の秋のすゝむしのこゑトヨミシコトアリ元赤ハ備中笠岡人同所小寺清光ニ學ヒテ略和書ニ通スコレヲノ書ニヨリシヤ

圖書編并ニ東夷考略ニ備後ノ地名ヲノセテ千奴鼻ト云アリスナハチカンノヘナリ鴨祐爲コトニ來レルトキ物ノ名ニかりころもはるのいく日も契リをかむのへのさくらの花の下かけトヨメリコレラモカンノヘトトナフル意ナリ今按名蹟考<sup>五字</sup>ニかみなみはもと神戶なるへし其近隣に坐す所の大社の神戶なり中略攝津國八田部の郡にかうへといふ處あり中略かの村は生田の社の近境にあれば當初當社の神戶なりしゆへかうへとは云なるへし又備後國某郡にかんなへといふ所あり當時神邊とかく是亦同じく神戶なるへし神戶を處々にてかうへかんなへかんのへかうなひかみなみかうとなどいへるなりいづれも通語なればなり中略凡萬葉集にかきたる文字一様ならず神名備神名火神奈備神南備神名見甘嘗備甘南など書り後世の俗稱に付て神並神波神内神邊神部紺部頭部押邊上部上邊などは書たるなりこれらも神戶の轉たるものなり中略垂仁帝紀云仍更定神地神戶神戶は神社に役仕する者の居在の地をいふ云云トミユコ、モ豊姫神社ノ下ニアレハアルヒハ神戶ナルヘシ水野記ニ甘濃殿トモカケリ

神邊ハ山陽道ノ驛ナリ人馬ノ用一月ノ内上十五日ハ川北村ニテ辨シ下十五日ハ川南ニテツトム休泊ハミナ川北村ニ引受テ本陣アリ福山ヨリ一里十四町木綿橋ノ北塊札辻ヨリ此村ノ札辻マテ云札辻モト川南ノ界ニアリシヲ寛政元年七日市ニウツス元札辻ヨリ今津驛へ三里三十五町二十間高屋驛へ一里二十四町三十間アリ町名古市七日市後町三日市ハ川北分 紺屋町十日市ハ川南分ナリ

田 畝  
百二十八町二反四畝十八歩 内畠四十四町二反八畝二歩

歳 額  
千五百九十一石七斗一升八合 内畠四百四石四斗九升七合

戸 口  
戸二百三十六 口千七十七内女五百三十一僧十替二

畜  
牛九十 馬七

溝 渠

高屋川 平野村界ヨリ川南村界マテ堤長千二百六十一間此川元藤ニテ鴨川ト合スモト鴨川大ニシテ高屋川ヲ受ク今ハ鴨川ハ水涸ルコト多ク高屋川ハ常ニ流レテ且地勢モヒキ、ユヘ鴨川ノ水高屋川ニ入ル也一小流亦變遷アリ

天井川 砂川水源中條村ヨリ出高屋川ニ入ル

箱田川 新川トモ云水源天井川ニ同シ高屋川ニ入ル二川常ニ涸ク

大溝 高淵堰ヨリ出テ湯野川北ヲスキ高屋川ニ入ル又元藤ニ溝三派アリ道上十九軒屋ノ餘水ナリ

捨石溝 捨石ノ堰ヨリ支レ歸谷澗流及平田池ノ溝等ヲ合シ川南ニ入横尾ニテ高屋川ニ入ル

蕩 プンコ堀ト云紅葉山ノ下ニアリムカシノ塚ノ、コレルナリト云至小ナリ或ハコ、ニブンコト云人アリテソノ人ノ庭池也ト云モト傍ニ竹林古墳アリシカ今ナシ

池 塘

平田池 南ト云所ニアリ周三町三十四間半

小池三

堰 圃

堰三 一ハ捨石ニアリ川北溝側ノ田及川南用水ナリ一ハ大仙房後ニアリ小井手ハ井ノ端箱田川中ニアリ

沼一 元藤ト云村ノ西隅ニアリ優瀧汗邪ナリ山東ニ沼ト云ハ湖柳ナリ此ソノ類ニアラス沼ト云ハ村人ノ稱ニシダカフコノ元藤隼屋川中ヲ隔テ、兩傍ニアル故川南ニモアリムカシノ穴海ナリナチ辨説ノ所ニ出ス

剛一 捨石井手ニアリ石樋ナリ

橋 約

懸ノ橋 山野往還カケト云所ニアリ板橋ナリ長サ十二間幅六尺七寸五分カケハ川ヨリ北ニアリコ、ニ家アリシコト甚ムカシノコトニアラス川埋レ水野中ニ溢ル、コトシハシハナルユヘ人家ミナ堤南ニウツル六十年前ハ十五六ノ童子水ニ浴スルモノ首ニ壺ナツケテ游泳セシテ見及タル人アリ近比マテモ平野サカヒナル柱立ト云淵ハヨホトノ間藍色ニテ兒童ハオソレシ處ナリシカ今ハ淺瀬ナリ此村ヲ川北ト云ハ川深シテ溢サリシサキ人家北ニ多カリシナルヘシ

獨木橋二 一ハ大仙房橋ト云大仙院ノ後ニアリ一ハ領家ニアリミナ高屋川ニカ、ル石梁三

山 溪

紅葉山 神南備ノモミチ萬葉ニ黄葉トカク六如詩集ニ此山ヲ黄葉山ト云又柴博士粟山五古ニ一臥黄葉柯七絶ニ黄葉柯中郷飲酒ト云モミナコノ山下ノ村ヲサスナリサレハ黄葉トカクヘキナリ

渡 邊 忠

青葉をばわけ歸るとももみち山あきのにしきをまたや来て見ん  
忠ハ豫州人俗稱友左衛門晚ニ剃髮シテ圓淨ト云

西 山 正

三原のうめ見にいさしとさ神邊を過て  
いつかまた霞の衣たちかへて紅葉の山のにしき来て見ん  
しはらくいくさわりしところとさ

同

紅葉山むかしいられていまもなほ木々の千入そ秋をあらそふ  
神邊の黄葉夕陽村舎にやとりけるとさ

鴨 祐 爲

山の名のもみちにうつる夕日影さしいるやとばくれもいとがす  
祐爲ハ下鴨祠官ニテ正四位下俗稱梨木上總介有職ノ名タカキ祐之孫ナリ  
神邊の里に黄葉山といふかわりとさきて某へまらす

伴 嵩 蹊

あひにわふ若か詞の錦ゆへ紅葉の山も光そふらし

日笠 嵩蹊ハ近江人崎人傳開田耕筆等ノ外著撰ノ書多ク印行ス女文字ノ文ヲ善スルニ名高シ

三島

三田尾 亦岩取山トモ云イツレモ紅葉山中ノ峰ニテ平野宇山等ミナ一ツノ山ナリ一説ニ神邊明神

ノ祠モト山ノ東平ニアリ六郡志ニコノ明神ノ神木紅葉ナレハトテ山ノ名トスト云

茶臼山 野中ニアル獨山ナリ西山詩中ニ茶山ト云コレナリ

谷二 網付 カヘリ

潤一 廟 墓

神邊大明神 紅葉山ニアリ祭神三坐豐玉姬命素盞鳴尊事代主尊ナリ川北川南ノ生土神

延喜式神明帳天別豐姬神社コレナリ

三代實錄元慶二年十一月十三日甲辰授備後國天別豐姬神從五位上

和論語備後國天別豐姬大明神神託ニ云益人よわめよりなせるわさをつとめ地よりなせるわさをつとめて高きをうやまひ下をみちひき直き心をそたてしみかやをまつれをのつから神のいさをなめん社司平佐氏ノ家ニ傳フル昔略ニ水野家當國御初入ノ節御立願依成就御城御鎮守之神と御尊敬わり領主代々祈禱仕來り候又福山開城之時地祭等も執行仕夫より毎月御城之御祈禱申上候散米とし

て白米一石二斗鶴目四貫文宛神納仕候トシルセリ事長ケレハノセス

六郡志に云水野家の時は御神樂料を被獻代參立られしかども松平總州侯の時より止めと云又云社司平佐氏は吉田家の鈴鹿氏の由緒ありて宮内か父をば鈴鹿右衛門大輔といひそのとち故ありて今の姓に改む宮内ハ今ノ福官ノ祖父

八幡宮 古城山ニアリ

小次郎大明神 秋丸ニアリ祭神少名彥名命ト云一ニ小白トカク昔吉備尾代ト云人アリ總叙ニミユ

小白ハ和訓ニテ同シノ人ニハ非ヤ

小祠十四 内ニ青龍大明神アリカケノ宮ト稱ス六郡志ニ九つあかりの宮かけに有トミユレトモ今

シル人ナシ或ハコノ青龍明神ニアタレルヤ

塔 寺

萬念寺 佛見山淨土宗知恩院末寺開基年代シラス福山開城ノ後證誓上人此寺ヲ移シ建ツ見佛山大

念寺ト號スコレ其跡ナリムカシ豐臣大閣九州下向ノ時常寺へ興テヨセラレ呂紀カ蓮ニ鴛鴦ノ二幅

ヲ賜ハル其畫今ハ福山大念寺ニアリト云寺ニ黒本尊ト云佛アリモト紅葉山城内ニアリシヲ福島丹

波退去ノ時ソノ筭ナル半人畠山氏ニユツル畠山ヨリ又此ニオサムト云水野記山號村尾山トミユ

寺内ニ石柱ノ地藏堂アリ戸田屋彌助由椿ト云者ノ女ノ墓ナリコノ由椿頗豪農ニテ奢チキハメ嗣子

彌助カ代ニ落魄ス今ノ本陣ノ瓦ニ松皮菱ヲツケタルハソノ家ノ紋ナリ法樂寺ノ觀音堂西福寺ノ地

藏堂ソノ外ニモ由椿カ建タルモノ多カリシカ今コノ三ツノミノコル此等ハ年月近ク郷里同シケレ

ハ歴然タルヘキニ村中ニテモ知人ナシマシテ數百年前ノコトヲヤ往事茫々一概スヘシ

光行寺 角間山淨土眞宗光善寺末寺福山ノ城成就ノ後神邊光善寺チカシコヘウツスソノ跡ナリモ

ト古城山下ニアリ後ニ今ノ所ニウツス

龍泉寺 新宮山曹洞宗龍興寺末寺此寺モト川南會下カ窪ニアリ利山道器居士ト云モノ建立ニテ開

山祖堂和尚ナリイツレノ時代ト云コトヲ知ラス福島丹波紅葉山ノ城ニアリシ時今ノ返リ谷ヘ移シ

天和年中水野家當城ヘウツラセ玉フ時參州ヨリ龍泉寺ヲ召連ラレ當寺ヲ宿トス福山開城ノ後カシ

コヘ引テ慈雲山龍興寺ト號スソノ跡今ノ寺ナリ寺中ニ車返シノ櫻アリ

車返ノ櫻

雪天和尙ト云住持ノ時南都ノ車返ノ枝ヲ折來リテ接木トスト云桐ケ谷ト云櫻ハ八重ノ中ニ一重ノ

英マシレリ花見シ人八重ナリ一重ナリト云争ヒニ車チカヘシテ見タリト云コトヨリ桐ケ谷ノ一名

ヲ車カヘシトモ云此花スナハチ桐ケ谷ナリト云三四十年前ハ花見ノ人多ク枝コトニ短冊ヲツケテ

青葉紅實ノ頃マテ殘リシニ近頃ハソノコトナシ花モ亦昔ニ劣レリ此寺ノ堂方丈モト東ニアリテ庭  
ヒロク日影ヨクサシマハリシ時ハ枝條多ク榮ヘヒロコリテ今ノ玄關マテモト、ケリ堂方丈ヲ引マ  
ハサントセシ時此寺ホトノ寺ハ近所ニイグツモアリ此花ホトノ花ハ隣國マテモナケレハ屋宇ノ大  
ナランヨリハ花ノ榮ヘンコトヲコソ佛モメテタマフヲメト云シ人アリツレトモ當住禪卓用キサリ  
シカ果シテ花ハ衰ヘカシケタリト云

加州月坡ト云僧ノ詩ニ

嘗不自雲知此閑四隣裏寺住寒山昔年只恨栽花得吹送香風滿世間

字誤アルニ似タレトモ意ハ通ス

龍泉寺にありて

むかし誰花にくるまやかへり谷今も櫻の春をふりせぬ

おなしとき

八重ひとへたてぬ花の色に誰こころまどひてかへす小車

志村名ハ直字ハ敬仲奥州仙臺人後ニ幕府ヨリ辟レテ書ヲ昌平學ニ講説ス

目黒新左衛門秋光墓

目黒カ事クハシク古戰場ニ出ツ

今按目黒カ墓ト云モノ紅葉山ノ北ノ麓ニモアリ此寺イマタ移サレサルサキナラハ舊ノ處ニアル

ヘシ此墓モ寺ト共ニ移セシニヤ

西山正

あはれなりちりし紅葉の山かけに名はうつもれぬ昔の古塚

位 牌 一

前丹州清閑道徹居士 コレハ福島丹波ナリ筑前福岡士人某江戸往來ニ必參詣ス丹波カ裔ナルヨ

シナリ

西福寺 普門山真言宗明王院末寺福山城成就ノ後神邊ノ胎藏寺ヲ吉津ヘ移スコレソノ跡ナリ

西山正

不管山僧閑與忙探梅看竹借禪床爐頭半日吟詩去滿院松濤滿鼎香

藥師堂

七都市ニアリ御濱山長福寺ト云號アリ山伏大仙院ノ持ナリ堂ハ十年前ニ燒失ス佛像ノ外

ニ立烏帽子著タル像一ツ裝束シタル婦人ノ像一ツ七條ノ袈裟カケタル僧ノ像一ツアライカナル人

カシレス近比ノ火災ニ木像ハミナ燒タリコノ修驗昔ハ著レタル家ニテ此ニ城アリシトキハソノ城

ノ祈禱ノ事等チ司ルト云コノ像アルヒハ修驗カ一族祖先ノ人ナルヘシ六郡志ニ 白河院御建立

小佛屋一

憩亭三 カヘリ谷 秋丸 カケ

題歸谷憩亭

西山正

攀岩曳杖下崢嶸懷古情兼暮鷺生還有同人記遊涉情毫先補舊題名

古 蹟

穴海

穴濟 倭武尊コ、ニテ惡神ヲ平ケ玉フコト日本紀ニミユ元藤ノ北邊マテ入コミシ海ナリ辨説ノ條

ニ詳ナリ

紅葉山城 陰德太平記ニハ神邊道ノ上ノ城トアリ道ハ九州街道ヲ云ナリ

開創淺山備後守條就 備後古城記ニ建武二年乙亥十一月二十六日城ヲ築ト云

今按ニ太平記ニ淺山備後守備後ノ國ノ守護職ニ補セラレテ下向セシトキ兒島高德ノ兵ヲ合セテ備中國福山ノ城ヲ攻シコトミユ 天皇船上ヨリ還幸ノ時朝山五郎家就一作後拒タリシコト 参考太平記大日本史ニミユコノ人ノ一族ナルヘシ條就コノ後イツノ頃マテ在城セシヤ詳ナラス 大日本史山名時氏傳ニ十七年壬寅夏六月使富田直貞宮内省略備前備中備後十九年時氏使人請義詮 曰臣與將軍舊無嫌疑今所以起兵將討佐佐木高氏以懲後耳願將軍幸赦臣擅起兵罪賜以臣所略定諸 國則效節有如前日也義詮喜曰山名隆則中國平官軍衰矣乃赦之云云トミユ程ナク降參シテ略セシ 國々ヲ乞受シテミレハコノトキ備後ヲ領セシナリサレハ淺山條就ハ正平十七年以前ニ亡シニヤ 鹿苑院殿嚴島詣ノ記ヲ見レハ山名一族備後ニ在城セシコトアキラカナリ 源貞世鹿苑院いづくし詣ノ記に今日備後より山名宮内少輔まいはれは御のほりに尾路を御らん せさすへさ由申す父の左京太夫伊豫守はやまひによりて不參ト云云山名全盛シテ十一个國ヲ領 シ六分一殿ト稱セシトキアリ備後モソノ内ノ一國ナルヘシ左京太夫ハ時氏ナリ宮内少輔ハ時氏 十一子ノ内ニミエス後ニ宮内少輔氏興ナシキ氏政ミユ或ハ氏清氏重並ニコノ稱アリソレテ獲 稱セシ裔孫ナラン

山名近江入道丈休 備後古城記ニ嘉吉三年八月四日城ヲ再築クト云按ニ山名カ一族明德ノ亂ニ 亡ヒテ國ヲ失フソレヨリ嘉吉三年ニテ凡五十餘年ノ間何人カ領セシニヤ氏清亡ヒテ時熙氏時ノ 二人ハ將軍ノ御方ヲ勤メシカハ一族ヲハナレテ國ヲ賜ハリ氏家モソノ時ノ亂ニアツカルトイヘ トモ故アリ罪赦サレテ三家起レリ宗全入道ハ時熙カ子ニテ嘉吉ノ亂ニ赤松性具カ白旗山ノ城ヲ 討ヤフリテ性具ヲ誅ス其功莫大ナレハトテ播磨ノ國ヲタマハリ一族モ勳賞行ナハレテ此時ニ元 ノ如ク備後ヲモ賜ヒテ一族近江入道丈休ヲ置キシニヤ後太平記ニモ丈休カコト見エス應仁ノ頃 宗全カ領スル國三個ト見エテ重修應仁記讀史餘論等ニ宗全カ勢但馬播磨備後並ニ諸國ノ被官

三萬餘人トアリコレヲ以テ見ルニ古城記ニイヘル入道丈休嘉吉三年城ヲ築クトアレハ嘉吉ノ功 ニ備後ヲモ賜ハリシナルヘシ應仁ノ亂ニハ備後ハ山名彈正是豊カ領セシト見エタリ宗全三ヶ國 ノ領主トシテナノレハ但馬國ニ居城ヲガマヘ備後ヘハ是豊ヲ遣ハシテ置シナルヘシ應仁別記重 修應仁記山崎天王合戰ニ記スル所ノ始末ヲコ、ニ出シテ後ノ考ヲマツ是豊ハ宗全 次子ナリ 山崎天王山合戰之事應仁別記重 修應仁記 于斯先年ヨリ山名彈正是豊ハ一族ヲ離レテ御所方トナリ攝 州兵庫ニアリケルカ京都ヘ上リ東陣ニ勝元カチ合スヘシトテ山崎ノ天王山ヲ城郭ニ拵ヘ先ツ是 マテ攻上テ彼城ニ楯籠リ上下ト相抱ヘテ西陣兵糧ノ道路ヲ遮リト、メ淀島羽八幡ヲ攻ケレ ハ山名方ヨリ受手トシテ畠山右衛門佐義就西ノ岡ノ勝龍寺ヲ陣城ニ拵ヘ是ヲ防ク大内政弘モ上 山城ノ狛ト云所ニ城ヲ拵ヘ究竟ノ兵ヲ遣シ置キ山崎ノ敵徒淀邊ヘ働カハ押留メント支度シテ已 ニ合戰ニ及ハントス然ル處是豊カ領地備後國ノ住人山内新左衛門カ館ヘ宗全入道ノ留守ニ置レ シ一族宮田備後守多勢ヲ率シ攻來テ備後峰起ノ由ヲ告ル敵モ敵ニコソヨレ急キ是豊下向シテ此 敵ヲ追拂ヒ領國ヲ平治セシヨシ、キリニ東陣ヘ訴狀セシム其時御所ノ評定ニハ是豊下向サセ 山崎ヲ其マ、置ナラハ敵ニ取レテ悪カルヘシ赤松次郎政則人數ヲ割分ケ番替リニシテ彼城ニ可 指置由上意トシテ被仰下時ニ政則ハ當陣受取ノ持口差抱エル上又山崎ノ城ヲ守リ難キ由再三辭 退ス勝元收長山意見ヲ加テ申サル、ハ山崎ノ拵ヘハ第一武功ノ入ル處是ヲ守ルコト軍忠比類ナ シ其上先代ニ貴方ノ先祖圓心義兵ヲ揚ラレシ始此處ニ攻上テ關東ノ大將名越尾張守高家命ヲ隕 テ終ニ兩六波羅攻落サレヌ吉例トモニ分明ナレハ辭退セラルヘカラスト様々ニ諫メケレハ政則 スナハチ領掌シ山崎ノ要害ヘ番兵ヲ出シ置ハ是豊即日備後ヘ下向シケリ下略コレヲ以テ合セミ レハ備後ノ國ハ是豊カ領國ナリシコト疑ナシ

山名宮内少輔興氏後太平記ニハ 氏政ニ作ル 後太平記卅八ニ備後國神邊ヲハ山名宮内少輔氏政當國ノ探題職ニ

補セラレテ在城ストイヘ去天文七年七月大内兵部卿義隆卿ノ爲ニ誅セラレテ行方シテラスト云  
杉原宮内少輔忠興 備後古城記ニハ山名宮内少輔トアリ  
殘太平記後太平記並杉原トアリ

殘太平記ニ天文七年七月大内義隆ノ爲ニ山名興氏ヲ追出シテ其勳賞ニ神邊ノ城ヲ賜ハルト云  
陰德太平記ニ大内義隆富田發向ノ時ヨリ雲州尼子晴久ニ屬シ威ヲ震ヒ天文十七年大内家ヨリ大  
軍ニテ攻來リ平賀太郎左衛門隆宗ト同シキ十九年十月マテ三年ノ間對陣シ平賀ニ城ヲ渡シテ雲  
州ヘカヘルト云六郡志ニハ理興トアリ事總叙ニ出ツ姓名ノコト辨説ニミユ

平賀太郎左衛門隆宗

六郡志に天文十九年より弘治元年まで城主たる事六ヶ年と云

今按ニ大内記ニハ神邊ノ陣ニ死スルトミユレハコ、ニアリシハリノ子弟一族ナルヘシ事平賀カ  
傳ニクハシ

杉原播磨守盛重

六郡志に杉原理興城をわたりて雲州へ退き其後毛利家へ降参して神邊へ歸城を願によつて元就  
平賀隆宗をめしかへされて又理興にたまひしとなり弘治元年ふたゝひ城主となり同しき三年四  
月理興卒して子なし山手の城主宗岡盛重を以て家督を續しむ盛重是より杉原播磨守と名のりて  
居城し毛利に屬して西國中國所々に軍功あり永祿十二年盛重吉川小早川に隨ひて立花にむかひ  
大友宗麟と對陣するの留守に山名か家來備中國の住人藤井能登守入道皓玄かために城を攻どら  
れしか盛重か留守所原肥後守又攻落して城を取かへしけり

藤井能登守入道皓玄

一本古城記ニ皓玄所原カ爲ニ没落シ降参シテ大門村明智山ニウツルト云

杉原彌八郎元盛

六郡志に盛重天正九年十二月二十五日伯州入ッ橋にて卒し嫡子彌八郎其家をつく元盛天正十年  
十月弟又次郎景盛か爲に殺されければ吉川小早川その罪を聲して景盛を誅し神邊の城めしかへ  
され杉原少輔五郎に三千貫の地をたまひ名跡とするのち此城を毛利の家臣交代して守ると云  
毛利大藏大輔元康

備後古城記ニ天正年中ヨリ文祿年中マテ居城スト云毛利家中ニテ交代セシ時ナルヘシ

福島丹波

福島正則ノ家臣ニテ祿三萬石ヲ食シテ家老ノ第一タリ慶長五年安藝備後四十九萬八千石ヲ正則  
ニ賜フ正則藝州廣島ニ在城シテ丹波ヲ神邊ノ城ニナク慶長五年ヨリ元和五年ノ間在城シ正則國  
除カレシトキ丹波ハ京都ニ退隱シテ終ル事總叙ニ詳ナリ

水野日向守勝成

元和五年備後備中ニテ十萬石給ハリ神邊城ニ來リ其年福山ニ新城ヲ築キテウツリ給ヒシヨリ此  
城廢ス

今按ニ備後ノ治安那國品治國ナト國造ヲタテラレシトキハ茫々トシテツタフルコトナシ國司國  
府ニ交代セシヨリ鎌倉守護ヲ置ニイタルマテハコノ國文獻タラサルモ他國ヲ推テシルヘシ梶原  
服部ニ居セシヲミレハ守護ハ要害ニエラヒ據テ國府ヲ必トセサルニヤ承久ノ亂ヲ經テ國司ノ號  
令行ハル、處スグナク守掾モ多ハ未公文ノ授領ノミナレハ府中ハ漸々ニオトロヘシナルヘシ建  
武ニ淺山備後ノ守護職ヲ命セラレハシメテコ、ニ城キシヨリ山名ツ、イテ神邊ニ據リ備後三十  
六城ノ探題ト稱スレハ神邊治所トナルコト久シ中條寒水寺ノ記録ニ本尊ノ開帳永正丁亥九月十  
八日ヨリシ丁丑佛生日開帳セシコトミユ同寺棟札裡ニ山名ヲ一分殿ト云シトキ神邊人家多ク開



帳繁榮ナリシコトヲシルス又殘太平記ニ木屋次郎長宗神邊ノ庄ニテ學問セシヨシチノスコレヲ  
ニテソノトキノ光景想フヘシ山名逐出サレ杉原ニカハリシトキハ大内尼子衡チアラソヒ諸鳩主  
モコレニソムキ彼ニシタカフ故勢力既ニ半國ニモ及ハスヤカテ毛利トナリ福島トナリ又今トナ  
ル治所ノ沿革大抵カクノ如シ

古城山

上利右近 備後古城記ニ上利マタ登トカク山名ニ從カフ城ハ平野村界ノ小岡ナリ今按ニマダ上  
里トモカク三吉ト同家ニテ行成卿ノ裔ナリ

杉原屋鋪跡

六郡志に神邊大明神の東にあり开あり長刀一振落てありと云

天徳寺跡

龍泉寺前ニ天徳寺ト云昂アリ備中横谷東正寺ノ末寺ノ一刹ナリシカ福島領ニナリシ時  
イカナル故ニヤ播州ニウツリ其後大阪天満北寺町ニウツシテ今モ存ス

秋丸

平賀太郎左衛門安藝ヨリ出丸ヲカマヘシチ安藝丸ト云シヨリ名ツクト云一説ニ平賀カ杉原  
ヲ攻シ時ノ向城ハ曾根原ニアリト云秋丸ノ茶臼山西ハ徳田村ナレハ同シ所ナルヘシ

塚田

城アリシ時ノ塚ノ跡ナリト云太閤屋鋪ノウシロヨリ妙立寺ノウシロマテ續ク

的場

城アリシ時ノ騎射ノ稽古場ナリト云古市ノ北ノ堤下ニアリ

鐵炮町

今ノ平佐大宮司カ宅ノ側小路ナリ鳥銃ノ稽古場ナリ

領家

東鑑ニ國ニ國司庄ニ領家者大略在京也ト云文アリ式目諺解ニ領家ハ領主ナリ家ハ公卿ノ美  
稱ナリト云領家ト云所コ、カシコニアリ公卿ノ領セシ莊村ニ役人ヲ、キテ支配セシムル所ヲ云コ  
ノ處モムカシ其出役所アリシ所ナリ

太閤屋鋪跡

本陣ノ向ヒニテ今ノ札辻ノ處屋鋪ノ南端ナリ備中笠岡龜川平助本姓高橋ニテ先祖某  
モト神邊ノ人ナリイツノ頃カ彼所ヘ移ルコノ家神邊ニアリシ時太閤ヤトリ給ヒテソノ時ノ藤藤椀

浴衣チアタヘ玉フ家

ニツタヘオサメシカ尊貴ノ物庶民ノ家ニツキ了シカラストテ氏宮ヘ奉納シ今  
尙アリ近キコロマテ此家ノ田地神邊ニアリシカ今ハ人ニ讓リシト云尾道ノ小川某ト云者コレモ太  
閤ノ御宿ニテ神邊マテ送り來リコ、ニテ物ヲ賜ハリシコト尾道ノ記録ニミユ藤椀等ノ圖附録ニミ  
ユ

御茶屋屋鋪

三日市ニアリコ、ニテ薩摩侯ヲ饗セラレシコトアリ五十年前ナリ今ハコホタル

甲辰三月十七日赴神邊驛途上

西山正

竹兜經過稗海灣芒鞋取路向山林幽人獨愛三春晚不問紅芳問綠陰

川上晚步分韻

同

日落茶山外翠光隔水多欲吟磯上月其奈暮寒何 茶山ハ茶丸山ヲ云

十八日次韻道光上人留別作

同

山驛儼君兼儼春斯情最是屬吾人同遊何日償前約仙跡靈區共問津

二十四日賦贈主人

同

川南川北探餘花日日逢迎醉紫霞美爾平生無俗累交遊強半是僧家

川南村

福山ヨリ一里十四町東北ニアタル村東西四十二町八間南北十六町八間

田畝

百九十七町二畝二十五步 内島五十三町二反七畝十八步

歳額

二千五百九十九石三斗四升 内島四百六十石四升九合

戸口

戸三百十三 口千二百九十五内女六百二十七僧六替一外茶筍三

畜

牛百四 馬十八

溝渠

高屋川 川北村界ヨリ加茂川マテ堤長八百七十間

加茂川 堤長七百間

岩田谷川 丙谷川 丁谷川 ミナ淵ナリ

大溝 三派ミナ高屋川ニ入ル

池塘

粟ヶ池 周十三町二十三間

豊田池 周五町五十八間

奥池 周三町四間

丙池 周五町十二間

小池七

堰剛

堰三 早田平井手 加茂川平井手 曲柳平井手今廢

剛七 早田井手 曲柳三 加茂川 片山後 古川

橋 約

石渠七

圮四

木橋三 天井川尻 オノ木 二十間屋

山 溪

丙山 丁山 岩田山 猿ソ子山

長島山 此山東ノ尾松茸山アリ名目多シトイヘトモ一山ナリミトリト云峯最高所ナリ

片山 獨山ナリ一名漆山ト云此アタリニテ田チウヘルモノタマ々小瘡ヲ生スル故此名アリト云

訂山 獨山ナリ元藤沼ノ中ニアリ沼堤高クナリテ平田トナル六郡志にむかしは此邊みな海なり此

山の石に石華殼なをのこれりと云

淵三

廟 墓

八幡宮 丁谷ニアリ

良大明神 丙谷ニアリ

八王子權現 猫見山ニアリ紺屋町早田等生土トス塞水寺記録ニ二十間屋村新開トナリシトキ鎮守

ノ八幡ヲ乞テ氏神トスソノ後社ナイカリ山ニウツスト云御園帳ニモコ、ニ八幡社アリ六郡志ニモ

ミエテ今ミエス

小祠十一

塔 寺

妙立寺 法晶山法華宗本法寺末寺由緒書ニ應永ノ頃日親上人開基ナリ事上人徳行記ト云書ニ分明

ナリト云モトハ寺領ヨホトアリシヨシナリ

光蓮寺 藥上山淨土真宗西本願寺末寺了波覽永ノ頃今ノ處ニウツシ建ツ古ヘ祐佳山淨玄寺トテ傳教ノ弟子德應開山天台宗ナリ十世行圓ト云ニ至リ眞言宗ニ改ム又九代了明ノ時存覺上人來寓シ教ヲ弘ムヨツテ存覺ヲ開基トス了明ヨリ今ノ宗トナリ了波ト云時今ノ名ニアラタムト云

宿光蓮寺贈刺主嶺松上人

僧寰海 佛通寺尼院住持福山人

祇林深處問支郎杯酒相邀宿上方醉語生眠吾且臥莫言之子倦津梁

中秋光蓮寺分秋月揚明輝爲韻得明字

西山正

前峰吐月洗塵城遠喜禪關頻見迎萬籟笙竽三界寂千秋色相一輪明盛筵且許杯中物勝景偏知象外情莫道鐘樓撞未得清光兼遍貫休聲

二十二日光蓮寺靈昌上人見招席上分雨嘯園十題余得彩霓橋  
鑑流橋幾尺架此瑤池水間踏彩霓過諸天知在邈

卽事呈靈昌上人

鳥啼花樹晚離披雨嘯園中雨霽時想得去年今日宴依然韶景對吟卮

小佛屋七 丙丁谷ニアルハ川北龍泉寺ノ庵ナリ杉原ノ時ハ大寺ナリシト云訂山ニアルハ鐘撞堂アリ

憩亭五 岩田谷ニ 丙谷 丁谷 早田

鄉葬一 ムカシ淨玄寺ト云寺アリシヲ今ノ光蓮寺ニ移セシアトナリト云六字名號石アリ小石ニテウテハ鳴ルコト鉦ノコトシ

古蹟

白雲山東林寺 本尊觀音水野記ニ明德ニ山名氏時百貫ノ地ヲヨス毛利ノ時マテ同シモト六房アリ

シカ天正中削ラレ本末コトコトク滅亡シ寛永十六年只一房存スト云今土人ニ問ニソノ所ヲシラス或ハ丁ニアル庵本尊同シケレハ一房恐クハソノコトナルヘシ同所ノ奥ニ會下ト云所アリ本房ノアリシ處ナラント云

首立場 杉原ノ時ノ礫場ナリト云今ノ立木ト云所也

餌サシ町 光蓮寺ノ南ノ小路ナリムカシ鷹師鳥サシコ、ニスム水野家ノ時マテモ田獵ノ役ツトムル人ハコ、ニ置レシヨシナリ

牢屋小路 紺屋町ニアリ

御茶屋屋鋪跡 小屋ノ内ニアリシト云今其所サタカナラス

上小屋下小屋 イツレモミナ城アリシトキノ用所ナリ

穴海 別見

徳田村

福山ヨリ二里北ニアタル村東西十五町二十八間南北十三町三十間北公領本郡箱田村ニ接ス

水野家ノ時福島引渡帳ニハ會根原村トアリマタ魂原村ト云其後今ノ名ニアラタム明細書ニ村中ノ牛馬育セス百姓困窮ノ由ヲ披露ス乃チ福山兩社八幡宮ニテ牛馬繁昌ノ祈禱アリテ此時ヨリ徳田村トアラタムト云寛文中トアリ

田畝

百六町七畝十三步 内畠三十三町七反五畝十三步

歳額

千五十九石六斗九升二合 内畠二百四十八石五斗八升

戸口

戸百六十二 口七百七十内女三百九十八僧四替三

畜

牛五十六 馬九

溝渠

箱田川 箱田村界ヨリ川北村界マテ長七百五十八間

天井川 箱田村界ヨリ川北村界マテ長七百五十八間

六反田川 上西中條村ヨリ出川北村ニテ高屋川ニ入ル長千二十六間

中川 上西中條村ヨリ出道ノ上界マテ堤長六百三十四間四川トモニ雨後ニアラサレハ水ナシ

池塘

沙原池 周六町十間

下ノ池 周四町六十二間

半山池 周五町十間

ナリロ池 周五町十間

梅木池 周三町三十間

赤地池 周五町

堰圃

堰二

橋約

石梁二

廟墓

天神宮 生土神要害山ニアリ壽永造營大内義弘社領二十五貫ヲヨス毛利ノトキ同シ

權現社 田中ニアリ十九軒屋村ノ生土神祭神一坐石凝姥命

八幡宮 モト宮ニアリ

大明神 中島ニアリ

小祠十六

塔寺

寶泉寺 龜居山眞言宗明王院末寺中興宥辨時代シラス

憩亭五 善正寺 土居 中島 中原 砂原

古蹟

茶臼山城 此山西ハ此村南麓ハ川北村ニテ秋丸ト云秋丸ノコト其村ニシルス東北ハ湯野村ノ分ナ

リ一本古城記ニハ天神山トアリ今明細書ニシタカフ

宮若狹守 備後古

山名清左衛門尉同上

平賀太郎左衛門尉隆宗一本古城記ニ平賀隆宗天文十七年ヨリ十九年マテ三年ノ間神邊黃葉山ノム

カヒ城トシテ住スト云事別見

穴海 コ、ニテモ元藤ト云川北ノ條ニ出ツ地名ニ中島オヨビ濱マダ濱田ト云アリ

### 十九軒屋村

福山ヨリ一里十八町北ニアタル此村地面兩所ニアリテソノ間ハナレ隔タルヨト九町ハカリ東ニア  
ル地東西二町四十間南北六町五間關譚アリ西ニアル地東西二町四十間南北三町十六間

田 畝

十七町六反二畝十二步 内島二町五反八畝十步

歳 額

百八十石一斗三升五合 内島二十一石三斗六升

戸 口

戸二十一 口百十五内女五十八僧一

畜

牛九 馬二

溝 渠

中川 村内堤長四百八十間下川南村ニテ高屋川へ入ル

蕩一 周四町二十間

池 塘

池一 周三町四十九間半

塘 長三百三十六間元藤沼ノ漲沓ヲ防クナリ

憩亭一 中条街道ニアリ

古 蹟

穴海 元藤沼此村ノ南端ニアリ

今按ニオヨリコノアタリミナ平地ニテ十三軒屋十九軒屋二十間屋三間屋等ノ名地名ニアラサレ  
ハイツレモ新ニ出來タル村里ニテ川北ノ元藤北ノ丁中ノ丁南ノ丁川南ノ元藤一二ノ町ヨリ十一  
十二ノ丁ナトチアハセテミナ穴海ノ地ナルコトアキラケシ

### 十三軒屋村

福山ヨリ一里十八町北ニアタル村東西四町三十二間南北四町五間

田 畝

十五町八反四畝十七步 内島一町五反一畝十四步

歳 額

百六十九石九斗三升二合 内島十一石四斗八升五合

戸 口

戸二十一 口百十九内女五十四僧一外乞食二

畜

牛六 馬一

溝 渠

井溝 モト戸手村ヨリ葦田川ノ水ヲ引ク今ハシカラス數渠ヲ合シテ高屋川ニ入ル

廟 墓

小祠一

生土神

塔 寺

憩亭一

道上村

福山ヨリ二里十四町北ニアタル村東西十二町南北十八町東北公領本郡西中條村ニ接ス關議アリ  
今按ニムカシノ山陽道ハコヽニテ今ハ石州銀山ノミノ路トナルノ道ノ上ナルユエコノ名アリ

田 畝

百三十七町二反八畝十步 内畠五十四町五反二畝二十步

歲 額

千五百二十八石三升二合 内畠三百四十七石八斗一升四合

戶 口

戶二百十五 口千二十六内女五百三僧三替一

畜

牛八十五 馬十二

溝 渠

加茂川 下岩成村界ヨリ此村分堤長百三十七間

中川 此川西堤ハ此村分長六百間德田村へ流ル

小谷川

小藤川 小谷ハ十念谷ヨリ出長七百七十間小藤ハ八軒屋ヨリ長四百八十間ニテ小谷ニ合ス

門前谷川

此村門前谷ヨリ小谷川ニ合ス長五百間中川以下ミナ細流ナリ

池 塘

岡山新池 周五町四間

岡山池 周五町

渡瀬池 周五町三十六間

十念池 周三町二間

小池九

堰 開

堰七

開二 門前樋 鮫鱈樋 小藤ニアリ箱深サ四尺八寸内法横三尺一寸幅一尺四寸水ハ十三軒屋

六分十九軒屋四分本村ハ臨時會議シ各日チワカチテ引用ユモト服部水ヲ數村ヘ分チトリシ樋ナリ

シカ今ハ下加茂八軒屋二村ノ遊水ノミ流ルト云開尾ノ水ハ井溝川ニ入ル凡此アタリノ小川ミナ高

屋川ニ入ル

橋 約

石渠八

山 溪

谷四

廟 墓

岡山大明神 生土神岡山ニアリ祭神三坐吉備津彥命吉備津姬命 孝靈天皇一宮備中ヨリウツ

タマヒシトキコヽニテ一宿アリシ跡ト云此宮ニ背一弓一槍一文書一アリ百姓磯村忠右衛門元祖越

後浪人水野家ニ仕フ農トナリシユヘ家ニオサメス奉納スト云附録ニ出ス

八幡宮

岩崎ニアリ

小祠十九

塔 寺

護國寺

高木山真言宗東中條村廣山寺末寺コノ寺ニ塔ノ跡アリマタ門前ナト云所アリ古寺ナリ  
聖武ノ國分寺オソラクハ此寺ナルヘシ辨説ノ條ニ出ス水野記ニ正治中國司下向ノトキ建ツ後大破  
ニテヨヒ宮若狹守而興百貫ノ地ヲヨスト云

淨光寺

清嶺山淨土真宗光照寺末寺モト禪宗ニテ淨禪ト云モノ開基スソレヨリ九代慶善ヨリ今ノ  
宗トナルコノ人中條ノ塙主ニテ小村氏ナリト云

憩亭十一

市樂 岡山 門前 岡崎 鴨 市場 十念 渡瀬 岩崎 嶺 鍋屋

### 八軒屋村

福山ヨリ二里北ニアタル村東西四町十六間南北五町四十七間

田 畝

十四町九反三畝十七步 内島二町三反三畝二十一歩

歲 額

百三十四石三斗七升四合 内島十一石九斗六升二合

戸 口

戸二十三 口百九内女四十七替一

畜

牛八

溝 渠

服部大池溝川 中野村ヨリ流來リ長二百十五間小藤川ニ入ル

池 塘

小池一

橋 約

石梁八

廟 墓

荒神社 下ノ曾根ニアリ

塔 寺

憩亭一

### 上加茂村

福山ヨリ二里十四町北ニアタル村東西五町南北九町二間

此村ムカシ上下ニ分タス寶幢寺ヲ名主庄屋トシテ貢稅ヲ沙汰ス役僧七ヶ寺アリ加茂ノ七坊ト云今  
跡三四ッ堂ヲ建ツ寺名ハ其所所ニコレリ上加茂ニテ大聖寺閻王寺下加茂村ニテ迫ノ坊西ノ坊元  
法寺傳法寺德圓寺コレナリ此邊ミナ加茂谷ニテ蘆原村ハ加茂蘆原中之村ハ加茂中之村ト云ヘキヲ  
略シテ二字ヲ除ク今按ニ凡諸國ニ加茂ト云所ハミナ下上鴨明神ノ社領ノヨシコノ國有福ノ庄ソノ  
地タルコトハ東鑑ニミユ

田 畝

四十五町九反二畝十二歩 内島十一町八反三畝十六歩

歲 額

四百六十四石二斗二升七合 内畠七十五石五斗二升二合

戸 口 戸七十二 口三百三十二内女百七十八

牛二十六 馬三

溝 渠

加茂川 中野村界ヨリ下加茂村界マテ東堤二百二十間

池 塘

藤原池 今菱原池トモ云周六町三十間

小池四

堰 圃

圃二

橋 約

石梁三

山 溪

嶺一 羽波峠 道上ニ通ス

谷四

廟 墓

羽波大明神 羽場トモ幅トモカク祭神社家由緒書ニハ見エス谷中數村生土加茂明神ナリシヲ別ニ  
コノ村ノ生土トテ建タリシ祠ナラハ加茂明神ニハアラスヤアルヒハコ、ニアリシ神祠テアラタニ

生土トセシニヤ辨説別ニミユ  
小祠八

塔 寺

憩亭五 圓能寺 大聖寺 神田 羽波前 原ケ市

### 中野村

福山ヨリ二里二十町北ニアタル村東西四町二十六間南北九町三十六間東北公領本郡中条藤原二村  
ニ接ス關議アリ

田 畝

五十町六反六畝一步 内畠十六町八反四畝二十七步

歲 額

五百八十四石六斗九升五合 内畠百三十石五斗九升四合

戸 口

戸百 口四百四十五内女二百三十四僧二替一

牛三十八 馬五

溝 渠

加茂川 上藤原村ヨリ上加茂界村マテ堤長七百九十間

池 塘

大物津下池 周二町五十六間



七社池 周六町二十八間中津領北山村ノ内ニアリ

姫谷池 周六町十六間百谷村ノ内ニアリ

菱原池 周六町五十二間

小池四

堰四 開

堰四

橋 約

坵一 笠岡街道西屋渡リニアリ長八間

廟 墓

此村蘆原村加茂大明神ヲ生土トス凡此數村ミナ加茂谷ノ内ニアリ加茂ト稱スル所上下二村ニカキ  
ヲスサレハコノ祠此アタリノ總生土ナルヘシ

貴布禰大明神 馬木ニアリ祭神罔象女命ナリ

小祠二十六

塔 寺

憩亭六 多田 家ノ前 高木 栗ケ市 坂ナシ 勸所端

古 蹟

天神山城

内藤伊賀守宗久 備後古

藤彌次郎ナル者ノ子孫今下加茂村ニコレリコレ宗久家老ノ家ナリト云

天明中細川侯歸葬ノ輓神遊ニ宿セシトギ供回ノ人コノ内藤ノ苗裔ナル人ノ友人トテ備後國中ニ

山塙ノ半腹ニ祠アル所友人某カ祖先ノ居城ナリシトカ子テキ、タリ此神邊ノ古城タシカニソレ  
トミユレハクハシク問タ、シテカヘリ某ニカタリシトテ本陣並ニ宿役人ニタノミシカトモ此天  
神山ノ古城ヲハシレル人ナクテタ、神邊ノ事ノミヲ語リ神邊城主歴代ノ内ニ内藤氏ハ無シト答  
ヘシト云

### 粟根村

福山ヨリ三里八町北ニアタル村東西四町十七間南北十四町十間東北公領本郡東中條北山ノ二村ニ  
接シ西中津領百谷村ニ接シ南公領蘆原村ニ接ス 此村半村ハ石州大森ニ隸ス

田 畝

二十二町六反七畝十四步 内畠七町七反一畝十步

歳 額

二百六十三石八斗九升二合 内畠五十一石七斗四升八合

戸 口

戸二十二 口八十五内女三十九僧二

畜

牛八

溝 渠

ニワタ川 水源百谷村ヨリ出此村小川ニ合ス長四百間

小川 水源北山村ヨリ出此村ニテ加茂川へ入ル長四百五十間

池 塘

小池九

堰 圃

堰八

山 溪

谷三

嶺二 粟井峠 小池峠 ミナ東中條ニ通

嶺二

廟 墓

小祠四

塔 寺

大林寺

天澤山禪宗佛通寺派佛通寺木寺開山千畝和尙文安年中開基ナリ和尙長祿年中ニ寂スト云

憩亭二

尾ノ上 大林寺

古城山

栗根長門守備後古城記 横山肥前守隆清備後古城記天正ノ頃ナリトアリ

栗根長門守

一本古城記ニ草木村横山源三左衛門ト云モノ永祿ノ頃此所ニウツ

横山肥前守

リ天正年中没落セシト云

### 下加茂村

福山ヨリ二里十四町北ニアタル村東西十七町南北三十二町北中津領本郡百谷村ニ接シ東公領本郡

蘆原村ニ接ス榜示ニ示アリ

田 畝

百四町五反三畝二十九步 内畠三十五町八反四畝二十二步

歳 額

千百六十六石八合 内畠二百六十石二斗二升七合

戸 口

戸百八十一 口七百九十二内女三百七十八僧四外ニ穢多百二十一

畜

牛五十五 馬十七

溝 渠

加茂川 中野村界ヨリ上岩成村界マテ西堤長九百三十間東堤長七百十間

宇代川 水源高山ヨリ出ツ百谷村界ヨリ中野村界マテ長八十間

池 塘

倉田池 周八町三十八間

小池十九

堰 圃

堰 大小三十三

橋 約

石梁三

山 溪

嶺一

倉田峠 服部永谷ニ通ス

谷十

石二

錢龜石 百谷ニ越ス路ニアリ切割ラントスレハ血出ルト云

岩清水 切石ナリ此下ヨリ清水湧出ルコトムカシヨリタエス明和寅年ノ大旱ニモ涸レサルユヘ  
村人集リテ此石ノ下ヲ掘タラハ水必飛出ルコトアラント石ヲ覆シヌソレヨリノチ三十年ノ今ニ  
至ルマテ水一滴モ出スト云

廟 墓

倉大明神 辻ニアリ瀛津大已貴命五十猛神ヲ祭ルムカシハ上下二村トモニ加茂明神ヲ祭ル領地分  
チテノチ祠ヲ建テ生土トス承保元年造營社領五十貫後天火ニ焼タルチ杉原忠興再興ス毛利ノトキ  
三十五貫ヲ領ス今ナシ倉或ハ藏ニツクル

今按ニ此接近ニ家ノ前ト云所アリ倉田ト云所アリ婀娜國膽殖屯倉ノアトナルヘシ膽殖イエト訓ス

良大明神 丁ニアリ

明見神 字代ニアリ

小祠二十九

古墓一 文字見えス

塔 寺

寶幢寺 法輪山眞言宗廣山寺末寺

正福寺 淨土眞宗光照寺末寺開基眞濟ハ明光上人ノ弟子北山村ヨリコ、ニウツルト云末寺三箇寺  
他境ニアリ

憩亭二 カシヤ 辻 辻ノ傍ニ一丈ハカリノ石ニ地藏ヲ彫タルアリユルキ地藏ト云六郡志に徳  
圓寺と云所ノ辻堂高き事十町ばかりありゆへに空觀音といふ石に石華殻つきたるありと云コノ

外 元法寺 欠迫 聖至堂 索麩屋 六齋堂寺アリ今見え

古 蹟

垣沙城

丹下與兵衛尉兼政 一本古城記ニ云宮下野守兼信ノ家老ニテ宮内合戦ノ時武功アリシ由ミユリ  
ノコト別見

正渡山城

宮刑部入道正味 古城記ニ毛利龜路山ヲ攻拔シトキコ、モ落サルト云丹下新市ニテ打死セシモ  
ソノ時ナリ

石室

江木ト云處ニアリ奥ユキ六間ハカリモアリテ上下ニ壇アリ戸障子ヲ入ルヘキ溝ヲモホレリ  
石ノ間々チ石灰ヲモテツメシヤウニミユ村中外ニモアリミナ小ナリ

### 東法城寺村

福山ヨリ二里半西北ニアタル村東西十二町五十間南北二十九町三十間

田 畝

六十二町九反五畝二十九步 内畠二十五町二反七畝十步

藏 額

六百四十三石四斗九升四合 内畠百十九石五斗六升

戸 口

戸百四十二 口六百十二内女三百三僧五替五

牛六十四 畜 馬十一

溝 渠

本谷川 水源下加茂村吉羽ヨリ出本谷池トナリ末湖水ヲ合シテ大池溝ニ入ル  
西川 水源大谷ヨリ出大池溝ニ入末方能倉村砂川トナルミナ織流ナリ

池 塘

道城谷池 今蓮池ト云周四町五間

本谷池 周五町八間

小池十一

橋 約

石梁五

圯二

山 溪

嶺二 カンチヤカ峠 四坂峠

トモニ服部長谷村ニ通ス

石三

石佛 ムカシ村兒アツマリ念佛ヲ唱ヘシニ此石ウコキ出タリト云

赤石 石工コノ石ヲキレハ嬰子ノ啼聲出ルト云

甲高 此石除夜ニ鶏聲ヲナスト云

廟 墓

八幡宮 宮脇ニアリ東西二村ノ生土神ナリ

小祠二十二 内ニ早房明神ト云アリ品運部雄鯽隼別王子ヲ殺セシコトアリアルヒハコ、ニソノ姫

ヲ祭シカ證ナシ

塔 寺

西蓮寺 金光山淨土眞宗光照寺末寺

憩亭八 原二 池平二 本谷 コンヤ 前サコ 寺サコ

古 蹟

小井城 宮兵部太輔勝信備後古 一本古城記ニ尼子義久隨一ノ幕下元龜年中山名忠興小早川隆景

ノ爲ニ攻落サルト云

挂迫城 宮治部太輔勝岡備後古 今コノ所ヲ城谷ト云

古家 大小九所

### 西法城寺村

福山ヨリ二里半西北ニアタル村東西四町四十間南北十九町八間

田 畝

四十三町四反六畝十五歩 内畠十三町九反三畝十九歩

歳 額

四百五十八石四斗六升六合 内畠八十七石三斗九升八合

戸 口

戸七十二 口三百三十五内女百六十三替一

畜

牛四十八 馬五

溝 渠

渠川三

一ハ上溝ト云大池北樋ヨリ出方能倉村砂川へ入ル此村東法城寺方能倉下加茂上下岩成六村ノ田用水ナリ一ハ中溝ト云大池下唐樋ヨリ出ツ西法城寺方能倉中島倉光江良五村ノ田用水ナリ一ハ下溝ト云大池南掘貫樋ヨリ出中島近田倉光江良四村ノ田用水ナリ

池 塘

服部池

管内第一ノ大池ナリ布地ハシメ十萬八千步餘今七萬八千步周二十五町二十間堤長百八間カミ一川ヲ承ケ兩傍ハ山麓鑿環ス

大池ハ寛永二十年未十月ヨリハシメテ築キ安那品治深津沼隈小田後月甲奴神石葦田九郡ノ人足ノコラスヨセラレ正保二年十月ニ成就ス池見定メハ水野家臣神谷治部ニテ奉行ハ廣田彦右衛門長田源太左衛門普請成就マテ在村ナリ大池地鋪安那郡西法城寺村内高四十三石六斗八升一合分品治郡新山村内高四十三石五斗一升九合分永谷村内河原分コレハ高ナシ三村三十六町餘ナリノ後年年池内埋リ元祿十二年卯ノ檢地ニハ新山村十二町六反西法城寺十三町四反ニテ二十六町トキハマシ先年此所大川ニテ此村ノ内桑原牛飼ト云ニケ所ノ井手水此村ニ用キシユハ五日番機マテ水落シ後ノ河水タマリ水ハミナ此村ニ用キ來ル此池水懸リ田畝三百五十町一反二十七步其村々東西法城寺方能倉上下岩成下加茂八軒屋十三軒屋十九軒屋戸手近田坊寺江良倉光中島道上德田川北川南中津

原スヘテ二十村ナリ其後年々ウツモレ永谷村分新田トナリ今ノ敷地ハ新山法城寺二村ニテ水掛リモ戸手坊寺道上德田川北川南中津原七村ハヤミテノコリ十三村トナリノ後ナチ埋レテ享保酉年新山分四反六畝又新田トナリ安永四年八軒屋十三軒屋十九軒屋又水カ、リチヤメテ現今十村ニテ三百町六反二畝二十四步ノミ此水ヲ用ユ明和ノハシメ樋崩レ水落ツ修理スルコト三度ミナ一年ヲ出スシテ崩ルモト百年モタモチシ所イカナル故ニヤト思ヒシニ始ノ樋ハ山石ニツク所ハ大材ヲタタミ上テ堤ニツキシ所ハサハカリ堅牢ナラスコレハ堤ノ方コリ大事ナラメ山ハ甍石ニツクキダレハサナクトモタモツヘシト議シテモトノ如クセサリシニヨルナリヨリテ再議シテ甍石ノ方ヲツヨクナシタレハソノ後マタツレス甍石ニツク方ハ水滲漏シヤスタ土ニツク方ハシカラサレハナルヘシト云モト法城寺池ト名ツクヘキヲ神谷治部服部ト名ツケシハ字ヲ折ヲハ水去成土トヨムヘケレハナリト云村名ソノトキ法城寺ナリシヲ元祿檢地ヨリ今ノ字ニアラタム村人久兵衛始終拮据セシユヘ池アランマテコノ池ノ事ヲ司レヨト命セラル又此池ノ魚他所ト異ナルハ池キツカレシハシメ鯉ハ淀川鯉ハ琵琶湖ヨリ捕來テ種ヲレシナリト云六郡志明細書ナラヒニ村人ノ話ヲアツメテ略シシルス

小池六 大草池三 龜原池二 羽子池

堰 關

桑原井手 牛飼井手 二ツノ井手池中ニ入りテ今ナシ

水碓一

橋 杓

石梁十四

山 溪

嶺一

五輪峠 大池内桑原迫ニ通ス

廟 墓

良大明神 天田ニアリ

祇園牛頭天皇 古江木ニアリ

辨才天 大池ノ岸ニアリ神谷治部繁池ノ始メヨリ祭リコ、ニ祠ヲ建ツ

小祠十七 此内榛原ニアル十二神ハ桑原氏ノ先祖ヲ祭ルト云藤木ト云所ノ荒神ニ根マハリニ丈ノ

椋ノ木アリ

墓三 平朝臣門田佐渡入道 平朝臣門田久兵衛

此三墓ハ村ノ住人門田儀右衛門カ墓地ノ内ニアリ前ノ二墓ハ年月見エス門田久兵衛ニハ寛文十二年二月逆修ト鐫付タリ コノ久兵衛ト桑原縫殿介ト云服部池ヲ築キシ人ナリ 門田カ家ニ傳ヘシ過去帳ニテ見レハ佐渡ハ久兵衛ヨリ前ニテ門田彌ハ其後ト見ユイツレ上古ノ人ニハアラス今時墓トイヘハ必一同ニ戒名ト云者ヲ彫リ梵字ヲ戴カセ亦釋ノ字ヲ冠シムルナトノコトハ何頃ヨリハシマリシヤ大抵宗門ノ掟出ナト云法會ヲ僧ト一同ニツトムルホトノコトナルニ寛文ノ頃ノ墓カクノ如キヲ見レハ自餘ノ輩ハ勿論墓ハ必戒名ヲカクコトニモ非サルヲ見ルヘシ京ニテ公卿ノ墓ヲ見ルニ多ハ官位ト實名ヲ記サル生前入道シタル人ノミ某院ト鐫タリ此墓ステニ入道トアレトモ戒名ナキヲ見レハイツレニテモ勝手ニマカセタルコトシルヘシ凡墓備ハシルシノ石ナレハ必見テシレヤスカランヲ要トスヘキニ近頃ノ墓ハ尋テモタツ子カダキモノ多シコレ實名ハカクトイヘトモ傍ニ小ク鐫付テ滅シヤスキユヘナリ是等ノコトニツケテモ物コトムカシニ劣ルコト多シ一嘆ヲ發スヘシ

塔 寺

蓮法寺 泰玄山眞言宗明王院末寺

藥師堂 古江木ニアリコノ前ノ庭ニ二股ノ柿一本アリアルトキ兒戯ニ石地藏ヲ股ノ上ニアケ置シ

ナ數月ノ後オロサントスルニ樹皮ハリ出テ動カサレハソノマ、ニシテ置内ニ年月ヲ經樹シタイニ大ニナリ地藏ノ全身股ノ中ニ没シテ見エス此樹枯朽ノ後地藏股間ヨリ出ナハ人々奇異ノ思ヲナスヘキナリ世ノ不思議ト云モノカ、ルコト多カルヘシ

憩亭一 大草山

古 蹟

古城 明細書ニ後ニ淨運寺ト云寺トナリシ由トアリ

森田左門 備後古

桑原縫殿介正元 備後古城記臣ニ田和増川等アリト云一本古城記ニハ尼子義久ニ隨テ所々ニ働

キ藝州ニテ討死シ子孫今長州ニアリト云

桑原迫 此所桑原某ナル浪人住居セシ跡ナリト云今大池ノ中ニ入ル

觀音寺 淨運寺トモ云堂ハ額レテ鐘堂ノミノコル銘ニ淨運教寺トアリ

岡ノ堂 此所ヨリ大ナル古瓦出ルコトアリ法城寺ト云大剝コ、ニアリシニアラスヤ

古冢 大小十五所外ニ五所ハクツレ埋ル

福山志料卷十五終

福山志料卷之十六

品治郡

品治古事記ニ品遲ニ作ル舊事記ニ風治トモアリ和名鈔ニ保牟知ト訓ス  
舊事記國造本紀曰吉備品治國造

舊事記龍頭云、今備後國品治郡、品誤作風、今改之、古事記云、息長日子王、吉備品遲君之祖、  
按此王息長宿禰子、與但遲麻國造同祖也、

今按ニ風ニホンノ音アリ昔ハ音チ主トシテ義ニカ、ハラサレハアナカチニ誤トハスヘカラス  
和名抄郷七

驛家 昔ノ山陽道ハ今ノ道上村ヲ經府 狩道 今ノ有地ナ 佐我 近田堤邊ナリシヨシ成ハ今佐賀田ハ有地ヨリ 石茂 神田 服  
織今ノ服品治今ノ坊寺ナ 織部ナリ品治ラント云

三代實錄授位神二座 大藏神 神田神  
延喜式神名帳一座 多理比理神社

此郡昔ハ大郡トミエテ元明御時品遲三里ノ地ヲ蘆田郡ニ隸セラレシ事アリ其後イツノ比狹マリシ  
ヤ今ノ境南ハ深津郡沼隈郡東ハ安那郡西ハ蘆田郡北ハ神石郡ニ接ス蘆田川郡ノ南邊ヲ東流シ神谷  
川郡ノ西北ヨリ南流シテ新市村ニテ蘆田川ニ入ル北ニ山ヲ負ヒ南野ニノソム全郡統ル所二十一村  
下山守 上山守 今岡 向永谷 大橋 坊寺 江良 倉光 萬能倉 中島 近田 戸手 新市  
下安井 上安井 雨木 助元 新山 服部永谷 服部本郷 宮内

下山守村

福山ヨリ一里二十七丁亥ニアタル村東西八町四十四間南北十二町二十間

田 畝

十町二反八畝二十步 内畠十七丁九畝二十步

歲 額

百四十七石一斗六升七合 内畠百十石九斗五升二合

戸 口

戸七十一 口三百三内女百四十五僧四

畜

牛三十四 馬四

溝 渠

蘆田川 上山守村界ヨリ森脇村界マテ堤長五町三十六間大開ト云所ニ舟渡シアリ

新川 上山守村界ヨリ森脇村界マテ堤長五町四十四間蘆田川ノ支流ナリ

橋 約

小橋十五

山 溪

太平山 武倍山 カウ々々山

廟 墓

嚴島大明神 明細書ニ慶長年中村人太郎左衛門藝州宮島ニ參ルコト毎年不息アル年神前ニテ今ハ

老衰ニ及ヒタレハ拜謁モコレ限ナルヘシト云ツツヌカツキテ歸ル舟中ニテ袖中ニ一小石アリコレ

ハ同舟ノ人ノ戯ナラント海ヘ投ステテ寐シニソノ明早起テミレハ又袖中ニ石アリ太郎左衛門怪シ

ク思ヒ取歸テシカシカト語ル頼テ村中集リ議シテ祠ヲ建テカノ石ヲ納ムコノ石年々大ニナリ今ハ

一尺八寸ハカリ回り一尺二三寸モアリト云

小祠四

古墓 カウ々々山ニアリ春岳淨源信士元祿四年未三月二十四日ト刻ス相傳ヘテ加賀人備後神村城

主ニ仕フ牢人シテコ、ニ歿スカウ々々トハソノ人ノ姓名ハ源左衛門ト呼シト云

塔 寺

常念寺 南國山淨土宗大念寺末寺

此寺ニ日月ノ幕トテアリカタク云傳フル幕アリ日月ハ千葉家ノ紋ナレハ其家ヨリ出タル物ナルヘ

シ常村ニ栗原氏アリモト千葉氏ニテ岩成村ヨリカシコニウツルト云

福泉寺 日明山淨土眞宗光善寺末寺

開基了心モト伊豆人兒玉修理太夫政近ト云本國中條ニ來リ出家ス第三世觀心ココニ移ル壹口玄蕃

ト云人ノ作レル轡一ツヲ藏ス盗人入レハコノ轡カナラス鳴ルト云又大江弘元ノカケル定家集アリ

弘元ハ元就ノ父ナリ

十八日訪福泉寺圓識上人分得同字

西山 正

劇讀方外興臭味轉相同淨界逢甘雨香臺認逆風吟濃芳草綠醉倚散花紅借問宜山館牡丹開幾叢宜山館村  
内ニアリ

武倍山ニ對スルエヘソ  
ノ談チトリテ名ツク

小佛堂二

名 勝

武倍山



六家集第十六

吹からにむへ山風もしはるなりいまはわらしの袖をうらみて

家 隆

北野宮歌合

有家朝臣

木の葉ちるむへ山風のわらしより時雨になれぬ峯の浮雲

臨永和歌集

前大僧正慈勝

吹からにみねの木は葉はちりはてむへ山風に冬は來にけり

後六々撰

文屋康秀

吹からに野への草木のしはるればむへ山風をわらしといふらん

新六帖第二

衣笠内大臣

秋ふかみむへ山人のあさころもうちたゆむへき風のをどかは

散木集

源俊頼朝臣

むへといふとまりにてささの木にゐてあまたなき侍りければところからにや身にしみてよめる

鳥の音もなみたもよはずこちしてむへこそ袖をかはかさりけり

今按ニコノ歌路ノ順ニテミレハ松永ノアタリニテヨミ玉フニヤ

歌枕名寄未勘の處にのす

識人しらす

人よりもおもひのはれる君なればむへ山郷はしるへくありけり

上山守村

福山ヨリ一里三十四町成ニアタル村東西十三町南北二十五町

田 畝

七十九町三反三畝一步 内畠四十八町一反九畝十九步

歳 額

六百六十石八斗二升七合 内畠三百二十六石四斗五升六合

戸 口

戸百五十 口六百九十七内女三百三十僧二替一

畜 畜

牛五十五 馬十六

溝 渠

蘆田川 坊寺村界ヨリ下山守村界マテ堤長十三町

砂川 上萬能倉村界ヨリ下森脇村界マテ堤長四百四十間

大溝二 一ハ戸手堰ヨリ出下岩成村ニ下ル一ハ大道ニソフ

蕩二 檀上 周三町水ハ下山守村ヘオツル溝コレナリ

池 塘

小池二

橋 約

大カリ橋二 夏ハナシ

船渡二 小約四

山 溪

大迫山 大城坊山 一名ムハ山

嶺一 八反田郷分村ニ通スコ、ニ白糸瀧ト云アリコノ所即武倍山ナリト云辨説ノ處ニミユ

廟 墓

八幡宮 當嶋八幡宮ト云延喜式多理比理神社ナリト云別ニ辨説アリ近村上山守下山守今岡中島大橋向永谷戸手法師寺坊新山江良萬能倉倉光近田等十三村ノ生土神ナリ鐘アリ銘ニ明曆二年八月コレヲ鑄ルトアリ社領百二十貫毛利ノトキ八十貫今ナシ

小祠十一

土肥氏墓 山ノ東麓ニアリ五輪塔ノミノコル土肥實平カ後數代コ、ニ住セシト云

塔 寺

神宮寺 大城山真言宗明玉院末寺

八幡宮神主貞助七右衛門ト云人ノ開基ナリ貞助ハ阿波ノ三好ニテ小笠原ノ庶流ナリ永祿ノ後家ミタレテ阿州貞助谷ト云所ニカクレス者谷ノ名ヲ氏トス貞助美濃オナシキ七右衛門同玄蕃ナト十三人備後安那郡宗岡村ニ來住ム世治リテ後森脇村淨慶入道ト謀リテコノ寺ヲ建ト云サレハ宮ハ千年ノ昔ヨリアリテ神主モ神宮寺モ二百年左右ノコトナレハ其時又再修セシナルヘシ神宮寺ヲ新タニ建タルヲミレハ神號ナト改マリシモ知ヘカラス或貞助浪人トナリテ此ニアリシニ出雲ヨリ一罪人コ、ヘ遁來リシ者ヲ捕ヘンコトヲ募ル貞助募ニ應シテ搦トリシニ恩賞ハ土地ヲアタヘンカ金ヲアタヘンカトアリケレトモ三好氏當時潛匿ノ時ナレバ金ヲ乞ウケテ富農トナリ寺ナト建シト云三好別記ニ三好ハ源氏小笠原ノ嫡流實朝ノ時太郎長經阿州ニ封セラレ三好ニ居住ス細川四國守護タリシトキソノ墓下ニツク又阿州將裔記ニクハシ延喜ノ比ヨリコ、ニ居シニハアラス又コノ宮ノ石鳥居ハイカナル故カ福島安藝ヘトリカヘリシト云ヲミレハ當時破敗セシニヤ城ノ跡ニ私案

金剛寺 姫居山真言宗明玉院末寺

城山ノ南ノ麓ニアリ新山福盛寺ノ開山日大上人晚年ニ及ヒテ此寺ヲ開基シ退隱ノ所トセリ光成氏代々ノ香火院ナリト云時代シラレス光成右馬允ノ愛女ヲ葬リテ山號トスト云此寺ムカシハ四五町奥谷ニ有シトテ今金剛寺奥ノ坊西明寺釋迦堂ナトトイヘル字有天正以前イツレモ退轉シテ殘レルハ此寺ノミナリシヲ觀音寺ノ開山宥表上人此所ヘ引移シテ再建アリシヨシ云傳フ

憩亭八 谷二坂田 女市 落合 平川 アセチ 同下

古 蹟

姫居山近江城

土肥和泉守守平 備後古城記ニ文安ノ頃トアリ

光成左京進隆正 天正ノ頃トアリ

光成新三郎興家 金剛寺ノ二王門ヲ建ツ蘆田郡福田村ニモミユ

一本古城記ニ櫻山慈俊カ爲ニ上落シテ楠正成ニ使シ赤阪沒落ノ軍ヲ見テ歸ル其後淺山カ爲ニ亡サルト云

今接ニ時代大ニ相違セリ何レノ書ニアリヤ知ラス

古屋カ峠 龍玉山ノツ、キ茶臼山ニアリ今ニ鐵瓦ナトホリ出スト云

十萬 古屋カ峠ノ麓ヲ云十萬人押寄タリシ所ナリト云

今接ニカクノ如キ大戰コ、ニアリシヲ聞ス

守平物見小屋跡 龍王社ノ傍ニアリ

### 今 岡 村

福山ヨリ二里十三町戌亥ニアタル村東西十五町南北二十町

田 畝

二十七町四反十一歩 内島十五町七畝二十歩

歳 額

二百五十三石三斗五升三合 内島百五石三斗一升六合

戸 口

戸八十二 口三百四十五内女百七十六僧三

畜

牛三十五 馬三

溝 渠

俄川 末谷川

古有地川 大橋村界ヨリ上山守村界マテ堤長四百二十間

池 塘

末谷池 周二町

六郡志に末谷池は水野宗休侯自身に奉行して掘られし池なり侯隠居料一萬石分ち領したまひける  
か寛永十五年寅夏旱魃し此邊は右一萬石の内にて此村末谷より東ことに不熟なりしを自身に檢毛  
したまひ用水のかかり不足なる故此旱魃に及へり此谷よき池所なれば我普請して用水を自由に引  
へしとて同年の冬普請ありしにその宸中に島原一揆起りて御進發の御奉書到來し則此所にて拜見  
あり我當年七十三になりぬればもはやあましましき事も有ましとおもひしにか様の奉書到來しける  
とやと甚御悦喜にて即坐に御歸城有翌十六年二月八日御進發同十六年十月二十八日に凱陣なされ

早々此池へ來り御覽せられしと云

今按ニ池所へ來りシ御教書ハ一揆スミヤカニ平定セスハ出陣仰付ラル、事モアルヘシ内々ニ用意  
アルヘシト申參リシナリ二月八日ニ御教書再ヒ來リイヨ々々急キ向ハルヘシトアリシ故其日直ニ  
出馬ニテ綱マテ行ソコニテ三日滯留アリ船ニテ用意アリシト云傳フ

小池十四

橋 約

小橋九

山 溪

鷹巢山

嶺 俄峠 山手村ニ通ス

萬念寺谷

ムカシハ神邊萬念寺コノ所ニアリシヨシ云傳フ

今按ニ萬念寺ハ大念寺ノ故基ナリ大念寺ト云フ號兩處ニ有ルヘキニアラ子ハ萬念ト云フ廢寺ノ  
名ヲトリテ名ツケシナルヘシコ、ヨリウツセシニハアラス

石

屏風石 横岩 高七間横十間 烏帽子岩

廟 墓

大藏神社 祭神下照姫命辨脫アリ

此社モト野山ノ内宇禰田ト云處ニアリ貞享三年戊寅百姓源八先祖本村小池谷ヘウツシ建ツ今山守  
八幡ノ二ノ宮ト稱ス社領五十貫毛利ノトキ三十貫今ナシ  
三代實錄貞觀二年春二月二十八日授備後國正六位上大藏神從五位下

今按ニ世俗延喜式ニモレタル神ハ淫祠ノ如クオモヘトソレヨリ前世授位アリシ神備後中ニ五座アリ式内十七社ノ外ナリソノ内大藏神田隱島ハソノ所指ヘクシテ天照眞良建雄神大神神ハイツクニイマスヤイマタ見聞ナシ建雄ハ素尊ニテ大神ハ三輪神ナリト云後考チマツ

祠七

塔 寺

長松寺 萬壽山曹洞宗泉龍寺末寺

山内刑部ト云人開基タリ子息長松早世シソノ追福ノ爲ニ建ルト云慶長元和ノ頃マテハ農民ニ物書モノスクナキ故此寺ノ住持ヲ庄屋トシテ年貢ヲ取立村ノ掟ナト正サシムコレハ此寺ノミニ限ラス此頃此類多シ元和五年水野家當國入部アリシ時役人回在シテ此寺ヘ來リ田畑ノ年額納法ノ事トモ尋ヌ其時僧二人アリ私職トモアリシヤ大ニ周章テ詳ニ答フルコトモナルマシト思ヒケルカ勝手ヘ出ル体ニテ出奔スソレヨリ住僧ナケレハ廢寺トナル其ノ子桑田次郎兵衛ト云滑稽人 桑田宗味トアリ水野家ノ喇伽トシテ幸セラル此者ノ願ニヨリテ再建アリ勝俊侯ノ時泉龍寺ノ二世齋翁和尙ヲ開山トシテ洞宗トナルモトハ濟家ニテ江州某寺ノ末寺ナリシト云傳フ山内ヨリ寺領百石近田ニテ寄附ス毛利ノ時今岡ト地チカヘラレ福島ノトキ沒收セラル寺中ニ菩提樹一章アリ

古 蹟

古城 山内大和守直道 山内刑部少輔直行 一本古城記ニ大内家ニ屬シ石州合戦ノ時不覺アリ

今按ニ杉原系圖ニハ大和守直道ハ杉原ノ氏族ニテ山内ニ居シユヘ山内チ名乗ルト見ユ別ニ山内

カ事クハシク總叙ニミユソレハ胃山ノ山内ナリソノ家ノ系圖チ見ルニコノ兩人ミエサレハ別ノ

家ナルヘシ再考チマツ

### 向永谷村

福山ヨリ二里三十町酉戌ニアタル村東西六町十間南北一里五町

田 畝

五十三町三反六畝十六歩 内畠二十一町六反九畝二十五歩

歲 額

五百五十八石四斗二升八合 内畠百七十八石一斗二升五合

戶 口

戶百十七 口五百五十三内女二百七十僧四替五

畜

牛八十二 馬六

溝 渠

有地川 福田村界ヨリ大橋村界マテ堤長三百七十間

永谷川 沼隈郡赤坂村ヨリ出有地川ニ入ル

小瀬二

池 塘

中原池 周四町二十間

石田池 周六町十八間

小池十三

堰 開

石山操貫開 長九間横五尺高六尺

橋 約

小橋十七

山 溪

高増山 又稱虚空藏山高御倉命垂跡ノ地ナリト云コノ林下ノ蛭人ヲ吸ハス高御倉命ト素盞鳴命ト

試ニ石ヲ投玉ヒシニ高御倉ノ投玉ヒシハ早苗ノ郷ニイタリ素盞鳴尊ノ石ハコノ山ノ林下ニ到ル今

ナヲ投石ト云アリト云此事後ニ辨スコノ山亦高松山トモ稱ス訛音ナリ或ハタカトダケト通シテ高

ハ武ナリ増ハ倍ニテ即チ武倍山ナリト云山守ノ武倍山ト高低ツツキテ同一山ナリ

甲山 獨山ナリ九鬼城主馬屋原采女正重頼男與左衛門宗清先祖ヲ祭ルトテ家傳ノ兜ヲ埋メシト云

麻曝山 高増山ニ對セシ山ナリ

石

投石

赤子石 高増山ノ北ニアリ小兒ノ跡アリ

嶺七

コブツ峠 津之郷村ニ通ス 草鞋峠 赤坂津之郷兩村ニ通ス 榎峠 赤坂村長者原ニ通ス

小峠四 此内ニ玄翁峠ト云アリ玄翁和尚行脚ノ時シハラク居シ所ト云

廟 墓

高倉大明神 祭神高倉下命別ニ辨

六郡志に御神體は丸の内に巴の紋付たる上下着たる像ありいかなる人にやしらす此山を高松山と

云慶安以前此所に在けるをそののち下へうつしたりと云

今按ニ巴ハ杉原ノ紋ナリコノアタリノ塙主ナトノ像ニテコ、ニ附祭セシニヤ高松ハ高増ノ訛ナ

ルヘシ

小祠十三 内ニ粟江谷荒神ト云アリ楠回り一丈餘ノ木アリ

齋藤別當實盛塚 本谷寺迫ト云處ニアリ齋藤五カユカリノ人コ、ニ來住セシコトアリ其人建ルト

云マダ實盛カ儻從幼子ト遺骨ヲ護シテコ、ニ來リ餓死ス土人遺骨ニソヘタル文書ヲミテ實盛ナル

コトナシリアハレミテ葬ルト云

塔 寺

金藏坊 高照山淨土眞宗光照寺末寺

小佛堂

憩亭五 佐賀山 平山 舞輿 錢山 外ニ一佐所賀山ニアルモノ洪水ニ崩レテイマタ修セス

古 蹟

嵯峨野 コ、ノ山ヲ嵯峨山ト云相傳ヘテ此ニ石碑アリテ二首ノ歌アリ享保六年ノ洪水ニ漂没スリ

ノ歌トテなきひとの行て生るゝやとわたそうき世のさかの西にこそあれ夕暮は秋のさかのゝしか

のねに山もどふかき露をこはるゝコレハ山城ノ嵯峨ニ非スト云イフカシ和名抄ニ佐我ノ名アリア

ルヒハ此地ノ事ナラン古書ニ出タル地名ナトニ云ヨリ附會セシ説ナリヤウタハ土俗ノツタフルマ

、チシルス

古塚二 錢山 下高倉 塚堂ト云所ニアルモノ

孝 子

三十郎

大橋村

福山ヨリ二里二十四町乾ニアタル村東西十町二十間南北三十五町

田 畝

四十二町七反二畝二十二步 内畠十六町七反六畝八步

歳 額

四百十五石六斗三升三合 内畠百三十五石八斗二升八合

戸 口

戸百九 口五百六内女二百三十九僧五替一

畜

牛六十三 馬六

溝 渠

有地川 向永谷村ヨリ今岡村マテ堤長二百五十間

沙川 小流ナリ末有地川ニ入

有地新川 堤長三百九十八間坊寺ニテ大川ニ入ル

池 塘

出尾池 周七町六間

竹ノ追池 周四町十三間

小池十一

堰 剛

剛一 長七間幅一間

橋 約

小橋六

山 溪

嶺三

長峠 平ノ峠 ミナ向永谷ニ通 ゲンノウ峠 尾道松永通路

谷十八

石 大石ニ イサリ観音ト云ニ石ノ間六尺ハカリ俗説ニ此石漸々イサリヨリツキ合トキ世界アラ

タマルト云

廟 墓

小祠四

塔 寺

西光寺 昌澄山淨土眞宗最善寺末寺開基眞覺宗開大德寶永五年戊子寂

観音堂 山伏清光是ニ住ス正徳ノ頃寺ニケ寺アリシト云ハハ寶堂院ト云ハ此堂ニテソノトキ寺ニ

ハアヲサリシヤ

憩亭二 平ノ峠 鑄物師山

古 蹟

天神山城 城主不詳鑄物師山ニ此城ノ出丸ノアトアリ古井アリ今ミエス

二王免 寶堂院ノ二王ハ光成新三郎建ツ光成婿大橋村高田彌惣左衛門田地ヲ寄附ス此ナリ其後寺

ハ焼亡シ二王ハ洪水ニ漂流シテ引上ケラレ今山守金剛寺ニアリト云寺跡ニ観音堂ノコル今修驗明

學院ノ持庵トナル

立石 二ツアリ明細書ニ此石ムカシ鳴リシコトアリシヨリ此アタリチ岩成ノ庄ト云ト云石ニ銘アリシヨシイヘトモ今ミエス

### 坊 寺 村

福山ヨリ二里四町亥ニアタル村東西十四町五間南北七町二間  
六郡志に貞享の頃までは法師村と云けるかいつの頃よりか今の名とす通證に和名抄ニ品治トイヘル郷名ハ此村ナリト云ホムチチボウチト云傳ヘシニヤ

今按ニ榜示ト云ハ今ノ制札ノ如キモノナリ其アル所チ榜示ト云トモイヘリ

田 畝

二十二町一畝二十七步 内畠十六町九反八畝五步

歲 額

百六十石七斗七升 内畠百七石四斗六合

戸 口

戸五十九 口二百四十七内女百十二

畜

牛十八 馬二

溝 渠

蘆田川 近田村界ヨリ上山守村界マテ堤長八百九十五間此堤一名錢持土手ト云水野家ノ時凶年ニ老若男女童子チ撰ハス土チ小器ニ入テ運ハシメソノ價チ給フテ不日ニ成就セシト云  
服部川 江良村界ヨリ蘆田川マテ堤長二百八十間

有地川 大橋村界ヨリ蘆田川マテ堤長百三十六間

惡水貫川

堰 關

關三

橋 約

板橋一 蘆田川ニカ、ル

小約八

廟 墓

朝倉大明神 明細書ニ淺倉ニツクル

小祠七

塔 寺

小佛堂一

憩亭一

### 江 良 村

福山ヨリ二里四町亥ニアタル村東西十二町南北七町十間

田 畝

四十九町六反三畝四步 内畠十九町六反二畝一步

歲 額

五百四十六石六斗七升八合 内畠百六十二石二斗八升二合

戸百十四 口四百二十五内女二百十七僧三替二

畜

牛十五 馬二

溝 渠

服部川 倉光村界ヨリ坊寺村界マテ東堤二百五十八間西堤四百三十四間

大溝 戸手堰ヨリ出ツ

堰 開

堰十九

開十八

暗開 長二十四間幅一間高二尺服部川筋戸手堰水筋ニカ、ル

橋 約

小橋十一

廟 墓

小祠九

古墳 岡崎六郎義繼ノ墓ト云

塔 寺

善正寺 天龍山淨土眞宗眞善寺末寺

庭一ハイニハヒコリタル松アリ戸手村天正ノ松ノ實テウヘシト云戸手村ニ禎徳寺跡アリコ、ニ移シテ今ノ名トス善正ハコ、ノ廢寺ノ名ヲ用ユモトノ本尊ハ寺内ノ觀音堂ナリト云

廣徳院

岩成山眞言宗明王院末寺

此寺宗岡氏ノ香火院ニシテ成滿ト云人ノ位牌アリ當寺本願

前播州大守天宅清公大禪定門天文三年甲午三月五日ト書ス足利尊氏ノ時宗岡播磨守ト云者功アリテ岩成ノ莊ヲ賜フテ居住シ光臺寺ト云寺ヲ建テ香火院トス永祿三年ニ江良住人貞助七右衛門今ノ處ニ引移シ宗ヲ眞言ニ改メテ廣徳院ト號ス宗岡ハ成滿ニイタリテ出雲ノ尼子氏ニ屬シ家亡フ縁起ヲ見ルニモトノ名長保寺トモイヒシヤ

憩亭三

龜シリ 大草二

古 蹟

土居城 江良與市太郎忠實 延元元年尊氏ヨリ岩成ノ庄ヲ賜フ岡崎四郎義眞ノ末流ト云

一本古城記ニ忠實ノ子太郎忠廣品治郡ノ地頭職タリシトアリ

江良丹後ト云モノ、コト大内記ニ家人ノ者ノソノ中ニ野上平兵衛江良丹後伊香賀市次郎此者トモニ隱密ノ謀反ノ評議ヲシタリケルト見ユサレハ陶全美カ味方ニテ後コ、ニ隱居セシナルヘシノ後其子段之丞トモニ討死ス事ハ總叙ニ見ユ中國治亂記ニハ丹後守トミユ忠實カ子孫ナルヘシ

### 倉 光 村

福山ヨリ二里六町亥ニアタル村東西六町九間南北九町二十八間

田 畝

四十町二反九畝六步 内畠九町五反一畝十九步

歲 額

四百三十七石三斗五升 内畠六十七石一升五合

戸 口



戸八十三 口三百六十九内女百七十僧八替一外ニ穢多四十二

牛二十五

溝 渠

服部川 中島村界ヨリ江良村界マテ堤長五百六十八間

新溝一派

堰 開

底樋二 小堰十四 水碓一

山 溪

飛磔石 上山守龍王ト蛇園龍王トカクラヘノ石トテ雨フラントスレハ水滴ルト云

廟 墓

天神宮 江良當村ノ生土神ナリ江良與市太郎尊氏ニシタカヒ九州ニ下リシ時太宰府宮ニ祈ルコト

驗アリ歸リテコ、ニ祠ルト云モトハ檜崎黨ノミノ氏神ナリシヨシナリ

小祠二

古墓一 江良段之丞侯ノ墓天神ノ境内ニアリ事ハ段之丞カ所ニミユ

塔 寺

明泉寺 小原山淨土眞宗最善寺末寺

小佛堂二

憩亭一

古 蹟

古城 城主倉光次郎實重ハ岡崎四郎義眞末流江良與市太郎忠實カ二男ナリ延元元年尊氏ヨリ岩成

ノ庄ヲ賜ハルト云此間三村ニ同事アリ

今按ニ神邊庄ヨリ戸手マテテ岩成庄トイヒシトイヘハソノ内ニテワカチ領セシニテ宗岡ナトモ

ソノ内ノ地名ナルヘシ明細書ニ忠實子孫代々相ツ、キ永祿元龜ノ間毛利ニ隨ヒ戰功多シ慶長年

中氏ヲ檜崎ト改子孫今尙江良村ニアリト云感狀三通チノコスコノ感狀ハ檜崎氏ノ爲ニセシナリ

江良カ爲ニセシニアラス總叙江良カ條ヲ見テ知ルヘシ

石崎 石崎小四郎義清居所ト云義清ハ忠實カ四男ナリト云

伊勢御膳 ムカシコ、ヨリ天照太神宮ニ神酒等ヲ獻セシ事アリ杉大木三十年前マテアリ風ニ倒ル

### 萬能倉村

福山ヨリ二里六町子ニアタル村東西十一町南北十三町十間

田 畝

百四十四町九反六步 内畠二十三町八反八畝五步

歲 額

千三百五十六石七斗七升九合 内畠百七十三石四斗九合

戶 口

戸百九十五 口七百九十八内女三百六十六人

畜

牛六十九 馬二十

溝 渠

砂川 東法城寺村界ヨリ下岩成村界マテ堤長七百九十一間

大池溝 東法城寺村界ヨリ下加茂村界マテ四百四十六間

新溝一派

池 塘

小池一

橋 約

石橋二

釜淵 光臺寺

三橋 四辻ノ三方ニカ、ル小梁ナリ

小約四十一

廟 墓

八幡宮 西宮大明神

石龜明神 通證ニ或説ニ神主其夢想ニヨリテ一ツノ石龜ヲ掘出セリ即コレヲ祭リテ今ニ至ル某初

ノ石龜ヲ掘出セシ時真ノ龜モ其上ニ俯仰シ重リテアリシトナリ又此社ニ奇事アリ何ニテモ祈願ノ

コトアル時蛇ヲ捕ヘ竹筒入ニテ固封シ携ヘ行祈ルコトナリ其社地ニ入ルト筒中ノ蛇忽ニ消融スサ

ルコト人皆マノアタリ知ル所ナリ今神殿ノ欄干ニ多ク竹筒ノ掛レルハ皆祈願アル人ノ携行シナリ

社地近邊ニハ蛇スムコトアタハスト云

今按ニ凡蛇多キ所ニコノ社地ノ砂ヲトリ來リテシグトキハ人ヲ害セス安那ノ湯野村ニ蝮蛇多ク

ヤ、モスレハ人ヲ咬シカアルトキコノ砂ヲ乞キタリテ蹊路ヘマキシヨリソノコトナシト云近頃

ハリノアタリノ貧人ソノ處ノ直七ト云モノニ乞フテ砂ヲモヲヒ近村ニクハリテ初穂ト云モノヲ

トル

小祠四

塔 寺

小佛堂一

憩亭三 西谷 山手山 新漕

古 蹟

一ツ木水 涌泉ナリ大旱ノ年人ノ命ヲ繼ト云義ナリト云今ハ一ツ木トカク

### 中 島 村

福山ヨリ二里十六町亥ニアタル村東西十七町二十二間南北十二町二十一間

田 畝

五十六町二反一畝一步 内島十七町九反一畝十二步

歳 額

五百七十七石四斗八升 内島百二石八升二合

戸 口

戸百十 口四百七十二内女二百一十一僧二替一

畜

牛二十二 馬三

溝 渠

服部川 大池ヨリ出ル西法城寺村界ヨリ倉光寺村界マテ堤長七百四十一間

新溝 長四百十六間

池 塘

小池十二

橋 約

小約五十五

堰 關

堰八 水碓一

山 溪

嶺一 才野峠 新山村ニ通ス

谷十五

廟 墓

八幡宮

小祠十六

塔 寺

寂明寺 驛山馬宿山トモ真言宗明王院末寺

六郡志に此寺は往昔山田村にありていつの頃にや大池の上手樋の脇の山上にうつす寂明寺時頼寓宿したまひし所なりと云しかれども度々焼失して傳記もなく其上高き所にて不自由なりとて延享四年丁卯法印如實今の地へひきさげ建つもの山の跡に古き墓ありむかしの本堂の前に梵字を彫たる供養の卒都婆あり又延文二年七月十七日といふ石塔あり時宗の塔と見ゆたり延文は崇光院の御宇の年號なり弘長以前より此所に寺あり寂明寺止宿したまふ故に今の名に改しならんものと寺

斷絶に及て眞言地になりたる歟又時宗の寺の廢寺跡有て眞言宗をうつしたるか詳ならずと云辨説にみゆ

小佛堂二

憩亭三 アカリ岡 宇福 寂明寺跡

古 蹟

土居城 岡崎三郎延實 六郡志ニ岡崎四郎義真カ孫中島三郎延實此所ニ一城ヲ構ヘ居住ス其末ニイタリテ中島善左衛門ト云モノ慶長ノ頃マテ郷士タリシカ斷絶スト云

石崎城 石崎小四郎義清

備後古城記ニ石崎今岩端ト云岡崎四郎カ末流義清此處ニ居住スト云

太平記ニ高越後守師泰石見ノ國ヨリ引返シケレハ武藏五郎師夏ハ播州ヨリ下リ備後ノ石崎ニ着テソノ勢ト一所ニナラントスルコト詳ニ合戦ノ部ニ記ス此處スナハチ是ナリ

祇園執行日記、貞和六年六月二十一日、高越後守師泰爲討伐、兵衛佐直冬今日丑刻、先發向ニ中國、可レ住ニ淀邊、其後可レ下ニ備後、隨テ跡、可レ發向九州云々申ッ給ッ院宣之上、錦幡用意、云云二十五日辰刻地震、又未刻震、今日高越州、自レ淀下、向ニ備後

園太曆抑光之下人入レ夜、自ニ幡州平野庄上洛、其說ニ西國、輩降參不、然河野上屋等以前到ニ着備後國、賢俊僧正爲ニ將軍使、可レ遣ニ兵衛佐直冬之旨雖、有ニ沙汰ニ通路於、今難儀之間、不レ及ニ進發、師泰自ニ石見三角城ニ被ニ追落ニ没ニ落出雲國ニ之由風聞云々何是非迷戀陶者也

右ノ三條同シ事ヲ云ナリコ、ニ出シ證ス

石崎宿 通證ニ中島寂明寺トイフ寺ハコレハ村ノ内ニ岩崎ノ宿ト云所アリ曾テ北條時頼入道ノ止宿シ玉ヒシ處ナリト云傳ヘリ今ハ岩崎ヲ岩端トトナヘリコレニ依テ寺ヲ寂明寺ト名付シヨシナリ

今按ニ寂明寺ノ二字ニヨリテ時頼ヲ附會セシナルヘシ此類處々ニ多シムカシ山陽道コ、ヲ通リシ時ノ驛ナリ和名抄ノ驛コレナルヘシコ、ニ石崎小次郎カ屋鋪跡アリ  
堀越 通證ニ此所ニテ鳥居ノ銅ノ額ヲ彫シムソレヨリシテ此所ヲ名ツクソノ額今寂明寺ニアリト云々

今按ニ山ヲ掘キリテ路ヲツケシ所東國ニテ切通シト云類ナルヘシソノ前後ニ清泉二處アリ  
行延 中島三郎行延ト云入ノ居所ノ跡  
古冢二

近田村

福山ヨリ二里十五町亥ニアタル村東西六百十四間南北四百六十間榜示一枚アリ

七十町二反一畝九步 内畠五十三町三反五畝十三步

七百四十二石三斗八升七合 内畠百三十八石五斗四升六合

戸百三十八 口六百二十五内女三百八僧三替一外穢多七十五

牛五十六 馬十

溝 渠 戸手村界ヨリ防寺村界マテ堤長五百二十四間

新溝一派

池 塘

大塚池 周二百二十八間

堰 開

水碓一

橋 約

小橋七十一 舟渡場

廟 墓

猪獅尾山八幡宮 小祠六

古墓 筑山ニアリ由來詳ナラス梵字ノ如キモノアリ

太歳神森 六郡志に入幡の西南の田の中に太歳神あり社もなくてわつかの森なり此中へ入て見たるものもなく木の枝をわろしたる事もなき所なり或時牧童何心なく此森の陰に牛を繋て草をかりけるか神木の上より大蛇頭をさけて牛に毒氣を吹かけければ牛忽にあへき死しきそれよりはなをなを恐れて近づくものなしと云

塔 寺

寶泉寺 唐川山淨土眞宗寂善寺末寺

小佛堂二

憩亭三 土居脇 下原南防

古 蹟

堀土居城ノ又堀内

近田宗左衛門義成 備後古城記ニ延元元年尊氏ヨリ岩成ノ庄ヲ賜フトアリ 一本古城記足利尊氏ニ從テ九州菊池合戦ノ時武略アリ上洛ノ時湊川ニテ戦死ストアリ子宗三郎義次相續シテ後備前國御野郡ニ移リテ程ナク没落ストアリ

平賀木工頭隆久 備後古城記永祿ノ頃

平賀九郎左衛門又平賀九郎

今按ニ神邊城ヲ攻シ平賀太郎左衛門隆宗杉原ニ遺恨アレハ一人ノ手勢

ノミニテ城ヲ援ント乞シコトアリ永祿ニアリシ家ソノ後ニ見エサレハ或ハ隆宗一族ニテ杉原ニ亡サレタルニヤ

石鳥井 中島往還路ノ二三町沖ニアリ一宮ノ鳥井ナリ此處モト一宮ノ神領ナリシヨシコノ村八播

ニ石ノ額アリコノ鳥井ノ額ナリシト云傳フ

龜川 俗傳ニ最明寺入道コ、ヲ過テ龜川ト名ツケシヨシコノ傍ニ同人ノ歌摺松ト云一樹アリ亨和

二年枯死ス

國造川 昔國造コ、ヲ過シトキ名水トテ飲シユヘ名ツクト云然レトモ飲シノミニテ名トスルモア

ヤシ或ハ品治國造居所ニハアラスヤコノ水名水ニテ近頃龍耳參象江ナト云茶博シハシハ用キシヨシナリニ水トモニ井ナリ方言ニ井ヲ川ト云所アリ

福山志料卷之十六終

福山志料卷之十七

戸手村

福山ヨリ三里戌ニアタル村東西二十四町二十間南北二十一町二十三間舊名疾出村

田 畝

百四町三反二十六步 内畠四十二町五反八畝二十步

歲 額

九百七十一石六斗三升三合 内畠三百十五石七升五合

戸 口

戸二百二十五 口千六十五内女五百二十僧三替四

畜

牛百十九 馬二十七

溝 渠

葦田川 福田村界ヨリ近田村界マテ堤長二百五十間

沙川二派

大溝 唐樋ノ流レナリ

新溝一

大溝五

小溝二十九

池 塘

平池 周三町十六間

十四池 周五町十六間

小池八

堰 開

唐樋一 水他村ニカ、ル長十二間横五尺五寸高一尺九寸

陰開 長十四間横五尺高二尺

陰開 長十五間横二尺高一尺三寸

山 溪

嶺二 十四多和 捨松越 ミナ新山ニ通ス

石三 立石 長持岩 鏡石 鏡ノ如キ紋アリ

廟 墓

牛頭天王 緣起ニ爰當社再興記天文備後國深津郡江熊渡隅ト牛頭天王江熊今品治云々

今按ニ和爾雅神社考神社啓蒙本朝諸社一覽等ニ疫隅ノ社ハ柄ニアリト見エテ江熊トハ見エス又

江熊疫隅ト通ストイフ事隈ト云字ナラハ灣曲ノ意ニテスミクマトモ通スヘキヤイフカシ江ノ字

エキト訓シカタク熊ノ字スミトモ讀カタシ又江熊ノ郷深津郡ニ屬セシト云コトモアマリ遙ニ隔

リタレハ附會ニ似タリ六郡志ニ岩成ノ庄今ハ二十餘村ニワカト云テミレハ江熊ノ郷モ岩成ノ

庄ニ屬シテ深津郡ノ内ナリシヤサレハ坊寺山守等ハ岩成テヘタテテハナレナカラ品治郡ナリシ

ヤイフカシ伊勢太夫慶長三年配札帳チミルニ江熊ノ市宮内新市場ナトニツツキタレハ昔ヨリノ

江ノ熊ノ名ハアルトミユシカラハ疫隅ノ社ト云ハ柄ナリココハ別ニ江熊牛頭天王ト崇ムルニテ

トモニ上古ヨリ絶サル宮居ナルヘシ尙辨説ノ處ニ詳ニス別ニ延喜式ニ深津郡素盞鳴神社ヲ載ス

其所ヲ知ラス

磬 銘

備後國深津郡江熊牛頭天王社再興之事依瑞想天文九年四月十日始鉦同二十日成就鐘鐃之事同年八月十七日形作始同月二十七日成就於長者原鑄之下略

于時天文十年八月朔日

願主 長岡五郎左衛門正重

コノ磬神前ニカク郡ノ字右ニヨセテ細書ス

六郡志當社の境内を巨且將來屋鋪と云社前に三株一所に生ひ庭中に屈曲偃臥したる古松樹あり二株枯朽寛延の比より漸く一株をのこせり社地うしろは大竹林にて前は松杉などの森なり早苗の森といふ巨且か植置たる苗森叢となりたる故根深からすたゞ苗の根の如しと云

今按ニ晉帥童年ノ頃マテハ三株ノ内ニ株ハ茂鬱シテ一株クチノコリタル根アリ都合三本ナリ寛

延ノ頃一株ノミ殘スト云ハイフカシイツノ頃ニヤ殘レルニ株ノ内ノ一株中ホトノ皮ニ棟一モト

寄生シタルカ次第ニ長シテ終ニ松チ枯死セシムソノ棟生セシ處ヨリ上ハ直ニテソレヨリ下ハ松

ノ形ノ如ク屈曲シテ今尙アリ

六郡志に曰寶曆六年の比寺僧此松の圖を齎持して都にのはりけるに故有て三井御門跡の御覽に備

しかは御稱美のわまり丹青の妙手を以て三株の圖を摸し賜りしを又九條殿下の御覽に供し奉りし

に一首の御讚詠を賜はりぬ

詞書略す

早苗山いく千代あふく神垣の松のめくみの影もさかへむ

早苗松三株圖ソノ所ニ出ス

六郡志に此社祭禮毎年六月十四日より十五日までなり新市町はつれの山に御旅所有神興行幸還幸  
ともに老人扇笠などを持って躍上り飛上りさうめき立て供奉す其形體甚た笑ふへし扱祭禮終て後今  
年迄は達者にはねて供奉し給めてたさよなどいふて互に賀す神興行幸の時川原へ昇出し興丁東西  
に立わかれたかひに摺合打擲し川原の石を磔とし打わひなどして傷損するもの多しと云

末社

八王子 事柄ノ條ニ出ス

蘇民將來 事別ニ出ス

垢離川 井ナリ井ノ尻ニアリ天王ニ詣ルモノ手水ニ備フ

良大明神二社 中谷 砂川脇

八幡宮二社 一社ハ慶徳寺ニアリムカシハ壇ノ上ニ有故ニ檀ノ上大明神トモ號スト云

天満宮二社 内一社ハ戸手中須新市三村ノ生土神ナリコノコト明細  
書ニ見ユス

小祠十三

塔寺

天王寺 早苗山眞言宗町村榮明寺末寺

牛頭天王ノ境内ニアリテ天王ニ事へ奉ル慶長三年伊勢太夫配札帳ニ天王村天王坊トアレハムカシ  
ハ此處テ天王村トイヒシカ中コロ戸手村へ入シナルヘシ或云天王坊トテモトハ修験ナリ有地某弟  
ヲ山伏トナシ此ニ住セシメテ佐賀田ノ城ノ援城トス今櫓ノ如ニシテ小ナル一屋アリソノ時ノ櫓ナ  
リ眞言僧ニナリシハ至テ近キコトナリト云天王坊トテ配札ヲモ受タルナレハサモアルヘシ有地元  
森カ鏡アリ古物トミユ別ニ圖アリ

通證ニ天王寺住持宿俊ハ有地元森カ弟又左衛門カ子ナレハ相方城廢セシトキ城門櫓ヲ寺へ引シナ

ルヘシ有地ハモト法華宗ニテ日蓮自筆ノ法華經方便品ヲオサム上人コノ寺ニ持來リテ今尙アリ上  
人長壽ニテ眞享四年ニ死ス天王坊モト山伏ナラハコノ人ノ代ニ僧トナリシナルヘシ相方ノ援城ト  
云ニハアラスト云又云相方ノ城ノ石垣全存今ニイタルハ天王寺ヨリ禁スレハナリ

法光寺 庵

通證ニ六才ト云所ニ庵一字アリ本尊阿彌陀如來ナリ即此谷内ニ法光寺山ト云所アリ古ヘ法光寺ト  
云寺アリ往古廢壞シテ本尊ヲ此所ニ移ス故ニ法光寺庵ト稱ス然レトモ御檢地御圖帳ニハ六才ト地  
名ヲ肩書シテ四ツ堂ト記ス然レハ後ニ庵ヲ營ミシナルヘシ

長樂寺 庵

通證ニ長樂寺ト云寺跡アリ御圖帳ニ釋迦堂アリテ地名ヲ長樂寺ト書スムカシノ遺物ナリト云傳へ  
リ長樂寺ハ今所ノ名トナレリ天明年中此所ノ百姓某江戸深川本誓寺ニ住セシカ歸來テ庵一字ヲ建  
立シ如來ヲ此所ニ移セシナリ

小佛屋二

憩亭四 宮ノ下 天王前 ソウツフ二

古蹟

殿山城 事跡不知中頃法光寺ト云寺アリシト云

青明寺跡 今所ノ字トナル寺ノ廢絶年代シラレス

慶徳寺跡 御圖帳ニ鎮守神社アリテ地名ヲケイーク寺ト書ス良大明神八幡宮ナトノ地名皆コレナ

レハ此寺頗ル大寺ニシテ境内モ廣カリシニヤ

宿ノ立石 宿ト云所ニアル大石ナイフ由來知ラス

古冢三

六郡志に此社祭禮毎年六月十四日より十五日までなり新市町はつれの山に御旅所有神興行幸還幸  
ともに老人扇笠などを持って躍上り飛上りさくめき立て供奉す其形體甚た笑ふへし切祭禮終て後今  
年迄は達者にはねて供奉し給めてたさよなどいふて互に賀す神興行幸の時川原へ昇出し興丁東西  
に立わかれたかひに摺合打擲し川原の石を磔とし打あひなどして傷損するもの多しと云

末社

八王子 事柄ノ條ニ出ス

蘇民將來 事別ニ出ス

垢離川 井ナリ井ノ尻ニアリ天王ニ詣ルモノ手水ニ備フ

良大明神二社 中谷 砂川脇

八幡宮二社 一社ハ慶徳寺ニアリムカシハ壇ノ上ニ有故ニ檀ノ上大明神トモ號スト云

天満宮二社 内一社ハ戸手中須新市三村ノ生土神ナリコノコト明細書ニ見エス

小祠十三

塔寺

天王寺 早苗山眞言宗町村榮明寺末寺

牛頭天王ノ境内ニアリテ天王ニ事へ奉ル慶長三年伊勢太夫配札帳ニ天王村天王坊トアレハムカシ  
ハ此處ヲ天王村トイヒシカ中コロ戸手村へ入シナルヘシ或云天王坊トモトハ修験ナリ有地某弟  
ヲ山伏トナシ此ニ住セシメテ佐賀田ノ城ノ援城トス今櫓ノ如ニシテ小ナル一屋アリソノ時ノ櫓ナ  
リ眞言僧ニナリシハ至テ近キコトナリト云天王坊トテ配札ヲモ受タルナレハサモアルヘシ有地元  
森カ鑑アリ古物トミユ別ニ圖アリ  
通證ニ天王寺住持岩俊ハ有地元森カ弟又左衛門カ子ナレハ相方城廢セシトキ城門櫓ヲ寺へ引シナ

ルヘシ有地ハモト法華宗ニテ日蓮自筆ノ法華經方便品ヲオサム上人コノ寺ニ持來リテ今尙アリ上  
三人長壽ニテ貞享四年ニ死ス天王坊モト山伏ナラハコノ人ノ代ニ僧トナリシナルヘシ相方ノ援城ト  
云ニハアラスト云又云相方ノ城ノ石垣全存今ニイタルハ天王寺ヨリ禁スレハナリ  
法光寺 庵  
通證ニ六才ト云所ニ庵一字アリ本尊阿彌陀如來ナリ即此谷内ニ法光寺山ト云所アリ古ヘ法光寺ト  
云寺アリ往古廢壞シテ本尊ヲ此所ニ移ス故ニ法光寺庵ト稱ス然レトモ御檢地御圖帳ニハ六才ト地  
名ヲ肩書シテ四ツ堂ト記ス然レハ後ニ庵ヲ營ミシナルヘシ

長樂寺 庵

通證ニ長樂寺ト云寺跡アリ御圖帳ニ釋迦堂アリテ地名ヲ長樂寺ト書スムカシノ遺物ナリト云傳へ  
リ長樂寺ハ今所ノ名トナレリ天明年中此所ノ百姓某江戸深川本誓寺ニ住セシカ歸來テ庵一字ヲ建  
立シ如來ヲ此所ニ移セシナリ

小佛屋二

憩亭四 宮ノ下 天王前 ソウドフ二

古蹟

殿山城 事跡不知中頃法光寺ト云寺アリシト云

青明寺跡 今所ノ字トナル寺ノ廢絶年代シラレス

慶徳寺跡 御圖帳ニ鎮守神社アリテ地名ヲケイノク寺ト書ス良大明神八幡宮ナトノ地名皆コレナ  
レハ此寺頗ル大寺ニシテ境内モ廣カリシニヤ

宿ノ立石 宿ト云所ニアル大石ナイフ由來知ラス

古冢三



大佐山白塚 此所石室多シ宿ノ近邊ナリ其内ニ最大ナル者ヲ白塚ト云入口半間ハカリニテ奥へ  
 入ルコト凡四五間皆切石ナリ室中ニ蝙蝠多シ此所村人石ヲ掘リ取時折フシ古器ヲ掘出スコトア  
 リムカシ此所ヲ長者ノ管領セシ山ナルヲ以テ長山ト名ケシト云詳ナルコトヲ知ラス 以上五  
 條通證 一ハ  
 赤子岩一ハ道家ト云  
 天王村 天王寺ノ近所ナイヒシニヤ天王寺ノ處ニ詳ニス  
 江熊ノ市 慶長三年伊勢太夫配札帳ニミユ

### 新市村

福山ヨリ三里十二町戌ニアタル村東西七町二十一間南北十二町申明亭榜示八枚アリ  
 六郡志に往古宮内村なりしか慶長の頃にや新市宮内上安井下安井四村となり又當村の内にて古市  
 新市向市と三つに分れりと云  
 今按ニ慶長配札帳ニ宮内郷天王村とてひら大もりひられん氣ひらつねひら金丸ひらるのくま市  
 新市場ナトカキツツケテ安井二村ハミエスるのくま新市場ナト唱ヘテ村トイハサレハ二村トモ  
 宮内ノ内ニアリシヤ大もり今ハ安井ニ入りれん氣宮内村ニ入ル  
 通證ニ宮内郷新免村本免村アルコト宮内地藏堂石燈銘ニ天文九年新免村安養院住僧之稻トアリサ  
 レハ安井ヲ新免ト云シヤ又宮内尾多賀カ家所藏ノ文明中ノ古證文ニ江熊ノ鼻ソケ堂ヨリ本免ノ郷  
 マテト云コトアリ大抵ソノ所シルヘシト云  
 田 畝  
 五十七町一反五畝二十四歩 内畠三十四町九反五畝二十九歩  
 歳 額

六百十五石七斗五升七合 内畠二百八十石二斗一升四合

戸二百八十七 口千百十六内女五百四十二僧十一僧二外穢多百四十二乞食二十五

牛四十七 馬三

溝 渠

神谷川 藤尾村ヨリ出當村ススハキト云處ニテ葦田川ニ入ル

湧泉一 本免ノ清水ト云

池 塘

小池二

橋 約

小橋十四

廟 墓

本免荒神 或時地中鳴動セシユヘ掘テ見レハ一丈ハカリノ大鱧アリ即穢多ニ喰ハセシニ瘡ヲ患ヒ  
 死ナントスルモノ多シ此魚ヲ神トシ祭ラント祈リテヤミシコレナリ

太平山黄幡神 出雲祠官北島左衛門ムカシ素盞鳴尊出雲へ來玉ヒシ時此處ニ一宿アリシト聞傳へ  
 シ事アリト云シヨシツタフ山根荒神ヲ一宿ノ處多クハ此社ナルヘシ黄幡神ニアラスト父老ハ云へ  
 ルヨシナリ

小祠十四

古墓一 庚申堂ノ前ノ畠中ニアリ姓名年月ナシ其所ノ字ヲ石塔ト云 通證ニ丹下與兵衛カ墓ト云

今按ニ陰徳記ニ討死之事ヲ載スソノ光景コノアタリナルヘシ尙古戰場ノ所ニ見ユ  
常夜燈一 町ノ東首ニアリ

塔 寺

安養寺 西光山眞言宗榮明寺末寺

通説ニ鐘銘曰、抑當寺者、往昔在栗柄村、稱鳴谷寺、有地城主有地美作守元盛公之所願寺、而十坊餘宇之本院也、故至今稱地名於鳴谷、其後改轉號卒山龍華寺、前任侶阿闍梨宥秀、寛永年中選勝境移此、又元祿十一戌寅歲、住持辨意再改而稱西光山安養寺、故迄今鳴谷郷民、舉而尊崇如執玉奉盈者、是此謂乎

本住寺 姥山本隆院法華宗京都本能寺攝州本興寺兩寺末寺

六郡志云開山善住院日慶慶長年中創造す

通説ニ此寺ムカシ葦田郡相方村ニアリ今ノ觀音堂ソノ舊址ナリト云傳フ山號ヲ姥山ト云フハ當寺龜壽山ノ麓ニアリテ山中ニ姥カ窪ト云地名アルユヘナリムカシ櫻山氏ノ叔母ノ住シ所ナリトテコノ名アリト云

道場坊 鷲鷹山淨土眞宗金丸村光秀寺末寺

道場一 六郡志に靈巖寺と云金丸村西圓寺より支配す

憩亭四 石州路ニアルテ御旅堂ト云 松熊 相方路 立石土手

古 蹟

網引浦 太平山ノ西ノ下ヲ云神護慶雲ニ賞典アリシ孝子網引公金村ココニ住ス相傳ヘテ方三十町

ノ田ヲ賜ハリ家繁榮ス初貧シキ時樵牧ノタメ谷ニ入レハ寒天ニノミテアタタマル水アリ取カヘリテ父母ニ供スレハ美酒ナリコノ側ニ糟山ト云丘アリソノ内ニ千町ト云社アリコノ左右ヲ長者屋鋪

ト云ムカシハ玉櫛山トモ大沙山トモ昔ク土中ニイロイロノ土器アリ又長六七尺幅四尺ハカリノ石梯ニ人骨アルヲ掘出スコトアリ人々恐レテマタ埋ミシト云

今按ニ巨且蘇民ヲモ長者ト云コレモ此アタリノコトナリ金村ヲモ長者トイヒシヤ

龜壽山城

六郡志に小野の宮城とも龜地山とも龜壽山ともいふと云詳ニ宮内ノ條ニ辨ス

宮下野守兼信

備後古城記ニ元弘年中トアリ太平記ニ宮氏ノ人所々ニ散見ス兼信入道シテ後ニ道仙ト云ヒシナルヘシ

參考太平記三十一南帝八幡御退出ノ條ニ云上略 三月十五日ヨリ軍始メテ巳ニ五十餘日ニ及ヘハ早兵糧ヲ盡シ助ノ兵ヲ待方モナシサハ今夜主上ヲ落シ參ラセヨトテ五月十一日ノ夜半ハカリ

ニ寮ノ御馬ニ乗セマイラセテ前後ニ兵共打圍ミ大和路ヘ向テ落サセ玉ヘハ數萬ノ御敵前ヲ遮リ後ニ尾テ討留參ラセントス中略 古津川ノ端ヲ西ニ傍テ御馬ヲ早メラルル處ニ備前ノ松田備後ノ

宮入道カ兵トモ二三百騎ニテ取コメ奉ル 天正本云備前國住人松田備中守備後國住人宮入道道仙 十方ヨリ雨ノ降ルコトク射ル矢ナレハ遁レ給フヘシトモ見エサリケルカ天地神明ノ御加護モ有ケルニヤ御鎧ノ抽草摺ニ二筋中

リケル矢モ曾テ裏ヲハカカサリケル下略

今按ニ年代ヲ考レハ道仙ハ兼信ナルヘシ一本古城記ニ兼信綱ニテ討死墓ハ今郷分村街道ニアリ法名大勇院傳通法運居士ト云トアリ

又太平記三十八卷宮内ノ合戦ノコトアリ古戰場ノ部ニ出ス

宮二郎氏信

貞和年中

宮下野守時政

應安年中

宮下野守元信

宮刑部少輔政信

宮若狹守秀景

備後古城記天文十年大内義隆雲州獲向ノ時同名左衛門尉ト同道ストアリ陰徳太平記ニ永正四年十一月前將軍足利義植公防州ヨリ歸洛ノ時供奉ノ中ニ宮若狹守秀景モツナレリ今按ニコノ外足利氏ノ時ノ記録ニ宮姓ノ人多シミナ備後人ナリコトコトク擧ケス本小野宮ト云三字ノ姓ヲ修シテ單姓トス源姓ナリトイヘトモ諸書ニ藤原氏トアレハ或ハ小野宮左大臣ノ裔ト云説是ナルヘシ

宮左衛門尉

宮下野守

備後古城記ニ弘治年中トアリ

宮内藏大夫

備後古城記ニ丹下與兵衛治行ト共ニ天正二年十二月廿三日備中川上郡國吉ノ城ニテ討死スト云今按ニ備中府志西國太平記ニ三村元親毛利家ノ爲ニ攻落サレシコトアリソノ時ノ事ナルヤ然レトモ異同アリ古戰場ノ條ニクハシ

古志三郎左衛門景勝

備後古城記ニヨルニ高須村ニモ同名アリ合セミルヘシ

一宮 鏡石

六郡志に大佐山の續き下安井の分にも一宮の鏡石といへる有是と相向へり一宮此所へ光臨ありて鏡にむかひ玉ふ故に神路山といふともいへり

今按ニ龜壽神路龜治龜地音似タルユヘイロイロカキシナルヘシ又龜一山トカキシモミユ大抵對譯ノ字ハ義ヲ棄テ音ノミヲ用キサマサマノ字ヲ填スルコト此邦ノナラハシナリ某ニコノ字ハ用キス某ハ必ニコノ字ナリトイフハ事ニコソヨレ必定スヘカヲサルコト多シ

祇園原 村ノ東南草原ナリ一宮ノ花瓶ニ祇園原道妙寄附ト書付アリココノ人ナリト云

馬市 當時諸方ヨリ馬ヲ引來リテ商フ十月二十五日ヨリ二十日ノ間ナリ藩ヨリ馬ノ役人出テ下敗

ト云日ヨリ一匹ニ粟三束荒糶三升ツツタマハリ帳ニシルサレシ日ヨリハ大豆一升ツツタマハルコト寶永ノ頃ヨリヤミシト云

### 下安井村

福山ヨリ四里戌亥ニアタル村東西二十町十間南北二十一町

田 畝

八十六町二反八畝十三步 内畠四十二町三反九畝十八步

歳 額

八百七十八石五斗四升五合 内畠二百七十五石三斗九升八合

戸 口

戸二百五 口九百五十内女四百六十七

畜

牛七十八 馬六

神谷川

上安井村界ヨリ新市村界マテ堤長千二百六十間

湧泉一 途師屋ト云所ノウシロノ堤下ヨリ出テ一小川チナス

小湖五

池 塘

小池十一

橋 約

小橋二十五

山 溪

嶺四

石モロケ 雨木村ニ通ス

マキ 助元村ニ通ス

才野 新山村ニ通ス

蛇切 柏谷ニ通ス

廟 墓

良大明神

八幡宮

小祠十六 内ニ加羅明神ト云アライカナル神ニヤ

塔 寺

観音堂 カシハニアリ宮刑部元理カ位牌アリ山頂ニ同人ノ墓アリ大碓ナリ

小佛屋四

憩亭五 ヌシヤ ヌケ湯 沖 ヒヤウキ 東

古 蹟

柏山城 備後古城記ニ石塔山ノ峰ニアリ助元安井ノ境ナリ

宮刑部少輔元清 備後古城記ニ宮下野守家老

一本古城記ニ宮城軍ノ時討死シ子孫長州ニ仕フト云

宮刑部元理

尾關隠岐

蛇斬 カシハト云處新山ニチカキ山ノ上ニアリソコヨリ西ノ野ヘ下ル道ニ蛇斬ト云嶺アリ正月ニ

ハ稻藁ニテ大蛇ヲツクリ路ノ右ノ喬松ヨリ左ノ喬松ヘ引ワタシ人其下ヲ通ルムカシココニテ大蛇

チキリシト云ツタフ圖アリ枝氏筆記云此所ノ百姓秋收ノトキ稻三四束ヲ各ソノママニトリチキ正

月十一日ノ晨コキツキ飯トナシテ歳神ニソナヘソノ藁ヲアツメ蛇ヲツクリカノ松ニカケサテ人

傍ノタガキ所ニホリ尻ヲマグリ打タキ大森ノモノトモコレテ喰ラヘ尻クヘ尻クヘトイロイロ

悪口シテ歸ル大森ハコノ下ノ人家アル所ナリタママソノ所ノ人ソコチス行クル事アレトモ古例

ナレハ黙シテカヘル或ハ大森ノ兒女イテ聞テ笑ヒタノシムト云

安養寺跡

六郡志に此所に宮内龜地山の城主小野の宮代々の石塔有此村の百姓五兵衛といふもの我地内の事

故折々掃除しけるか身上零落して屋鋪を沽却し茫々たる原野となり古墳もたをれぬ近頃迄は一ツ

の塔に安養院白壁昌純居士といふ文字見ゆしか今はいつれどもしらすと云

總ノ神

六郡志に蛇園へ越山道に松二三本ありこれをいふ  
天狗ノ腰懸松 同し所にあり  
附 近藤氏席上分題各賦余得宇治

西山 正

河橋南北水奔流戦跡蒼茫幾世愁天險祇今無所用間將蒿目送樵舟  
近藤氏コノ村人ナリ因テココニ附ス樵舟ハかすみにおつるうちの柴舟ト云歌ヨリ出タルナルヘ  
シ

### 上安井村

福山ヨリ四里十町亥ニアタル村東西九町南北三十町

田 畝

四十七町四反三畝十九歩 内島二十三町六畝十四歩

歳 額

五百三十五石七斗四升二合 内島百七十九石二斗三升四合

戸 口

戸百一 口四百八十四内女二百四十四替二

畜

牛四十九 馬七

溝 渠

神谷川 常村界ヨリ下安井村界マテ堤長四百八十間

蓋浦川 常村ヨリ出神谷川ニ入ル堤長二百八十五間

湧水一 河渡清水ト云

池 塘

小池七

堰 開

水碓四

橋 約

小橋四

山 溪

大鳥山

石

三石 神谷川ノ内ニアリ清水出

鏡石 大石ニツカサナル

廟 墓

石淵大明神

六郡志に宮内村石淵と相對せりと云

小祠十六

日隈古碑

六郡志に日隈山の麓安松といふ田の畔にあり日隈殿といひつたふ通證ニ延文元年丙申十一月日願  
主夢阿彌ト云文ヲノス六郡志に瘞或は蟲齒杯煩もの祈れば必驗有とて常に香火たむす此邊に首立

塙堀の内などいふ所有

塔 寺

安樂寺

石鏡山眞言宗榮明寺末寺

此山上ニ吉備津彦ノ鏡トテ大ナル石アリ故ニ石鏡山ト號ス六郡志には神宮寺末庵天正の頃これを  
建つはしめは住僧もありしか寛延の頃より無住となる云

毘沙門堂

少林寺

憩亭五

此後ニ棟ノ木ニ丈  
二尺圍ナルアリ

大森 大竹 桑木 山根

古蹟

網引浦

新市ノ條ニ出ス地ハツツキシ處ナリ

下迫城

宮越中守忠興 備後古城記ニ出ツ

日隈城

備後古城記ニ此山表ハ上安井裏ハ常村六郡志に此村の分を西の丸といひ常村の分を二の

丸といふ近き頃迄田畑を耕すに鐵鎧の金物等を出せしといふ

日隈肥後守快眞

備後古城記ニ宮下野守ノ家老ニテ雨木助元兩村ノ間軍カ端ト云所ニテ戦死ス家士ニ田上江草甲

斐等有ト云

### 雨木村

福山ヨリ三里十八町亥ニアタル村東西二十三町南北七十五町

田 畝

三十五町八反五畝二步 内島十八町四反二畝四步

歳 額

三百二十八石四斗三升七合 内島百二十二石一斗八升六合

戸 口

戸百四 口四百六十三内女二百十三僧二替一

畜

牛十三 馬四

溝 渠

本谷川 蛇圍ヨリ出ル

野野藏川 村内ヨリ出

池 塘

馬地池 周一町十八間

小池十六

橋 約

小橋十六

山 溪

野野藏山

風呂谷山

松茸山 コノアタリ四圍ミナ一山ナリ

蛇園山 根回り五里二十七町五十間高三町八反 中島村内ノ平地ヨリ量ル

御繪圖奉行 大橋源總兵衛

御郡奉行 小高平八

大御目付 石黒彌市郎

御繪圖役 秋庭庄兵衛

手傳 菅谷藤右衛門

雨木村 本郷村 助元村 永谷村 新山村 中島村 戸手村 新市村 上安井村 下安井村 常村 金丸村 藤尾村

右十三村蛇園山之根張へ入候村 但峰ハ雨木村地内

正徳三年

備後國蛇園山繪圖  
御勘定奉行大久保下野守様  
被 仰付則菅谷彌市左衛門  
承之候由

同十一月二十四日被 仰渡御繪圖方秋庭庄兵衛手傳菅谷藤右衛門御勘定方高橋伴藏同二十七日蛇園山江罷越同十二月二十日出來同二十五日江戶江差出候

右者大橋源總兵衛日記有之寫

右者御勘定所記録有之寫也尤繪圖並此書面共木村彦助殿御肝煎相調申候依テ記置者也

品治郡服部雨木村

江種十藏

右雨木村十藏家ニ記スル所ナリ

秋日登蛇園山

空 空 庵名大主泉州人

千尋蛇嶺倚西州疊翠高臨大海流仙客窺頭煙氣斷龍王祠上白雲浮九江雨霽買帆返四國天寒羈雁愁嘹望自忘塵俗意欲辭幻世老林邱

大ノ足跡石 赤子ノ足跡石 共ニ岩疊ノ四五間傍ニアリ外ニ抱キ岩嶺岩等アリ

廟 墓

長ノ尾大明神

八大龍王 蛇園山頂ニアリ

蛇園山高竈龍王廟記

備之三州、蓋東桑關鍵之邦、而四溟襟喉之地也、後州寂稱膏壤、南望讚豫之都邑、北通雲者之朔、自古有神龍廟、鎮於品治郡、群蠻環緯、河水帶繞、當于春闈明媚之際、秋涼蕭蕭之初、吐雲簇霧、翕乎麗屋大厦、炊煙縹氣、倏起倏滅、俗稱、曰高竈、蓋由於此乎、文治年中武備賴朝源公、令土肥實平梶原景時掌於中國政務、始知靈蹤之所在、以建廟奠曰、八龍王之宮、復創八幡祠於山麓、其規模準乎相之鶴岡云、中葉有宮氏常陸入道也者、據有本郡、侵略四邊戎馬縱橫、豺虎相噬、所有寶稱珠鬘、爲兵燹之所厄、瓦礫狼籍乎藜藿之間、而所謂龍王殿、僅存而已矣、傳道曩昔天龍乘石船降臨、山腹石面、有舳艫之狀者、呼曰船巖、大抵觀山之形勝、丹雘翠壁、豎峙者、奇巖在石、橫伏者、澗水潺潺、揉藍飛白者、松杉鬱々、植幢張蓋者、不遑狀出焉、有槿係山、上下長數百丈者、曰大槿嶽、猿櫻之所棲止者、曰猿城、正月懶祭魚於石上者、曰懶越、有淵曰蒼木壺、側有祀詞巖、天旱則民卒巫而舞雩、而無不徵矣、其流洄澗者、曰幡龍、其巖踞踞者、曰蹲虎、以形

背而名焉、加旃風雨晦冥、晴陰電雪、雲嵐寸而合、甘霖潤於百里者、其靈雖泰山神府、而不多讓矣、其下邑曰雨木者、不亦宜乎、寬永中水野勝成府君、命吏築堤塘、鑿陰溝、開閘門、引湖澗、以通民田、於是、其餘百流千派、滾々歸澗、以朝會之、凡有數郡之氓、歲無亢旱之患、而家免懲求之譴也、驅市抄野、歎聲弗絕、靡不出于龍淵之澤、而抑府君之仁、亦溥矣、此峰稱曰蛇園、蓋本邦風俗、喚龍爲蛇尙矣、所言蛇者、毒蟲多種類、大小不同古有巴蛇吞象、漢高夜行斬白蛇之說、雖大、非所以神龍變化不測、而得天地自然之道者、當謂之龍淵、而謂之蛇園、嗟呼淵之與園、音相近焉訛邪、其謬滋甚、且民俗好信靈怪、故妄誕附會、道聽塗記、寔可嘆息耳、今採其可紀者一二、以作記云爾  
延享龍集乙丑夏五月書

見住明王院沙門三剛齋山

今按三三剛ハ服部村人ノ子僧正トナル文中築堤塘開閘門ハ七八十町ヨリナル法成寺ノ池ヲ云ナリ危岩隙虎澗水蟠龍等ノ文字ヤヤ文飾過タリト見エテ今ソノ處ヲ尋ルニ知人ナシ然トモ築略ヲ見ルヘケレハ剛リサラス

神田神社 三代實錄貞觀二年春二月二十八日授備後國正六位上神田神正五位下

今岩壘神社ト云別ニ說アリ通證云安井村ヘ越ルトコロノ道ニ大石ノ上ニ平カナル石ヲ重子テ石塔ノ如キモノアリムカシヨリ人皆墳墓ナラントイヒシカ元文ノ頃吉田ヘ參候セシ社人ニ備後國二十一社今按二十一社ハ二十二社ヲルヘシ式内十七社外五社アルノ内品治郡ニ岩壘ノ神社ト云アリ知タル哉ト尋テ爾夫ヨリ當國ノ中ヲ吟味シテ則此石岩壘ナルヘシト云シコトアリイカニモ古ハ社モ有シ所トモ見ユレトサセル證モナシ又云和名抄ノ葦浦今一小谷ノ名トナルコト神田ト云亦ソノ例ナルヘシ  
小社三十二

古墓一 仙山ニアリ宮常陸守ノ塚ト云所ナリ

塔 寺

正覺寺 月曜山淨土眞宗照林坊末寺此寺ハシメハ長福寺ト云

憩亭六 神田 田口 新屋 野々倉 西 日和

古 蹟

泉山城泉ニニ仙ニツケル

宮常陸介元清

備後古城記ニ天文年中ニ敵中島村石崎信實寄來リ城山ノ向ニ雨木助元ノ境ノ山ニ陣ヲカマヘテ戰ヒ宮氏討死ス其時家臣田上江草甲斐其外家人鏡長刀弓等ヲ井ノ内ヘ投込城ヲ燒拂フト云城門前ハ今助元村ニアリ菩提所宮信光開基禪宗信光寺ト云

三島三郎  
甲斐助元

今按ニ村名ハ此人ノ名ニヨリシヤイフカシ

原 城

土肥 備後古城記ニ只二字ノミナリ 一本古城記ニ土肥通綱トアリ桑原氏ノ祖ナリト云

梶原屋鋪 蛇園山中ニアリ梶原平三景時土肥次郎實平ト同シク此國ノ守護トシテ來任ス其アト今尙梶原ヤシキト云此比ノ官遊人ハ府中ニコソ來ルヘケレ戰鬪ノ後ナレハ險阻ニヨリテココニ來リシカ府中ステニ廢絶ノ後ナリシヤ此時ノ童謡ニ地頭土井殿代男ハ梶原ノ奴トウタヒシヨシツタフ千人塚 藤尾村金山アリシ時礦ハツフレテ掘子ノコラス死スコノ處ニ松ヲウヘテシルシトセント云松今尙アリ圍一丈ハカリ



助元村

福山ヨリ三里十八町戌亥ニアタル村東西二十四町南北四十二町

田 畝

四十三町二反二十四歩 内畠二十六町六反二畝十九歩

歳 額

三百七十一石二斗四升 内畠百九十石一合

戸 口

戸百十三 口四百八十二内女二百四十僧一替三

畜

牛六十二 馬四

溝 渠

服部川 服部本郷村界ヨリ服部永谷村界マテ堤長三百八十四間

溝川一派 多和ト云所ヨリ出タルミ川へ入ル

池 塘

小池八

橋 杓

小杓七

山 溪

嶺一

炭焼峠 安井村ニ通ス

樹

笠松 大木ユヘ地名ヲ笠松下云

廟 墓

小祠十七

塔 寺

信 光 寺

重樂山禪宗龍興寺末寺宮常陸守信光開基

六郡志に神邊城主杉原宮内少輔忠興の妾は山名豐清の娘なりけるか弘治三年の春忠興死去せし時  
いまた三十歳にも及ばざれども髪を切剃刀にて鼻を截貞順を夫に示し忠興卒後藝州奴田佛通寺に  
受戒しある古寺に眞終しけるとて陰徳太平記に有その古寺といへるは此寺の事なりとそ又村老の  
語傳へしには忠興卒後其妻一壽の前以の外淫亂にて盛重神邊の城を追出す一壽御領の法道寺を頼  
み詫けれども盛重聞す尼となりて佛通寺に参して一心堅固になりければ宮常陸守これを信して此  
寺の僧を追出して此尼を住せしむるれよりしばらく尼寺となりしか後又もとの如しといふ  
今按ニ法道寺ニ一壽方願文今ナチアリ然レモ別人トミユ辨説アリ

憩亭十三 地藏堂 藥師堂 觀音寺 峠 ハナ 石井 門前 下タルミ 寺上 カシヤ 堂迫  
山根

新山村

福山ヨリ三里戌ニアタル村東西二十町南北二十一町十五間

田 畝

四十三町三反一畝二十五步 内島十七町六反二畝二十步

歳 額

三百三十二石四斗六升五合 内島九十四石八斗二升三合

戸 口

戸九十一 口四百五十二内女二百十九僧四替五

畜

牛七十二 馬一

溝 渠

服部本川 服部永谷村界ヨリ服部大池マテ堤長百十八間

下タルミ川 堤長二百十八間

正フ川 堤長二百間ムロトウ川ニ入ル上ハヒスハ谷一派ムロトフ川一派合シテ此流トナル

池 塘

小池三十四 服部大池ノ内此村ノ地モト十二町六反ナリ法城寺村ノ條ニミユ

橋 杓

小橋一

山 溪

谷六

嶺二

萱草越 助元村ニ通ス

石 オノ多和 下安井ニ通ス

大悲石 岩舟ノ事

鳴石 此岩敲トキハ聲ヲ發スルコト譬ノ如シ

波打岩

鬼ノ釜 ミナ大坊ノ後ニアリ

廟 墓

天 神 社

小祠六

塔 寺

福盛寺 妙雲山眞言宗明王院末寺モト新山ト云コノ號ハ近頃ツケタルナリ鐘銘ニヨルニ大同年間

ニ創立スル所ニシテ中頃百五十貫ヲ領シ十二子院アリト云

六郡志に云此寺天正年中雷火にて焼失す往古よりの記録もなくなつた相傳ふる所人皇五十一代

平城天皇二年にこの山湧出しより新山となつた太古此邊は大海にて觀音石船にのりて上りたまひ

し其石船今に大池の西の山上にあり大同元年日大上人開基といふ此事説はなはたし大同元年は

平城天皇御即位の年なり山湧出しはその前の事にや石船の麓に寺跡ありはしめ開基の所なり天

文永祿の頃までは大寺にて塔中十二坊有けるか松本坊はかりのこりて外ははのけはかりいひつた

ふ福島家の時慶長五年除地坪付一通わり除地拾五石壹斗なりしか元祿の時これも御取上になりし

とそ

又云慶長よりはるか後まで神邊より新市までの間を岩成村といふ新山は仁王堂より福盛寺の山迄

をいひしか神遊より新市までの間を二十ヶ村にわかし時當寺の近邊高三百三十石餘を新山村とせしなるへし二王堂は寺より十四五町ほどへたゞりて中島境の田の中に朽損し享保の頃再興しける時二王の背に書付あり左に記す

寛永三年歲次乙巳十二月十五日形像作大佛子僧昌快

位牌一

雷震院殿徳若元理大居士神祇トアリ宮刑部少輔ナリ同人慕安井村栢觀音堂ノ後山ニアリ位牌觀

音堂ニモアリ

此寺ノ住持檀那門田氏へ正月三日ニ年禮ニ參同五日ニ門田氏寺へ來ル希有ノ例ナリコレハ桑原氏塙主タリシ時年々元三ニ祈禱ニ登城シ五日塙主佛參アリシ古事ナリト縁起ニ見ユ此寺正月ニ餅ヲツケハ必火災アリトテ年々餅ヲハ門田氏ヨリ送ルト云

福盛寺ノ諸坊廢絶ノ後字ニ坊名ノ今ノコレルモノ大坊ヨリ四五丁山ヲ下リ中大坊 下大坊 塙之坊 日光坊 千光坊 東坊 東圓坊等ナリ松本坊ノミ今存セリ

松本坊 妙雲山眞言宗明王院末寺

古 蹟

古城一 事跡シレス

古家一

### 服部永谷村

福山ヨリ三里戌亥ニアタル村東西一里二十九町三十七間南北十町十六間東北中津領安那百谷村ニ接ス

田 畝

五十六町六反七畝二十七步 内畠三十二町三畝十四步

歳 額

四百三十八石九斗二升二合 内畠百八十七石八斗四合

戸 口

戸百二十二 口五百七十六内女二百八十二僧七替四外穢多六十三

畜

牛九十 馬二十一

溝 渠

服部川 助元村界ヨリ新山村界マテ堤長十町十六間

池 塘

小池十六

橋 杓

小橋十三

山 溪

嶺一

四坂峠 兩法城寺へ通ス

鐵谷 ムカシ銀鐵ナリシヨシ云傳フ

廟 墓

八幡 宮

水野記ニモト社領七十五貫ト云今ナシ 通證ニ此社服部四箇村ノ惣生土神別當永昌寺社司本郷  
村兒玉甲斐ナリ祭禮ハ八月十五日ニシテ十三日ヨリ十七日マテ神事アリ十五日神輿行幸ノ時公開  
ト云役アリ此ハ昔雨木村城主宮常陸介勤メラレシテ今ニテハ里正當役ヲ以テコレヲ勤ム今ニ至ル  
マテ宮氏ノ古格ヲ以テ當日神馬ノ外公開ノ乘馬一疋弓槍鐵炮其外道具ヲ立テ揃ヘサセテ供奉スル  
コトナリ祭禮中ハ神事ハ勿論何事ニテモ公開ヨリ言出スコト禰宜別當ヲハシメ四箇村ノ者違背ス  
ルコト能ハス其外茶烟草ニ至ルマテ公開ヨリ先ニスルコト不能席ナトハ勿論ノコトナリ其古雅ナ  
ル神事ニテ近邊外村ニテハカヤウノ例ハナシト云盛榮云公開ハ公文ノ誤リナルヘシ  
小祠二十六

塔 寺

榮昌寺 長山眞言宗明王院末寺モト長明神アリテ田十六町七反五畝十八歩アリト云今ミエス長ノ

名ニ因テココニ記シ再考ヲマツ

泉龍寺 坂井山淨土眞宗光照寺末寺

小佛屋四

憩亭二

涼堂 中市

古 蹟

棕山城 桑屋越中守通兼

備後古城記天文十年大内氏雲州發向ノ時從軍タリ一本古城記ニハ宮ノ氏族ナリト云

後主目崎棕之丞秀定

一本古城記ニ桑原氏ノ家老ナリ桑原没落ノ時城主タリ尼子ニ屬シ伯州ニテ戰死ス

大澄城 桑原羅殿之助

高山 好古小録ニ備後國高山硯ヲノス國中ニ同名ノ所アリイツレノ高山ニヤ

大門 雨木ノ城盛ナリシ時此アタリ町家ニテ大仙祭コトニ馬市アリシト云或ハ大仙祠ハ寶永年中

ニ刑右衛門ト云百姓ウツシ來ルト云前説ト齟齬ス

市 場

中 市

讀 坂

明細書ニ昔一馬卒空櫛ヲ馱シテカヘル一男子忽ニ出テコノ書ヲトケ玉ハレトテ授ケシテ何心ナ  
ク受取來リトケル人ノ名ヲ問ハサリシカハ此坂ニテ人ニ逢テ其書ヲ出シ讀シムルニ名アテアヤ  
シトテ剝封シテ見ルニ空櫛ツケタル人ノ腸一具進上イタシソロトカケリ扱ハ水中ノ河童ナトノシ  
ワサナラン川アル方ヲ避テ歸レヨトススメラレ迂路シテソノ厄ヲ免レシト云ソレヨリココヲ讀坂  
ト呼フトナリ

### 服部本郷村

福山ヨリ四里亥ニアタル村東西十五町二十間南北二里一町二十間東北隅少シク公領神石郡坂瀬川  
村ニ接ス榜示二枚アリ

雨木助元本郷長谷ハミナ服部ニテコノ村ヲ本郷トイヘハソノカミ役所ニテモアリシ處ナルヘシ新

山ノ福盛寺ヲ服部ノ大坊トイヒナラヒタレハ服部ノサカヒ四村ノミニモカキヲサルニヤ 應神

天皇ノ妃吉備兄媛ニ織部ノ縣ヲ賜ハリシコトアリ備中ニモコノ名アレハイフカシ和銅五年ニ備後

安藝等二十一國ニ詔シテ綾錦ヲ織ラセラレシコトアリアルヒハ此地ナリシヤ

田 畝

四十町四反九畝二十九步 内畠二十一町九反三畝十三步

歳 額

四百十五石八斗九升三合 内畠百五十六石一斗八升七合

戸 口

戸百三十 口四百九十九内女二百二十九僧十四僧二

畜

牛九十七 馬五

溝 渠

谷 川

藤尾村ノ谷谷ヨリ出服部川ノ上ナリ

澗一

池 塘

小池二十三

橋 衾

小衾十七

山 溪

嶺一

八ッ坂 本郷ヨリ百谷ニ通ス

履掛 公儀御巡見休所

銀山 元祿中當村久兵衛新山村新左衛門ト云者掘リシヨシ廣尾山内鼠谷木トウラ兩處ニ古穴アリ  
今ハ出テス凡コノ傍近ノ村々四面皆山ナリワツラハシケレハ名ヲ載セス

廟 墓

小祠十

塔 寺

福泉坊 江葉山淨土眞宗西本願寺末寺

寶泉寺 淨雲山同宗光照寺末寺

圓福寺 湯船山同宗三次照林坊末寺

小佛屋一

憩亭十一 小田 廣尾 畑中 中部屋 山手 砂原二 家信 野鍛冶 巫原 鍛冶屋

古 蹟

勢山城 梶原平三景時 日隈肥前入道快眞 杉原伊賀守盛兼 天文年中

木梨伊賀守

今按ニ木梨杉原同家ナリ或ハ同人ナランカ或ハ勢山ハ太平記ニミエタル戰場ナリト云

孝 子

孫四郎 總叙ニ出

### 福山志料卷之十七終

福山志料卷之十八

宮内村

福山ヨリ三里二十六町村東西三十町南北一里二町榜示二枚アリ

吉備津ノ宮ノ内ナレハカク名ツケシヨシ慶長三年伊勢太夫配札帳ニハ宮内郷ト云今ノ町名 谷小路 砂入小路 中市 塔畑 藏下 有木町 藏本小路 新町 三王小路 館 神池小路等也

田 畝

八十町九反十七步 内畠四十三町五反六畝二步

歳 額

八百八十八石二升四合 内畠三百四十九石八斗七升五合

戸 口

戸二百九十二 口千二百五内女六百四僧五釋三

畜 畜

牛九十七 馬六

溝 渠

神谷川 常村界ヨリ下安井村界マテ堤長八百三十六間

神谷川支流 宮井手ヨリナカレ下一町ト云所ヨリ新市へ入本免ト云所ノ西ニテ二派トナリ一ハ小

イチヘト云所ニテ藤田川ニ入一ハ中津へ入ルコレハ用水ニテ用ユルトキノミ通ス

池 塘

神池 周三町二十六間

別處池 周三町十九間  
眞光寺谷池 周二町四十五間  
小池三

堰 關

宮井手 一宮ノ用水ヲワカツユヘ名ク

陰關二 二湖ノ中ニアリテ神谷川支流ヲ通ス

水碓三

橋 約

小橋三

山 溪

虎睡山 備秀山 鷲尾山

嶺二 木曾丸 廣谷村ニ通ス 坊寺 府中ニ通ス

小洞二 一ハ眞光寺溝ト云一ハ深山迫溝ト云ミナ神谷川ニ入ル

廟 墓

吉備津彦神社 大日本一宮記并ニ和爾雅曰一宮吉備津彦大明神ト稱シ又一宮大明神トモ稱ス

今按ニハシメ吉備ノ中山ニノミ鎮座アリシヲ三國ニ分レシ時各國ニワカチ祭リシ由傳レトモ延喜式ニ備中ノミ見エテ前後二國ハノセス國中最大ノ社ニテ其數ニ洩レシヲ見レハ延喜以後ニワカレ玉ヒシナルヘシ祭ル所ハ吉備津彦命 孝靈天皇マタ吉備武彦命父子等諸神ナリ後ニクハシ

長寛勘文ニ天慶三年二月一日丁酉有諸社位記清印事去承平五年依海賊事被祈十二社記也

一品吉備津彦命 備中

コノ外ノ社ハ略スコレニヨルニ同位記ナルヘシ然レトモ神位ニ高卑アルハ位田ニヨルトイヘハ備中一品ナリトモ前後二社オナシカルヘカラサルカ後考マツ火災ヲ奏聞シノ事帝王御記録ニノセタルヲミレハ尊重式内十七社ノ類ニハアラス

國花萬葉志ニ備後吉備津宮府中ニ立備中吉備津宮御同体ト云

今按ニハシメ蘆田郡ニアリ後コタニウツスト云大永二年奉納セシ寂勝王經ニ備後國一宮御寶前奉勤行寂勝王經願主府中與保戸村上之坊ト云書付アリ肩カキニ朱ニテ吉田郡トカク吉田郡乃蘆田郡ナリ與保戸村今用土トカク土生栗柄二村ノ内ニ入ル

六郡志に吉備津彦命の御衣を以て御神体とす本社の左右に礎あり往古は北 孝靈天皇南吉備津彦命と兩殿なりしを慶安元年水野家再建の時一殿となる内陣に良巽の四神各束帯にておはすと云  
△カシ三殿ナリシ  
コトノチニ見ユ

今按ニ百鍊抄 後堀河院寛喜元年十一月二十七日夜備後吉備津宮燒亡御體已下爲灰燼コレニ

據レハ御衣ハカリトハ見エス此火災ヨリ後ニ御衣ヲ求メ出シテ神体トセシヤ此火災大日本史皇帝紀抄要記等ニミナ載タリコノ後櫻山慈俊カ時燒亡シ南朝ノ天授年中ニ櫻山左近將監再建シ又元年中源頼長山陽道ノ武家ヲ催シテ重興ス社壇七間桁十二間拜殿梁五間桁七間 水野記ニミユ社壇下恐クハ梁字アラ 其後水野侯重興アリ凡コノ社祭神攝社末社等ノコト辨説ノ條ニクハシ此ニ年中行事ヲ載ス 破壇ノノチニコレル事跡ニテモムカシノ様オモフヘシ

大日本史列傳第十三孝靈四皇子傳彦五十狹芹彦命一名吉備津彦命 總叙ニ見エ  
同書雅武彦命 古事記作若日子命事岡二女曰播磨稻日大郎姫曰播磨稻日稚郎姫 二女以下並爲 景行帝后  
妃孫吉備武彦命 日本紀

吉備武彦命父名

景行帝四十年日本武東征蝦夷

帝命吉備武彦與大伴武日連為副

按自孝靈帝崩至于景行帝四

十年凡三百三十五年矣據此吉備武彦是稚武彥歌世之孫也

蝦夷既平還至碓日坂日本武將出信濃別遣吉備武彦於越國

其功賜姓原又以意加部

日本武有疾將薨乃遣吉備武彦奏狀

日本子意加部彦命

成務帝時為廬原國造備武彥進至阿都廬原帝因賞

年中行事

六郡志並通證及ヒ一宮社由緒書枝氏筆記ニノスル所ナリ目見セサルコトユヘ原本ノマ、コ、ニ寫ス然レトモ煩ニ過タルハ除テ大槩ヲ記ス

正月朔日より三日まで御内陣にて中臣被四日御錫の口明

早且より出仕神酒少將坊よりはしめ神子左の市次に惣司次に濱田五郎才おこせ助宗頂戴すこれを神事始と云前の中臣被をよむは參詣也

牛王加持

所司供僧出仕供僧麻上下中村三郎左衛門士鳥帽子白裝束にて拜殿に出牛王の印を以て立て四方を拜し南にむかひ三拜し中柱へ飛上りて印を押すかくすること三度おなし神前の左右の柱へまた三度つゝおなし事しさて神前大床へ上り卯木の串に牛王紙をはさみ數十五内陣へ投入同所の柱へも又三度飛上り印をおす是時内陣に詰居る社僧所司大床際へ出頭上へ印を押さる宮庄屋以下大床にて同し事す事終りて牛王紙一枚つゝ右人數へ配り三郎左衛門拜殿に下り供僧中へも同しことす此類記事ミナナ枝氏筆記ヲ用ユ

新始

松丸太三本を横に一本堅に二本置三大工佐藤與右衛門は士鳥帽子白裝束中村三右衛門門田六兵衛は士鳥帽子淺黃裝束にて三鉦をうつ此時神前より三方三ツその一つは鏡餅三重一つは土器一つは目録三枚のせ大工へわたしかの丸太へ餅をそなへ神酒いたゞき目録一枚つゝ賜はりて退出す三大工といふはむかしよりの大工にて宮の造作などの時は常の大工を用ゆると云

一宮正月吉所ノ事	千匹
一絹	千兩
一金	千町
一田畑	千駄
一銚	
右ハ任先例爲後日如件	
寛永三年 正月吉日	

三寶御祈禱

内陣六人諸司九人供僧十人神子十人樂人八人これを勤む中臣被をよみ拍子木をうつて相圖とし神子殿に神子神樂を奏し樂所にて樂人太鼓をうち伶人舞臺に出て太平樂を舞僧徒觀音堂にて誦經今時樂之なはち神樂はたいてかたはかり存す

七日弓始

早且所司皆々おこせ塗師馬別當會所へ出神子神樂男神子殿へ出各其席にて醴酒をいたゞくその時所司瀬尾式部白木の弓生木の生木を削りし可也矢矢は新しき竹に雉羽をはく外六人は常の弓矢所司都合九人並に馬別當塗師ともに拜殿に下り同所にて神酒をいたゞき樂所の前に立ならふその時馬別當神馬を牽來り同所南の方に七尺の的をかけ前に鬼板をかく鬼板は一尺四方の板表に星裏に鬼文字兩はしには年號月日を書し物也さて瀬尾式部的の前にすゞみより白木弓にて鬼板を射割りのこる六人三





見樂人共ニットム三日より十五日まで祭禮の内なり依右有司へ申ていろく見物座來る  
今按ニコレ申樂芝居角力等ノモノナリ近頃久シク此事ナシ參詣ノ人希ナレハナリ  
八日九日十日八講會

右三日御神供拜殿にて備ふこれを御山と云  
十日早且ニ社僧所司内陣へ出神前より國執行へ七度半使をたつ國執行はしめ供僧宮庄拜殿へ  
出執行ハ壇ニつき八講縁起を誦む行列は大床の前に立並ひ拜殿に飾り置たるものをかねつき兩  
人よりそれくにならす

行道次第

- |    |      |        |             |
|----|------|--------|-------------|
| 一  | 供僧一人 | 麻上下    |             |
| 二  | 神持   | 市尾宮三郎  | 士鳥帽子白       |
| 三  | 燈明   | 岡本右衛門  | 張ケハナシ       |
| 四  | 香爐   | 粟田織衛   | 立鳥帽子線絹      |
| 五  | 花皿   | 妹尾式部   | 白張ケハナシ袴     |
| 六  | 經    | 佐藤刑部   | 同上          |
| 七  | 同    | 追林東太夫  | 同上          |
| 八  | 樂人   | 橋本彌兵衛  | 同上          |
| 九  | 同    | 高橋次郎助  | 赤裝束袴        |
| 十  | 同    | 丹下吉左衛門 | 同上          |
| 十一 | 羯鼓   | 高橋左内   | 同上          |
| 十二 | 振鼓   | 高橋右内   | 鳥鳥帽子白裝束ケハナシ |

供僧

- |          |        |                 |
|----------|--------|-----------------|
| 本坊       | 山之坊    | 麻上下             |
| 向之坊      | 東之坊    | 同上              |
| 長谷川内記    | 長谷川右衛門 | 同上              |
| おこせ助宗    | 高橋彌兵衛  | 立鳥帽子白裝束ケハナシ袴腰摩木 |
| 神馬 籠二人 袴 | 山上庄之助  | 一東柄杓一器一荷ニシテ杖ツク  |
| 御太刀持     | 高橋彌兵衛  | 同上              |
| 子大紋      | 同上     | 同上              |
| 子大紋      | 同上     | 同上              |

右行列舞臺の前へねり出す時樂所にて鉦太鼓を打行列の羯鼓にわはす南より本社をめぐる事三  
たひ元の所へ立ならひ各の持たるものをはしめの如くうけどりて拜殿にかさるこの時所司は神  
殿にのほり供僧は觀音堂へ行神前にて拍子木をうち神子神樂を奏してをはる

附吉備津宮入講之縁起卷尾之書  
右吉備津宮法華入講  
長和三年甲寅始

于時弘治二年丙辰四月八日

當社供僧國修行泰範春秋六十四歳於末世大字結縁入也  
右縁起古本有紙味損破依之今書寫者也  
寶永八年辛卯三月日別當神宮寺一旭

六月十六日夜同郡戸手村牛頭天王奉幣

十六日戌の刻正仁坊所司長谷川内記追林東太夫神樂男おこせ助宗馬別當高橋彌兵衛幣持一人神前へ出神酒をいたさき神前の幣を幣持にわたす幣十二本外に大幣一本一緒にもつ御幣使正仁坊騎馬祝詞幣もち兩人の所司騎馬追林東太夫箸十二膳をもち梅ノスハニテコシラエ一本おこせ助宗太刀をもち高橋彌兵衛馬別當也さて天王社へ行鳥井前にて下馬拜殿に着坐し東太夫箸をさきけ幣ハ幣ニ持付テユキ北時出シテ供ヘタル御膳ニウツ御膳ハ飯ト田ニ生スルナヤト眞寔瓜也 長谷川内記神酒を奉り正仁坊祝詞を唱へ三人中臣飯をよみ此時神膳を白木三方へもり正仁坊と内記へ出し神酒は宮内の人みなく天王寺住持までいたさき馬別當に鳥目賜はり退歸る途中にて奉幣に行逢ものは災あるよしにて沿路の人他出せず天王社より先例にてこの日未明に白酒献上有

十七日神酒開

追林東太夫宅にて内陣へ神酒ひらさきあり高橋彌兵衛より辨し出す此料すなはち天王社よりわたる

久早乞雨父尾龍王社ニテ行ル、トキ當社祝史供僧等往テツトムルコトアリ略ス

七月七日御寶物蟲干

八月十五日辨才天秋葉大權現四社明神の祭禮あり

九月朔日より五日迄と八日と注連御神事

神子持の家々神酒を出し九日内陣へ入へき女子を定む内陣六人神樂男二人女子一人手遣一人

九日大御注連御神事

濱田五郎才おこせ助宗つとむ

同日神子左之市後ノ市右ノ市國別當板屋内侍相手内侍男神子二人神樂男濱田五郎才おこせ助宗幣持五人太床へ相揃神酒頂戴す終て神前の幣を幣持五人にわたすその時國別當内陣ニ入社僧少將坊

次席に着坐す神子神樂男幣持とも太床を下り拜殿の南を経て本町にいて神子五人男神子二人神樂男二人馬にのる神子三人絹笠とて眞綿をはりし笠をいたさき内侍二人は笠なしいつれも下け髪に蝶の折形をかける男神子二人紙の笠に吉の字三字かきしをいたさき瓜紋三つかきし紙の小旗をすさきの穂につけ各腰にさし赤白糸りましぬしたすきをかけ赤き袴に立波の染つけたるを着す此日の神子女は八歳より十三歳まで男は八歳より十四歳までをえらふ男神子二人は馬に乗る下馬より人に負せて土地を踏さす一番に濱田五郎才後の市右の市相手内侍板屋内侍左之市此神子乗し馬の腰を白木細二反にてつむ幣持一人つゝ神子の前へ立て男神子二人おこせ助宗本町北の方へねり出鳥居の内にて下馬いつれも神前へ上り神子八人少將坊手引にて内陣をめぐり神拜す終て神子五人神池の嚴島明神へ詣て再神前にかへりまた拜して退去

神池回り流鏑馬

馬乗役川上善右衛門淺黄に子持筋付たる裝束古き網代笠をいさき弓箭を携へ乗出す射鋒指五人射鋒をもち鳥居の内にかへる時善右衛門神池のめぐりを乗まはし鳥居の内にて乗とめ持たる弓を三遍よりまはすその時ひかへたる射鋒指一人出て持たる射鋒にて馬の三頭の上をふりまはす事三遍元の所へ退く善右衛門又乗出し池をめぐりもどの如くす此時次なる射鋒指前の射鋒指の如くすかくの如く五度して終る射鋒は七八尺の竹に木綿五尺を緋に染子持筋付たるをゆひつけたるなり事終りて裝束をぬきたすきをかけ古き袴を着し紙笠を着し小旗をさし鳥居前へ乗出す紙笠紙旗等ハ初め神子鳥居の内を過るとき矢取出てとり置たるを用ひさて本町通一ヶ所に角的五枚つゝ三處十五枚をかけ驅五度乘雁股にてこどく射落し神前に上り神酒いたさきて退散す

十月十四日より二十五日迄祭會今は十七日より十一月三日まで也其内十七日十八日十九日三日を祭禮とす





同左方右方神事

同夜丑時拜殿へ供僧出て誦經す樂所へ樂人出鉦太鼓を打二人烏帽子裝束にて一人は振鼓一人は羯鼓をもち本社を三たひめくるこれを左方右方神事といふこの日よりいろくの觀場をひらき月末にいたる今は十一月にいたる

十八日三方御祈禱

同夜神樂

當社三太夫國中神職勤む

十九日朝御湯立神事三方御祈禱

二十三日御武運長久の御札並に神酒爲吉例毎年御屋敷へ差上申候御公領已來十月二十六日に相定候

今按ニ御公領トハ水野家ノ後二年ノ内ノコトナルヘシ

十一月二十一日櫻山社祭禮神事

内陣六人祝儀此料御免田あり尾多賀加賀これをつかさどる

十二月二十一日煤拂神事

内陣六人御戸をしめ秘密の勤めあり

除夜神事

御神前歳男少將坊有木民部長谷川内記左方右方の勤これあり右歳男内陣は少將坊外陣は民部内記兩人隔年にて大歳節分に相勤む

年越の神事 右に同じ

毎月朔日十三日十七日二十三日銘々役所へ相詰御祈禱相勤申候社僧社人二人ツ、毎日無惰怠御内

陣へ相勤申候

社參日正月は元日五日七日十一日十三日十七日二十一日二十三日晦日二月よりは朔日十三日十七日二十三日此外五節句

社人連名

所 司

内陣社僧

同

同

内陣所司

同

同

所 司

同

同

同

同

同

同

供 僧

長谷川内記

少 將 坊

中 將 坊

正 仁 坊

追 林 左 藤

追 林 右 藤

張 田 求 馬

追 林 東 太 夫

山 上 治 郎

妹 尾 式 部

岡 本 右 門

張 田 織 衛

佐 藤 茂 太 夫

有 木 民 部

長谷川右衛門

坊國執行トイふ役をかね



神前手遣

炭知又左衛門  
木守新助

六郡志に當社神職の内一人僧形にてつとむるものあり是は往古八講會行はれし時の社僧いづれも清僧なりけれ共頃衰廢して既に凍餒に及ひければ是非なく魚物を斷妻帯になりて渡世しけり其子孫故片精進と號して妻帯にならざるうちは魚肉を食し妻を具すれば魚肉を斷剃髮にて淨衣を着し神前を務る事なり就中少將坊中將坊正仁坊此三坊は宮司幣取といふて内陣に相詰各寶物等を預る役なり正仁坊は三人の中にて上座にて實は正二位坊なれども何の世よりか正仁坊と誤れり

通證云片精進ト云コトハ往古ヨリ今日マテナキコトナリコレハ供魚ノ訴ナトアリシトキノ神宮寺ノ訴狀ナトニ依タルカ或ハソノ結衆ノ僧ノハナシナトニ言シコトアルヤ六郡志に除地の分に役人のこらす有之樂人諸司諸役人諸職人皆其家筋の者共なり年中行事入講舞樂などありといへども入講の大會舞樂など行ふ事能はずして其役々の末葉共樂器を携て社頭にうつくまり居るはかりなり

又云天文の頃までは尾道淨土寺當社別當にてその時分の書類祭典の一卷有之由高須村福善寺の住僧語られしなり入講會の緣起その外の書類少々國執行か方に持傳ふるよしなり

通證ニ淨土寺古書錄一卷之中一宮ニアツカルトノミヲ摘テノス小序ト傍注ハ本書ノマ、チノス貞和二年冬十二月同國吉備津宮供菜人等將幸行神輿於當山而作嗷々因越後守使左衛門尉退不虞之侵禮乃書云

備後國吉備津宮供菜人等依漁船事擬奉振神輿於尾道淨土寺云云爲事實者甚不穩便所詮止強候沙汰可注申子細之旨可相觸社人等之狀如件

貞和二年十二月二十一日

備後守判  
毛利...直衛

佐々布治郎左衛門殿

貞治四年春二月左近將監重尙制社人殺生之書曰重恐全觀

杉原光房ノ末孫カ

於淨土寺殺生禁斷所供菜人等縱社家威殺生之由承及候殊以無勿體候自往古。殺生之地作之上縱雖供菜人候固可有御禁制候若於違犯之輩者任法可加炳誠候諸事期後信候恐惶謹言

貞治四乙巳二月二十二日

左近將監全尙判

進上淨土寺侍者御中

今按ニ行間ノ細書ハ錄者ノ考チ附セシナルヘシコレヲ以テミレハ其頃ハ威勢モアリテ山王春日ノ如ク神輿ヲ振ナトノコトアリシハ知ラルレトモコノ文書ノミニテハアナカチ一宮ノ別當ナリシトモ見エス或ハ外ニ書類ノ證スヘキモノアリヤ否ヤ又山南村寶光寺ソノカミハ天台ノ巨刹ニテコレモ一宮ノ別當ナリシ由口碑書類ニモノコレリト云今左ニ記ス

法光寺古書之内  
奉寄進

法光寺免田之事

合畠壹反三百步者

右於畠者雖爲吉備津宮執行分内任先立寄進旨全奉寄進所仍如件

永德三年十一月日

當執行判

祈禱事殊可令抽精誠之狀如件

◎福山志料卷之十八 宮内村



應安四年十月二十七日

法光寺別當御房

六郡志に淨土寺ノ別當セラレシハ天文ノ頃トアレハ右等ノ證文ヨリ後ノコトナルヤ書類祭典ノ一卷今淨土寺ニアリヤイフカシ

今按ニコノ四書ニテハ別當ノコトモミエス至竟ソノ頃ハ文アシク又讀カタモアシキユヘ吉備津宮ノ字アルヲ見テムカシ別當ニモアリシカト言傳タルナルヘシ尾道ソノカミ神領タリシ時供御ノ魚蝦ヲトルニ殺生禁斷ノ寺ノ境内ヲモ避サルユヘ寺ヨリ訴シト見エテ其事ヲ制セラルヘキトノ文書ナリニ書トモニ別當ヲシキ事ハ見エス若別當ナラハ社人モ憚ルヘキニ境内ニテ魚ヲ捕コトイカト云ニヨリテ神輿ヲ振奉ラント云又社家ノ威ヲホシイマ、ニシテ殺生スルコトナトノ語ヲミレハ社家ノ勢張大ニシテ寺刹往々タシナメラレシコトアリシトミユソノ上大社ノ時ハ櫻山山名カ如キモ社務ヲ司ルトミエタレハ今時極衰ノ様子ニテハ例シカタシ供菜人ハ魚肉ヲ供スル人ナリ寺ノ領マテモ亂入スルヨシナレハ一宮ノ供物ト號シテ私用ノ物ヲモ取添ヘシナルヘシコレラ別當ニ非ル證也菜ハ野菜ニアラス魚ノコトアリ書籍ノ引證ヲ待タズサカナト云ハサケト魚トノコトナリ酒ニモナニモ花チリカ、ルナト、云語ニテモシルヘシナコヤト云ハ魚小屋ニテ魚市ナトノ處ヲ云ナヤト云ハ魚屋ニテ魚商ノ家號ニ往々コレアリ法光寺ノ文書ハコノ田モト吉備津宮執事ノ分内ノ田ナリトイヘトモ先立テヨリ寄進致サント云旨アリシニヨリ今度誠ニ全ク寄進致スト云コトトミユ祈禱ハ何ノイノリカ知ラス名當ノ別當ハ法光寺ノ別當ナルヘシサレハ外ニ證據アランハイサ知ラス此四書ニテ別當トハ斷スヘカラス本文ノ原注ニ毛利ト云ハ時代差ヘリ越後守ハ高師泰ナルヘシ左近將監ハ福原ニハアラス年月ヲ推スニ櫻山左近將監ナルヘシ文中ニ備後等ノ語ナキトソノ文意トニテ見ルヘシ

六郡志云往古有木民部少輔常社神職司の首長にて位階も高く大祿なりしとかや諸國とも元日には早く起る事都鄙尊卑同し事なるに當村にては常日より遅く起る事を専とし傳へりむかし有木の社參に參り逢へば必災ありといへり夫より今に到り所の例となりけるなり福島正則整備をたまひし時社領を沒收しける故社頭破壊し社僧神官餓死に至る有木民部はのかれて備中松山に仕ふそののち水野家御造營有て社頭も昔にかへりたるを聞て歸り來り水野家御參詣の時社内に待請しに騰成公何者ぞと御尋ありければ當社の首長有木民部太夫と申上く衰微の時他國にのかれ再興の時歸り來り所司長と申條奇怪なり追下すへしと仰けるに社人平生これを憎み居ければ左右の手を取て坂の下銀杏の樹の下まで引下しけり依之當社所司長は兒島内記備後一國の禰宜の長となりしと云

今按ニ湯野村石岡圖書ト云社人ハモト一宮ニアリシカ廢壞ニヨリテコトニ移居セシト云其話ニ福島ノ時社領コト、ク引上ラレセンカタナクテ祠司江府へ出テ願ヒシニソノ訴理アリシヨシニテ福島近習ノ人ニ命シテ關討ニシテ殺サシムソノ祠司發程ノ時近處ノ庵僧ニ書類錠鑑ナトチアツケテキシカリノ人歸ラス妻兒モ飢寒シテ離散セシカハイットナク宮守ノ體ニナリタルチ水野侯參詣ノ時社家ハミナ貧シクテ物カク人モナキホトナルユヘコノ僧ヲ呼出シテ故實ヲタツ子玉ヒ總社司へ賜ハルモノモコノ僧へ渡玉ヒヌソレヨリシテ別當ノヤウニハナリタリト云サレハ遠カラヌコトニヤ

又按ニ祠司ト云ハ文書ニノセタル有木ナルヘシ 繼體天皇御宇吉備國阿利斯惱人民コトアリ敏達天皇ノ御時海部羽島日羅ヲツレカヘリシ時阿利斯登之子臣ミユ後ニ吉備津宮祠官ノ長トナリ連綿繁昌シ三國分祭ノ時シダカヒ來ル後ニ宮政信ニ從ヒ戰功アリテ神石ノ郡豐松ノ庄ノ内ヲ采食ス今ノ有木村ナリ事蹟通證ニ詳ナリ長ケレハコ、ニ略舉ス阿利斯登ハ葦北國造也阿利斯ト

別也

右二説イツレ是ナルヤ或ハ江戸ニテ死タルトハ別人ナリヤモトノ別當ハ或ハ淨土寺ナリ法光寺也ト云テミレハ今ノ神宮寺新ラシキ一證ナリ

六郡志に寶曆四年甲戌正月御祈禱の節神前に魚物を備候哉早速取捨へしと云是は味増屋阿賀屋より千鱧三十枚ツ、備ふる事此度はかりの義にて御座なしといへは萬事別當の差圖たるへき所我儘なるよしいひつゝのり公訴に及び兒島内記か父戸手村天王の社人孫三郎禁嶽仰付られ正仁坊事は別當同意に心得へきに却而社人と一致になり水野家よりの法令をそむく段言語同斷の事なるに依る社職被召放候當社の神職兒島内記をはしめいづれも自官にて小田主殿に高佐渡黒瀬越後此三人は吉田官にて三太夫と號して神樂湯立等を務る役人なり例年十月十七日湯立の節懸鯛懸鳥をそなへ務來りし所毎々はともかくも今年より魚鳥をそなへ候事不相成候よし神宮寺より申付られ古來より何れの神社にても魚鳥相備湯立相務申候尤當社例歲魚鳥備來候事に御座候故吉田へ聞候候而も後難はかり難く存候間此段申達そのうへいかやうとも可致と答ける依而寺社手代遠藤忠平罷越さしかり神事の事に候間先別當の差圖にまかせ魚鳥備へす相務申へし以後いか様とも吉田へ訴可申由にて湯立相務其後一宮神事の義に付吉田へ申達候義御座候間上京仕度由三太夫より相達候得は一宮神事の義に付上京と申儀不相叶由被仰付ける 孝靈帝の御時よりの故實田島百島走島より往古歳年已來ともしられす當

御代まで千肴を献し來りたる事とも藝州公當御代御參詣有て千肴を献せられ御供御頂戴の節の儀共申披かんとしけれども權威を以て是非を分たす理不盡に押付られ自官の社人は勿論吉田官の神職に至るまで一言の理を吐申さへあははす白淨衣を着し回村を務たる片精進の社職共に黒

衣あたへ向來淨衣を着すまじき由言付られ九僧は勿論愁眉を懸悲歎の涙にむせはすといふ事なし宗休公御再興ありてより以來十月の祭禮には安藝周防長門出雲伯耆備前備中四國路より參詣群をなし芝居遊女等入込京都大坂の賈人店を飾りて夥しく市を立しかとも戌の歳以後何となくものさひしく剩祭禮毎にはからず障起り喧嘩鬪争出來て衰微に及事神慮穩ならざる故なるへし就中寶曆八年寅十二月二十七日神池の小家より失火し風もなきに鳥居より南一字ものこらす焼失すはしめ早速隣村より馳付なは打消へきに明神の鐘を撞けれどすこしも響かず常には山を隔て府中高木町村邊までひききけれとも此時新市安井までも聞ゆる事彌明神のいかり給へる事うたかひなし云云

今按ニコノ時ノ訴ヒトリ遠藤ナルモノ上チコシラヘ下チ威シテ定メシヨシソノ人ノ子孫トテニ家アリシカニ家トモニ不慮ノコト出來テ斷絶ス或云童形大男コ、カシコニ現ハレテカノ家ノ罪チ聲言セシコトアリ其時殿中ノ木像一體ミエサリシコト數日ナリト寛政ノ初メノコトナリ又按ニ今ノ文化ノ初ヨリ四五十年前ハ十月ノ祭禮ノ頃ハ家毎ニ祭禮ヨリ買來リシ物座上ニアルチ見ル詣テサル人スグナキチオモフヘシコレハ晋帥童年ノトギマノアタリ見タル所ナリ晋帥壯年ノ頃老人ノ話ヲ聞クニソノ人ノ若キ時ハ更ニ甚シクテ詣テタル人多クハ三五日滯留シ或書畫茶香ノ具棋局等ノ物ヲ携ヘ行他國ニアル知音ナトノ詣スル人チ招飲ナトシテ娛ムコトナリ今ハソノ時ノ十分ノ一ニモ及ハスト云シコトタヒ々ナリシ今時ハソノ話ヲ聞シ時ノ又十分ノ一ニモ及ハス五十年前ハ雜劇ナト幾場トモナクミル人群聚セシカ今ハ一場ノ芝居サヘミル人希ナリソノ荒涼オモフヘシ

除地

宮境内一町三反八畝四步 山林八十五町八畝步 藪二反七畝八步 古高五十三石三斗二升

田畝四町一反二畝十九步

殿 舍

本殿

番所

拜殿

巫所

舞臺

樂所二所

隨神門二所

側ニ蓮花形水鉢アリ銘ニ

御供所

天正七年八月吉日願主助右衛門敬白トミユ

鐘樓

鐘銘

天文九年庚子十月社務大願主山名宮内少輔源理興トアリ鐘坐銘慶長九年卯月吉日大工左衛門

トアリ

今按ニコノ理興ト杉原忠興ト名號マキラハシク軍書等ニ混シシルス或ハ一人ニテハシメ山名ヲ

胃シテ源姓トナリシカトモ後山名ト敵ニナリテ本姓ニ復シ名ノ一字ヲモ改メシヤ忠興死シテ子

ナク同姓トテ盛重ヲ嗣ニセシヲミレハ忠興ハ杉原ニテ平氏ナリ慶長九年ハ理興死後四十餘年也

或ハコノ時改鑄セシニヤ

神馬寮

御手洗池

池八反板橋欄干付大小二架中島ニ神社アリ池中蓮生シテ滿ツ

今按ニ四十年前ハコノ池ムカシハ蓮池ナリシトキ、シノミナリシカ明和庚寅ノ年大旱ニ池ヲ掘

テ香水ニセシカハムカシノ種リノ底ニアリシヤ明年ヨリ生出タリ古圖ニハ池中島三ツ欄橋五架

島中ニ神祠多シ島居ハ本社ノ正面池ノムカヒ安井村ノ地ニアリ島井ヨリ池中ノ島ヘ大欄橋カ、

ル古圖別ニミユ

石華表

往古ハ木ナリシニヤ六郡志に慶安元年著維困敦四月日欽而立どありむかし櫻山四郎父の喪中に社  
參しければ或人足下は忌中にあらずや社參無用なるへしと咎む四郎曰信を以て參るに何の咎かあ  
らんとて華表の前を過ける時かの咎めし人の上へ華表の笠木忽然として自ら落て其人死けるを  
其後福島正則參詣ありし時如此の良材を華表になし置事無益なりとてとりかへり藝州廣島の大手  
門の柱にせられし由言傳ふ

境内佛籠

本地堂

通證ニ元祿十二年ノ由緒書ニハ護摩堂トアリ寶永八年ニハ阿彌陀堂トアリ古圖ニハ此堂ナシ阿

彌陀護摩ノ堂ハアレトモ舊址今ノ所ニアラス土人云今ノ阿彌陀ハ孝徳院ト云天台宗ノ寺ノ本尊

ナリト

觀音堂 通證ニ一宮御經所ノ觀音ハ備後國三十三所ノ中第三十三番ナリト云縁起アリ事長ケレ

ハコ、ニ略ス永祿五年ノ記ナリ

地藏堂 坂ノ南ニアリ高一丈六角石燈籠アリ常燈銘ニ天文九年庚子十一月二十八日檀那同國新

免郷安養院住僧元稻藏主トアリ

藥師堂 阿彌陀堂 輪藏 六郡志に古き堂ありて輪藏はなしと云

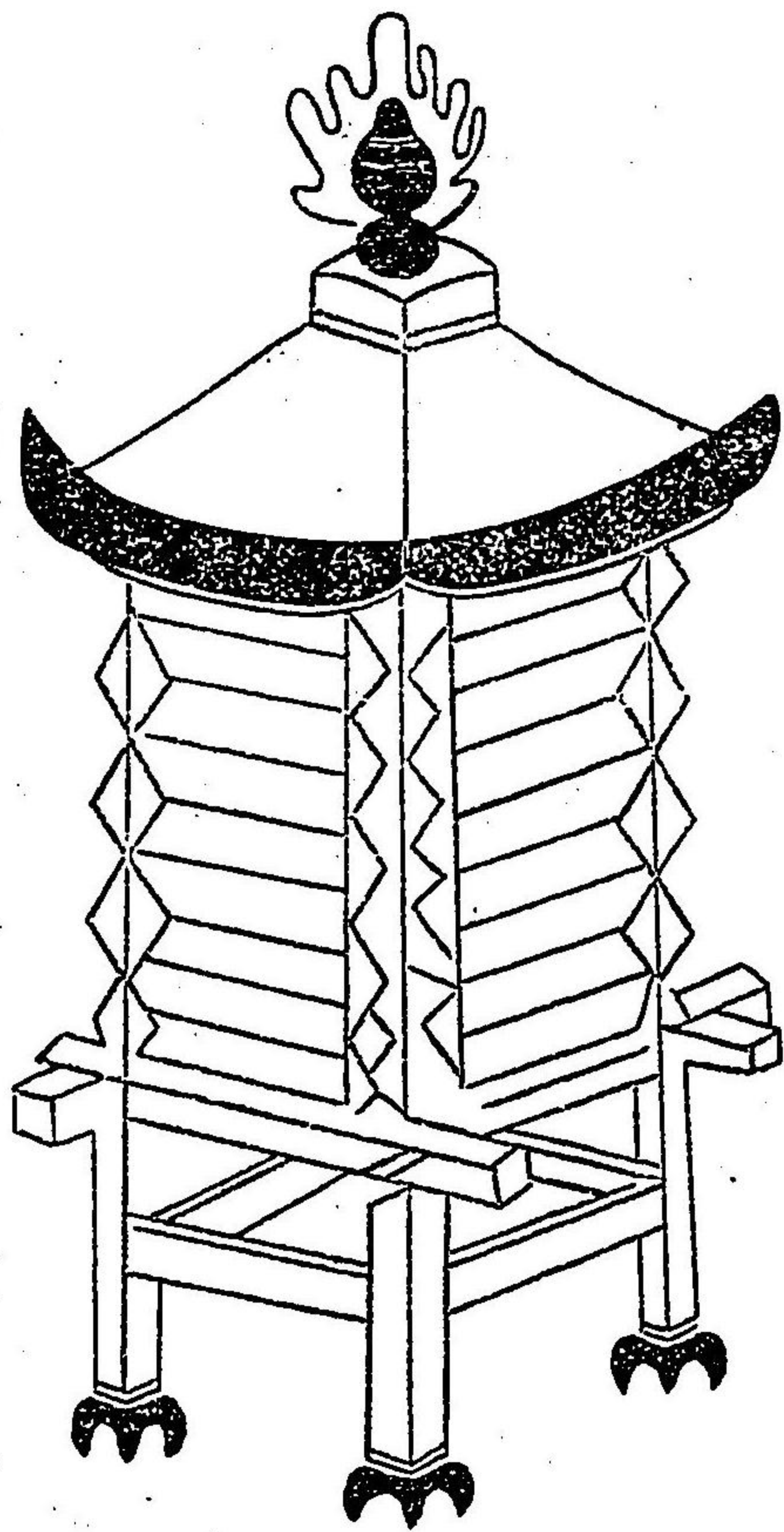
今按ニ古キ堂トハ正殿ノ左ノ前ニヨリテ古キアセクアラシシテ云ナルヘシ神道名目類聚抄ニ神

庫ト云モノ、圖ヲノセ神寶又ハ奉納モノヲ納ムト云コノ校倉晉帥カ若キ時タヒ々見シニ此圖ト

符合ス近日破壊シテ見エサレハ其圖ヲコ、ニウツシテクナリ

通證ニ輪藏モト今ノ鐘樓ノ近邊ニアリ今タ、ミチカル輪藏谷ト云處ソノ址ナリトイヘトモコ、

ヨリスコシヘタ、ル或ハ山脈ツ、キタレハタ、ミアル輪藏ニヨリテソノ谷ニ名ケシヤ



毘沙門堂 經塚二

一所御池ノ側ニアリ銘アリ文略今岡周防守道延本願元龜三年壬申十一月吉日トアリ通證ニ云御池ノ石浮圖モ經塚ニテ併セテ三所ナリ本社ノ左ノ山上ニ一ツ十二神社ノ上ニ一ツコレアリ塔之礎 六郡志に天正年中に炎上し文祿二年再建しけるか翌三年甲午又焼失しけるとなり今按ニ長亨二年塔再建ノ勸進帳アリ始ニ勸進沙門喜運敬白阪ニ明應七年五月六日筆者乗覺三十才トアリ通證曰塔ハモト池中ノ鳥ニアリ池セハマリテ今ハ田トナリ字ヲ塔ハタケト云

屋鋪跡ノ礎 六郡志に鳥居の内御手洗池の前兩所にあり此所にて例歲十月十七日國中の社家集りて座直りといふ事を行ひし所也

通證ニ年代久シキ諸書類ヲノス左ノ如シ

西國順禮札 文略 大永八戊子年九月吉日福田遠江守藤原咸雅

金燈籠銘 文略 應永十八年辛卯十一月日景茂

花瓶銘 文略 康曆三年辛酉願主祇園原道妙

御供桶ノ書 文略 永祿八年忠吉

金幣ノ銘 文略 大永二年壬午檀越同州西條保

金燈爐ノ銘 應永七年五月二十日中務尉藤原

同一 □永三一宮大明神

樂許狀卷尾之文 文略 弘安三年二月狛宿禰眞葛

同文略 弘安八年十月二十六日左近將監品治兼方

御祈禱儀樂目錄

萬歲樂 地久

太平樂 梓拍

瀧王 納曾利

慶長十二年十月吉日

外ニ神樂歌ノ譜等アリ別見

讓狀一通

樂免田 文略

正應三年十二月散位品治氏判  
樂免田目錄一通

三月三日舞童舞師給免事云云

年號蠹食不見

屋鋪證文一通文略

元龜四年みつのとの二月十三日黒尾伯耆守信資判

大般若經卷尾之書文略

于時應永二十三年八月十日願主藤原朝臣沙彌明禪

長谷川氏ニ藏スル所ノ毛利家ヨリ寄附狀

備後國一宮領

一三百石定 宮内

内

百石 年中御祭方

二百石 供僧社官勘允

天正十九年十二月七日

二宮 太郎右衛門判  
佐世 與三左衛門判  
内藤

林 與三右衛門判  
肥前守判

社家各中

裏書ニ今度御究相證之畢  
文祿五年五月十二日  
國司備後守判  
少林寺 判  
山田吉兵衛判

同一通  
充賜有木卿  
右免田守先例可令領知事文略  
永仁五年四月晦日  
平判  
阿彌

通證ニ上ニ六波羅一人ハ式部太輔平時輔一人ハ駿河守範貞トアリト云  
同一通  
續目之判之儀京都へ申上候處調候間只今遣候文略  
五月日  
親知判

有木小治郎殿  
通證ニ親知ハ龜壽山城主小野宮ナリ此書狀ハ右ノ六波羅ヨリノ免狀到來ノ節來リシ書狀ナルヘ  
シ

同一通

有木藤左衛門尉盛安跡之事爲給恩相許候文略

明應五年十二月十九日

政盛判

有木民部丞殿

同一通

亡父民部丞忠宗跡並ニ知行之事無相違可被把候

永正八年四月八日

政盛判

有小治郎殿

通證ニ政盛ハ龜壽山城主小野宮下野守也ト云

良神二 一ハ連下一ハ眞光寺ニアリ

小祠二十九

宥範墓 モトノ墓ハ至テ小也トテ寛政八年ニ改ツクルコノ年百五十年忌追福トシテ結城侯ヨリ茶

湯料ヲ玉ハルソノ銀ヲモテ再立スル也墓面ニ宥范ト彫リシハ榮明寺ノ中興ニ同名ノ人アリ榮明寺

ハ本寺ナレハ憚ルヘシト云人アリテ同音ノ字ヲ用ヒシ也然ルニ過去帳記録等ミナ範ノ字也百五十

年ノ後アラタメシハイフカシ範カ事深津村ノ條ニクハシ又辨説アリ合セミルヘシ結城ノ臣鈴木半

之丞茂野八左衛門カ茶湯料ヲ贈ル書範カ死日ヲ問書神宮寺ニアリ

塔 寺

神宮寺 虎睡山眞言宗榮明寺末寺一宮ニ事へ奉ル一宮社ノ山形虎ノ臥タルカ如クナレハ山ノ號ト

ス

通證ニ載スル所ノ代々住持

喜運 長享二年三重塔勸進帳ニ見ユ寶曆五年マテ二百六十八年ニナル都テ喜運ヨリ前後トモニ

舊記等ナケレハ知レカタシ内記類聚ノ奥ニ神宮寺無住ノミキリノ筆記アリコレ又タシカナラサ

ル書留ナリ故老ノ云傳フルハカリニテ宥頂法印マテハ住持シレカタシ

中興第一宥頂 榮明寺中興ヨリ第十四世元和八年九月十一日寂慶長十三年ニ神宮寺へ隱居ニテ

仰職致サレ其比ハ神宮寺ハ樂所ノ北方紅葉林壇今ノ紅葉壇ナリニアリ其後慶安ノ頃今ノ所へ移シ明曆二

年宥意代ニ客殿造營寛文三年落成ス棟札ニクハシク記ス

今按ニ宥頂中興トアレトモ慶長三年伊勢太夫配札帳ニ天王ハ坊トアリテ神宮ハ寺トカクサレハ

宥頂コ、ニ來リ隱居セシ十年以前モ寺タルコト恙ナク札ヲウクル人モアリシナルヘシ以下十一

代マテ記シアレトモ長ケレハ略ス

錫杖一枝 銘三行アリ一行備後國一宮吉備六二行辰大明神鉢主順三行應仁三年巳丑トアリ

通證ニ彦ノ字ワリテ書セリ第二行五字メヨメカタシ鉢主ト云コトカ名ハ順ノ字カ知カタシト云

中興寺 定光山禪宗龍興寺末寺開山鎌倉建長寺第二世佛國禪師

六郡志云龜地山の城主小野宮氏八代の檀那寺にて吉備津宮の別當なり小野の宮は尼子の旗下なり

けるか第八代目の何某尼子毛利岩成合戦の時討死しそれより吉備津宮の別當職も放され寺領減し

衰微に及びぬ是迄は臨濟宗なりそのうち福島正則の時に至て除地ことく取上られ斷絶せんと

しけるか曹洞の斧山和尚廢たるを起して相續すと云

今按ニ岩成ノ戰諸書ニミエス一書ニ神邊元藤沼ニテ杉原忠興毛家ノ兵ヲ破リシコトヲノス

由緒書ニ元祿年中當寺開基尋ラレシ時ノ書ノ略ト云モノヲノス

備後國品治郡宮川村定光山忠興寺ハ從古來禪宗根元濟家寺開基年代ハ嘉元三年草創當年マテ四百

年來ノ古跡ニテ御座候

開山ハ佛國應供廣濟國師 後嵯峨帝之太子云云有行業記扶桑禪林僧寶傳載之則夢窓國師ノ嗣法師也正和五年十月二十日遷化當年マテ三百八十九年ニ罷成候

當時永享時代永祿之頃迄有限神役相勤吉備津領ノ内當寺へ寄附其驗故今時分モ宮方ヨリ米少々致受納就中客殿破損之砌ハ先守護代迄藤田品治兩郡へ葺葺等ノ割賦御座候事尊氏將軍御治世ノ頃當所龜地山ノ城主宮下野守入道盛重歷代六世當寺歸依之大檀那牌名等子今御座候依之宮家繁榮之時分寺領數百石ニテ永祿ノ比迄相違無御坐候天正之末ニ至リ百貫文御坐候

天正之末毛利右馬頭殿御入國後寺社領被減少僅米十石許被宛行其時之打渡于今御坐候福島左衛門大夫殿領知之砌寺社領悉被召放爾來中絶仕候

水野日向守殿領知ニ罷成無程檢地等御坐候其砌當寺及衰敗利無住ニテ一言之訟モ無御坐候殊ニ宮方ヨリモ爲何斷モ不申出寺中寺外共ニ引高モ無御坐候僅客殿之下先守護代ヨリ被除置候以上

元祿十二年卯閏九月二十七日

忠興寺印

松平伊豫守様御内

松浦覺之丞殿

中興寺略緣起事長ケレハ始末ヲノス

原當山者吉備津彦大明神招提地而櫻山四郎入道外護焉于時元弘元年櫻山入道有旨一山悉灰燼矣其後龜壽山城主小野宮下野守盛重再興加之附肥饒之地許多爲寺領矣盛重八世胤政盛一族戰亡矣由是殿堂自壞矣有妙順禪納新建本堂爾來或人焉或不焉唯存寺號而已承應二甲午歲斧山林鉤和尙移錫於此享保丁酉經營之下略  
當山條々事書並禁法

一 公文者以開山塙正覺院吹舉啓檀方以且方吹舉御判可申事

一 爲諸山隨一之寺上者自然於寺家有煩有寺領等相違與檀方申談出于時守護方可申事

一 脫僧服若俗衣帶太刀並刀寺中出入事

一 二季大會不嫌僧俗於寺中借宿事

一 於寺中禁飲酒若於犯此旨入酒器置者ホノノ志滅

一 於浴室洗馬夜風呂比丘尼並女人事

右守此旨時住持可致御成敗此外寺中行事不及記規矩事可爲住持御計者也

大檀那忌日

元 法雲院前野州大守山翁禪律居士

二 見性院前倉部德海起公居士

三 雲樹院前越州大守立峯本公居士

四 千手寺殿前刑部侍郎高崑超公居士

五 安養院白壁昌純居士

滿重子後入道而云昌純

六 德雲寺殿前金吾將軍松齡昌祝居士

七 隨法院殿陽谷妙順大姉

八 慈眼院殿前野州大守雪岫忠公居士

明細書ニ龜壽山城主歷代墓塚の事申傳を承候處下安井村の内地名安養と申所に有芝候しかし事舊候故文字体も相みぬ不申たしか成儀は相分不申候尤五輪の石塔五基計石燈籠體の石杯有之候末葉今長

禪 盛 判

州御家中宮與左衛門尉覽政八年丙 此外小野宮ノ文書多ケレトモ悉シルサス寺ニ傳フル歴代ノ書類コ、ニ  
辰五月廿五日御尋に御出被成候 附ス

足利義教公御朱印之寫一通

三會院末寺備後國中興寺領

同國東條内字計原村本役分並西條森村内田地山野村内大原名田島戸宇郷内正作分田島等事

早任當知行之旨寺家領掌不可有相違之狀依而如件

永亨十年三月九日

住持

御判

三會院梵術判コレハ紙背ニアリ

六郡志に宮内村中興寺は往古三會院の末寺なり依之寺領の御朱印を預置たりとなり

今度合戦如所存打勝候間御祈念之至恐悅存候仍東條之内字計原村進入候可被遣御代官候毎事期

面拜之時恐く敬白

極月二十七日

下野守盛重

謹上侍者御中

今按ニ宮氏ノ人諸書ニ見エタルモノ總叙ニ出ス併セミルヘシ通證ニ宮下野入道藤原盛重寛正四  
年始ヨリ龜壽山ノ城主タリト云

桑木迫林伐取事

堅可停止若於背此旨罷者可處嚴科者也

永正九年十二月日

新五郎親忠在判

就當寺山堺之儀親在遣し置候如制札之旨堅御政道肝要ニ候置桑木迫林之事委細別紙申是又同前

ニ可被仰付候恐々敬白

永正九年十二月十三日

新五郎親忠在判

寄附

吉備津宮領之内

一所平林

一所鐘鼓免

一所乙永名

一所岡迫池上共ニ但是ハ熊野御領此内貳反吉備津御田

右處奉正覺院寄附也但有限於御神役者可被勤者也仍而寄附如件

永亨十年正月十六日

元盛在判

通證ニ元盛ハ永祿年中龜壽山落去也ト云

寄附

備後國中興寺領同國吉備津宮領内重澤内島並正吉寺本寺領等事ニ注文在判紙文略

應永三年十一月十九日

沙彌禪盛判

中興寺領之事永亨十年ノ足利家ノ文ト同シキユヘニ略ス

文和四年十一月一日

師盛判

中興寺山之事

四方之山分一圓可爲寺家之計若寺山之中號私領有伐木之輩者可處罪科者也

雖爲樹木亦柴常任用不可切取之於違犯族者三貫三百文可行科料也仍取定如件

寛正四年癸未十二月十三日

昌純在判



正覺院代之以手次依有契約筋目讓渡中處也但院內御神田共候有限於神役等者堅可被相勤者依而一筆如件

永祿九年丙寅八月吉日

妙順在判

當時山林之事寬正四年十二月十三日昌純任壁書之旨堅可有御政道云云

永正十四年八月十七日

政盛在判

右宮家ノ書類アマタアレトモ大抵相似タルコトナレハ略ス

毛利家ノ書類一

備後國品治郡宮内郷打渡之事

合

土ハシ 田六段 米五石五斗 正覺院

正覺寺谷 島八段 代二貫六百文 同寺

島一段 代三百五十文 助治郎

以上

天正二十年二月九日

斗增二郎左衛門判

貞助左馬允判

井上瀨兵衛判

粟屋市正判

正覺院參

今度御究ニ相證畢紙背ニ

文祿五年五月十五日

國部備後守部或司ノ誤也

少林寺

山田吉兵衛

通證ニ中興寺モト巨刹ニテ塔頭ニ正覺金龍二院聯下ニ末寺常圓アリ同處一庵金龍ト號ス今淨土僧

ヲ樓シムレトモ中興ニ隸ス正覺ハ谷ノ名田ノ字等ニノコリ常圓ハ民家ニアリ寺號ヲノコスト云

敬善寺 佛顯山淨土眞宗三次覺善寺末寺

憩亭七 大日 布袋 小坂屋谷 神仁給 回リ迫 丁田 馬場上

古跡

龜治山城

備後古城記ニ新市トモ云ト有

今按ニ新市宮内モト一村ナレハスナハチ同城ナルヘシ城主宮氏ノコト新市村ノ處ニクハシク記

ス備中府志ニハ宮ノ城トアリ備後古城記ニ櫻山ノ城龜治山ト爲ノ尾ノ峰ノ間ニアリト云

通證ニ爲ノ尾ハ宮ノ後ノ高キ山ヲ云慈俊モソコニモルトミユ今ノ櫻山ハ櫻山靈社ノ跡ニテ甚

狹シ城居スヘキ地ニ不便ト云

櫻山城 鷺居城

今按ニコノ城至テ高ケレハ平居ニ便ナラスタトヒ本丸ハコ、ニテモ平日ハ櫻山ニ住居セシナル

ヘシ然レトモ當時ノ城ト云モノ慶長前後ノ城ノ如キニハアラス事アルトキハ險ヲエラヘトモ平

日ハシカラサルヤ

櫻山慈俊 大日本史 後醍醐天皇元弘元年八月二十七日庚午備後人櫻山慈俊起兵一宮城ト云

總叙ニ出ツ

櫻山左近將監某供茶人殺生ノ中ノ書ニ據レハ名ハ全備ナリシヤ

今按ニ櫻山左近將監備後ニ據テ官軍ニ應スルコト大日本史ニミユ永和ニ宮左近將監一宮ヲ再建セシコト社記ニ傳フ永和ハ正統ノ天授ト同時ニテ芳野極衰ノ時ニアラス讀史餘論ニ官軍ノ國ニ十餘國ヲ列シテ備後モソノ中ニアレハ後ニ兵ヲ舉シ櫻山ハ宮ヲ再建セシ宮氏ト同人ナルコトシルヘシ櫻山モト宮氏也モシ別人ナラハ同時同郷ノ著姓ノ人同シク左近將監トハ稱スヘカラス慈俊ト將監ト父子カ兄弟カモシクハ叔姪從兄弟ナリシヤカ、ル忠臣節士ソノ世系事跡サタカナラサルハ惜ムヘシト云モアマリアリ

宮下野守元清 有木小次郎 備後古城記天正年中ニ住スト云

尾關讚岐 備後古城記ニ出ツ

土居城 有地美作守元森シハラク住ス今ニ土人御土居ト云

通證ニ毛利輝元ヨリ旗下ノ面々ヲ悉ク下城サスコレニヨリテ此所ニ住ス文祿年中ノ頃スコシノ間ナリト云

今按ニ山城ノ禁ハ太閤ノ命ナリ毛利家ノミニアラス

木曾丸山 木曾城トモアリ今聯下ニキソマルト云處アリ廣谷ノ奥ヨリレンケニ出ル處ナリ古城記

ニ出

殿ノ奥山

眞光寺殿 コレモ古城記ニ出通證ニ今トノチカ眞光寺谷ト云處レンケニアリト云

龍ノ口 山ノ形龍ノ頭ニ似タレハ名ツク或ハ此山ノ尾町村アタリノ野ニナカレ出タル所龍ノ尾ト

云全山ヲ龍山ト云古戰場ナリト云

聯下 慶長三年伊勢太夫配札帳ニれんけむらトイヘルハ此處也

鏡石 前ニミユ

網引カ浦 續日本紀ニ備後國蘆田郡網引公金村トアリムカシハ蘆田郡ニ屬セシニヤ又蘆田郡ニ別

ニ網引トイヘル所アルカ金村カコト總叙ニミユ

通證ニ寛永十六年有木小次郎書上ケノ書ニ備後國品治郡宮内網引カ浦一宮大明神者仁王七代之御

帝 孝靈天皇第三子云云

一宮經堂觀音緣起ニ去永久三年ノ頃此郡網引ノ浦タリシ時云云此記永祿五年七月十三日比丘尼妙法敬白トアリ此所マテ海船通ヒシコト佐波村ノ所ニ出ス

今按ニムカシ村里コ、ニアリシカカシコニ屬スルコト諸國ニ多シ安藝ノ諸郡入カハリタルコト

誰モシル所ニシテ備後ノ吉刀郡今ハイツクニアリトモシラレス小豆島モトハ備前ナレトモ今讚

州ニ屬ス名高キ常陸ノ新治ノ郡サヘムカシニ異ナレハ其餘推テシルヘシ常陸國志サレハコ、モム

カシハ蘆田郡ニ屬セシヤ宮内村例トシテ年魚ノウルカチ實ス今ハソノ地ニナクシテ府中交石ニテ買モトメテ献スサレ

孝徳院跡 仁王院跡 奥ノ御堂跡

通證ニ孝徳院ハ中ノ谷ト云所ニアリシト云右ノ三寺舊ハ宮内村ノ内ニアリテ皆天台宗ナリ今神宮

寺ニ藏スル所ノ錫杖モ天台宗ノ錫杖ニシテ孝徳院ニアリシ由ナリ銘ニ應仁三年トアレハ寺モソノ

頃マテハアリシニヤ

露心庵跡 護摩堂ト十二神社ノ間ニアリ今ハナシ露心ト云ハイツクノ人トモシレヌ隱者ナリ總叙

ニ出ス

### 福山志料卷之十八終

福山志料卷之十九

蘆田郡

蘆田ムカシハ葦田ト書シ和名抄ニ安之太ト訓ス中比ヨシタトヨミシ時アリテ或ハ吉田郡トモカキシヤ今又アシタトヨヒ蘆田ニツクル

和名抄國府在葦田郡行程上十一日下六日

同書郷六 佐味 廣谿今ナチアスナ葦浦今ノ常村ノ都福今ノ常ア葦田 驛家

延喜式神名帳二座 賀武奈備神社 國高依彦神社

日本紀應神天皇紀曰便自淡路轉以幸吉備遊小豆島庚寅移居於葉田葦守宮

日本紀通證曰倭名抄備前國上道郡幡多備中國賀夜郡足守或曰宮趾在備後國葦田郡

備後志通證ニ葉田中古ヨリ音ニトナヘ訛テヨウトト云用土トカク今土生村ニソノ地アリテ御門ノ社ト云アリ神跡束帶ノ木像アリト云

續日本記養老三年

常城今常村アレトモ

此郡モムカシ大ナリシヤ甲努郡モト一村ニテコ、ニ隸セシ時アリシ也今ノ境南ハ御調沼隈東ハ品治西北ハ世羅甲努ニ至ル郡中大川東流スコレテ葦田川ト云西北ハ皆山ニテ東南ニ原野アリムカシノ國府ナラヒニ近邊數村ノミソノ中ニアリ元和ノ頃統フル所ノ村二十五今統ル所二十八ナリ  
福田 相方 下有地 上有地 柞摩 栗柄 土生 中須 高木 府川 廣谿 町村 本山 府中  
出口 荒谷 藤尾 常 金丸 桑木 行藤 木野山 阿字 久佐 河面 上山 父石 目崎

福田村

福山ヨリ三里戌亥ニ當ル村東西二十一町五十五間南北五十二町十二間

田 畝 百六十一町五反三畝二步 内畠六十八町七反九畝二十五步

歳 額 一

千六百八十九石八斗六升五合 内畠五百二十三石四斗七升九合

戸 口

戸四百二十五 口千九百三十五内女九百二十二僧六替九外乞食七

畜

牛百七十九 馬三十一

溝 渠

蘆田川

有地川 下有地村ヨリ向永谷へ落ル

別所谷川 市原谷川 ミナ淵ナリ

蕩 横十間長七十二間スクモ塚ニアリ古城アル處ナレハノ塚ノコレルナルヘシ

池 塘

瀬來池 周二町五十四間

七ッ池谷ノ大池 周三町十九間

魚免池 周二町二十間

観音堂池 周三町二十一間

留谷池 周二町五十七間

小池四十七

堰 開

横土手樋 長六間二尺横五尺一寸高三尺二寸

水碓一

橋 約

小橋三十

山 溪

嶺一 鍋峠 赤坂ニ通シ又新市宮内ヨリ松永尾道へ通

廟 墓

八幡二社 一ハ龜山ト云生土神也一ハ宮ノ窪ト云

良大明神 古屋ト云所ニアリ

二宮大明神 迫ニアリ 日女大明神ト云アリテ明細書ニノセス此社ニハアラスヤ

荒神二社 大日 西御堂

小祠三十五

古墓 福田寺靈光寺ノ趾等ニ没字ノ大五輪アリ

塔 寺

西教寺 清水山淨土眞宗光照寺末寺開基教春上人

福性院 法輪山眞言宗明王院末寺

小佛屋五

憩亭八 大砂 東御堂 峯 靈光寺跡二 福田寺門前 福田寺跡 スクモ塚

古蹟

宇佐山城 城主シレス

明光山城 福田遠江守盛雅開城近江守森春ハ盛雅父ナリ古城記備中府志一宮ニ遠江守カ頂禮札ト云モノアリ宮内ノ條ニ出ス

六郡志に福田遠江守は尼子毛利の節の事なるべけれどもいつれの幕下と云ことをしらす瀬來伊賀惣飽十次郎市差次郎左衛門など云者遠江守家臣なりしとそ其屋鋪跡今に云傳て所の字となる

岡田氏人有此又其家臣末也と云

桂平山城 光成左京之進ト云傳フ

利鎌山城 光成左京之進隆正備後古城記新三郎興家

一本古城記ニ大内家ノ士ナリ先祖ハ櫻山慈俊ニ隨ヒシト云福田カ城トハ同山ニテ別處ナリ

スクモ塚 有地玄菟備後古城記

福田寺跡 六郡志に福性院の脇に小き山にて古き石塔あり今十王堂の邊の字をいふ

古塚 大本谷 湯神谷

コノ外ニニツアリ四十年前石ヲトリシヨリクツレシヨシナリ

孝子

宇兵衛 總叙ニ出 女菊 同

### 相方村

福山ヨリ三里十二町戌亥ニアタル村東西二十三町二十間南北十二町八間

六郡志云ひかし此邊まで海にて鹽濱などありて潮を汲し所あり今誤て鹽首といふ

今按ニ凡浦島鹽舟等ノ名アレハイックニモ此説アリ地形地脈ヲ察スヘシミタリニ信スヘカラス亦ミタリニ信セサルヘカラス

田畝

三十五町八反九畝六歩 内畠二十八町二反四畝二十九歩

歳額

二百六十四石五斗六升一合 内畠百九十三石四斗五升八合

戸口

戸百十 口五百六十内女二百八十四外僧三穢多百十二

畜

牛三十八 馬二

溝渠

蘆田川 栗柄村中津村界ヨリ戸手村福田村界マテ長千四百間

蘆田川此村ヨリ上香魚多ク村人魚渠ヲ架シテコレヲトル里諺ニ瀬切梁ト云秋分ノ比モトモ多シシ

カレトモコノコトツカサトル人アリミタリニユルサス

池塘

後谷池 周五町四十五間

鹽首池 周二町五間

小池五

山溪

嶺三 城平 下有地ニ通ス宮内新市ヨリ尾道へ出ル路也

上鹽首 上ニ同シ

下鹽首 福田

ニ通ス宮内新市ヨリ松永エ出ル路也

廟 墓

小祠六 此村下有地村ノ良大明神ヲ生土トシマツル

塔 寺

本泉寺 旭照山法華宗

六郡志天文弘治のころ先藏院日繼大徳開基といふいかなる故にや京都本能寺攝州本興寺兩寺の末寺なり日繼は天正十年正月十五日に遷化す第六世顯隆院までは過去帳さへなくて古き墓など有といへとも誰といふことしれすむかしは觀音寺といふ眞言地なりと口碑等につたへたるはかり也

觀音堂 城山ノ麓ニアリモトノ觀音寺ナリシヤ觀音寺トモ云

釋迦堂 通證ニ新市本住寺ノアトナリト云

古 蹟

相方城

六郡志に曰神邊をはしめ所々の古城石垣を多く崩したれども當城は石疊全して馬出し堀などの形のこれり今にその石をどれば傷損することありといふによるなるへし通證云天王寺ノ一代有地又左衛門カ子ナリシトキヨリ人ノ石ヲ取コトヲ禁ス只天王寺ノミトレトモ禁スル人ナク今ニイタルト云

城主馬屋原監物 備後古城記ニ大永年中有地美作守元盛家臣ト云

有地民部少輔元盛 同書云天正中有地ヨリコ、ニ移ル

今按ニ陰徳太平記ニ毛利家ノ兵備前國へムカヒシニ從テ蜂濱ノ合戦ニ古志清左衛門村上八郎左

衛門植木下總守等ト同シク手痛クタ、カヒシトキ宇喜多カ甥與太郎基家味方ノ兵ヲ勵シテ突來リケルチ力戰シテ打ヤフルアマリニ勞レケレハ宇喜多カ兵五六人落合セ有地ヲ取テサヘ巳ニ危クミエシトキ甥ナル次郎右衛門尉其敵ヲ切テラシテ元盛ヲ助ク既ニシテ與太郎基家鳥銃ニアタリテ討死シ宇喜多カ兵散々ニ敗北シタルコト委クミユ他書ニ異ナル事アリ總叙ニ詳ナリ備後古城記ニ有地カ家臣馬屋原下江平田後藤井上等ノ勇士ミユ西備名區ニ城内ニ浮田與太郎基家カ首塚アリト傳フレトモソノ處シレサリシニ近頃大川堤ノ用ニ石垣ヲクツ用シユソノトキ甌ニ刀ト人ノ首ヲ入シテ出スコレ基家カ首ナラント云

古城 千葉修理進 明細書ニミユコノ家後ニ後藤ト號シ今尙子孫多シト云

古塚一 横二間ハカリニ深三間ハカリ

附此村ノ住高橋甚六ト云モノ一宮ノ伶人トテ一宮ニテ無言ノ舞ト云フ或ハ人ニ舞シムルトキハコノ家ヨリ傳授スソノ家ニ陵王ノ舞譜一卷ヲツタフ卷尾ニ狛真葛ト云モノヨリ品治兼方ト云人ニツタハタルコトナカキシ殿ノ如キモノアリ囀歌ト云モノヲモノス弘安三年二月二十九日トシルス又一卷神樂歌ノ譜アリ卷首ヤフレテキレタリ尾ニ殿モナク何時ノモノトモシレスアル年ニ京ニ持上リテ並河先生ナルモノニ示ス並河ヨリ公卿某君ニミセシメシニコトニ希ナルモノナリト仰アリシヨシ並河カ書狀ヲ添テカヘスソノ一二撰シテ附録ニ出ス眞葛ハ樂所補任ニ正嘉元年任右近將監同日御春日詣陪從云云トミエ正嘉元年ハ康元二年ニテ弘安ノ二十二年前ナリ

### 下有地村

福山ヨリ三里十四町戌亥ニ當ル村東西九町南北二十町

田 畝

八十六町一反一畝十步 内畠三十町一反十六步

畧 額

八百三石四斗三升七合 内畠百九十一石八斗六升二合

戸 口

戸二百一十一 口九百九十二内女四百七十六僧六替二

畜

牛百二十四 馬七

溝 渠

有地川 久田谷川 山方谷川 古事記仁德記ニ山方ノコトアリ別見

池 塘

殿奥池 周五町

新池 周六町五十二間

小池七十一

堰 開

堰二十八 水碓四

橋 杓

小橋十五

山 溪

屏風石 高五尺長一間半屏風ノ如シ美石ナリ

ユルギ石 カロク搖カセハ小兒ノ指頭ニテモウコキカチ入ルレハ力者數人チセトモウコカスト云

廟 墓

良大明神 有地美作守市迫ニアルトキ勸請ス上有地相方三村生土神ナリ

八幡宮 有地石見守國武ノ城ニアルトキ勸請ス

六郡志此村の神官小田氏は代々吉備津宮の神職にて福山領禰宜の司也禰宜いにしへは吉田官といふことなくいつれも自官にてその官職をばその家よりゆるし侍りその例にていま以て神職のものゝ名をば此家にて名つけると云

今按ニ他郡神職多クハ吉田ニテ官チウケ國名等チ授カルコト今ステニ年久シ此家ヨリ定ムルコトイツノ頃ナルヤ

又小田氏の系圖をのす事長ければここに略すその始に書する所大同元年丙戌五月十八日始置六道觀察使至 平城天皇丁亥三月十八日菜相續圓護

系圖ハ

嵯峨天皇より起り連綿たへす今にいたる又左衛門太夫道末といふ時水野勝成公宮内村

吉備津村造營遷宮に社家の頭として座例第一坐に被仰付その子小田薩摩守道正元祿年中始て吉田

官となる道末までは自官なりその子主殿頭秀信寶永二年乙酉八月二十六日從五位下に任すと云

小祠三十五 塔 寺

本安寺 寶珠山法華宗本能寺本興寺兩寺末寺開山本住院日領享祿三年庚寅三月十三日寂

六郡志に相方の城主有地美作守元盛の菩提所なりといへとも分明ならず厨子のことさ石塔ありその内左の文字を刻せり恐らくは元盛の法名ならんか元盛一に元森につくる

理法院殿青心日覺 大永二年五月九日 寶林院殿蓮心日珠 本覺院殿妙心日光 蓮成院殿 常安日意

今按ニ有地一門法華宗ヲ信ス天王寺ニ日蓮自筆法華經アルハ有地カ子僧トナリ天王寺ニ住セシカ持ユキシナリト云

小佛屋三

憩亭三 常安 廣谷 藤戸

古 蹟

大谷九ノ平城 有地美作守隆信 備後古城記ニ清元ノ嫡子弘治年中トミユ

今按ニ陰徳太平記ニ永祿五年十月毛利元就ニ從テ雲州島根郡ニ打入シ事ミユナセルコトモミエサルユヘ文ハ略ス

同次郎右衛門尉景信 同民部少輔元盛

備後古城記ニ美作守トアリ隆元嫡子小早川隆景ノ臣備前合戦ノトキ秀吉公ニ鎧ヲ合スト云

今按ニ此二人相方ノ城主タレハコノ所ヨリ相方ヘウツリ住セシナルヘシ有地相方ニウツルコト

上有地ノ所ニミユ

又按ニ宇喜多直家ト毛利家ト備前ノ峰濱合戦ノトキ有地高名セシ事アリ總叙ニ出ス天正年中ナ

レハ相方村居城ノ時ナルヘシ

市迫城 有地美作守元森 天正年中福田治部大輔ヲ討取國タケ城ヨリココニウツル

殿奥城 コレモ元森カ城也元森弟九右衛門ソノ次又左衛門ソノ次八助家臣能宗氏久良氏ノ屋鋪跡

アリ久良社ト云小祠モアリ

有地左京亮 備後古城記コノ有地ノ末葉有地三九郎水野家ニ仕ヘテ祿三百石給ハリ物頭役トナ

リシト云

森信屋鋪 有地九右衛門屋鋪ナリ森信ハソノ實名ナルヘシ

出宿 元森下屋鋪ノ跡

馬場 長三十間餘餘横八間ハカリ有地カ調馬場ト云

御屋鋪 元森相方ニウツリシノチコ、ニ屋鋪アリト云

三歩市 元森奥城ニアリシトキコ、ニ市ヲタテ商人アツマリシト云

箕腰 元森築山ノ跡トテ近頃マテ奇石大小アマタノコレリ今ミナ耕作ノタメニ取棄ラレ猶スコシ

ハカリハコレアリト云

### 上有地村

通證ニ昔狩道ト云ハコノ地ナラント云福山ヨリ三里二十一町戌ニアタル村東西二十三町十八間南

北一里九町三十間上有地下有地相方三村モト一村ナリ福島ノトキワカタルト云

田 畝

百二十三町四反三畝二十五步 内畠五十二町三反五畝十一步

歲 額

千八十八石四斗四合 内畠三百二十五石四斗九升四合

戶 口

戸三百八 口千四百二十内女七百四僧五磬八外茶筍二十六

畜

牛百八十二 馬十八

溝 渠

本川 柞摩村ヨリ下有地村マテ堤長千三百九十八間



堀町川 大谷川

池 塘

大谷池 周六町三十間

福岡池 周四町四十五間

小池百三十九

堰 閘

水碓四 橋 約

小橋三十四

山 溪

嶺二 サイノ峠 柞摩村へ通ス ヒウチ峠 宮内ヨリ尾道へ出ル道也

鷹取山 王子山 丹石山 上山

廟 墓

國司大明神 辨説ニミユモト九西トモカケリ

福路地大明神 山崎有地川筋堤往還ニアリ有地美作守勸請ス此處ヲ今御下屋鋪ト云

松笠龍王 小祠二十二

塔 寺

正満寺 澄月隔山淨土眞宗大東坊末寺

コノ寺ノ鐘銘法霖カ作也霖ハ名高キ僧也ユヘニ録ス

鐘之爲體 兩樂九乳 高商譜兮 兼徵含羽 古佛之制 非因倭禹 篆刻龍文 應世隨矩 寶杵高

愚 以擊以拊 一聲放兮 鳥獸率舞 君子發省 豈此思武 悲心所託 感動區宇 鬼散幽愁 獄

啓深戸 休徵匪小 郊田賑々 獲黍與梁 饌佛奉祖 猗歟群生 入蓮華聚

寛保元年五月二十五日 正崇法霖銘

小佛屋三

憩亭七 神谷 後木屋 丸山 燧嶺 岩屋 堀町 庄力

古 蹟

國竹城明細書三竹  
ナ武ニ作ル

六郡志に福島引渡の節までは上有地下有地相方をわかたす一村にて大永の比より天正の末まで有地氏三代の領地なり下有地村大谷御林の近所米廻といふ所ありはしめその所居城なりけるか妖怪ありて人多く失ける故此所にかりに住居しその内に相方に城を築て移られしと云有地石見守清元

備後古城記天文三年よりはしめて此所に住す後下有地村鳥の奥の城へうつり住む有地も宮氏なり

上山城 城主不知

燧城 或云南三河守コ、ニ住スト

御下屋鋪 福路地明神ノ處ニアリ

古塚十二 大抵横二間左右深二間三間外ニ崩埋タルハ數シラス

孝 子

庄助 總叙ニ出 與太郎 同

柞 摩 村

福山ヨリ四里十八町酉戌ニアタル村東西三十七町半南北三十四町半西廣島領御調郡僧殿仁野平木ノ三村ニ接ス古名多羅摩

田 畝

五十一町二反十三步 内畠二十二町八反八畝六步

歲 額

四百六十四石二斗九升二合 内畠百五十四石一升九合

戸 口

戸百四十二 口六百七十二内女三百十七替一

畜

牛八十 馬三十

溝 渠

本川 坊原貞野二澗入舟ニテ合ス

池 塘

小池十三

橋 約

小橋十二

水碓五

山 溪

小澗一 嶺一 小原村ニ通ス府中ヨリ尾道松永ニ出ル路也

龍王石 神取石

廟 墓

八幡宮二社 一ハ江原一ハ土カヘニアリ水野記ニ天文三年神邊城主山名理興多羅摩某ヲ攻シトキ

某社壇ニ火ヲ放テ自害スソノ後永祿丙寅宮高信再建スト云

小祠二十一

塔 寺

小佛堂二

觀音堂 タフチ山ホウシヤウ寺ト云跡ナリ

藥師堂 ハナヤ山トウシヤウ寺ト云跡ナリ並ニ文字ヲ失ス

憩亭五 花屋 土壁 別所 ケソヘ 峠

古 蹟

入舟山城 柞摩殿 今按ニ康正二年造内裏國役引付ニ大和兵庫介柞戸村段錢アリノノ比コノ人コ

トテ領セシナルヘシ柞摩殿ト稱セシ人アルヒハコレナラン

滑山城 下井石見守

江原山 明細書ニ云江原山チャウモク寺ト云一刹アリ近頃マテ小籠アリテ木佛アリ今ハ籠モナク

佛ハ八幡宮社内ニアリト云

今按ニ神躰ニアミタ佛或ハ地藏等アルハカ、ルコト後ニ由來シレスナリユキテソレトナシタル

ナルヘシ行教和尚袖ニ彌陀佛ミエント云モ像ニヨリテノ附會ニヤ延喜式ニ藥師菩薩神社等アリ

アルヒハクスシトヨミテ大穴持ノ命ナルヲ藥師ノ字ニヨリテ菩薩ヲクハヘシナリトイヘトモサ

ルモアルヘクマタカ、ルモアルヘシ

古塚四 姥峠 サイサキ アカサコ 宗貞

### 栗柄村

福山ヨリ四里乾ニアタル村東西十八町南北一里十町西隅少ク廣島領御調郡僧殿村ニ接スムカシハ  
高木中津土生父石前原マテ府中市イセヤワキマテ町村耳語橋マテ方相城山下有地久田谷柞摩土カ  
ヘマテスヘテ栗柄ナリシト云古名久梨加羅村

田 畝

百七町九反一畝三步 内畠五十六町三反九畝七步

歳 額

千四十四石五升 内畠三百五十六石七斗三升四合

戸 口

戸二百七十二 口千二百二十五内女五百八十六僧六替四

畜 畜

牛二百八 馬四十五

溝 渠

蘆田川 谷尻川 牛淵 相方堺ニアリ旱年ニ近村飲牛ノ所也

池 塘

蛇池 周三町十間

タワ池 周二町四十間

小池八

堰 關

水碓五

山 溪

嶺四 大門 土生ニ通ス トロモ 仁野村ニ通ス

石四

八丈石

袈裟掛石

弘法石

大師ノ井トテ水七升ハカリ入クホミアリ

鏡石

南宮大明神 祭神 孝靈天皇吉備津彦命

六郡志に云宮内一宮につゝきたる大社なり宮中に男女の木像十餘軀あり腐朽せり又其外佛經若干

有むかしは大社にて神官社僧等も多くありて月々の神事あり毎月十三日大般若經を修行しけると

て今に至て十三日を參詣の日とす祭禮は九月二十九日なり

今按ニ或云宮内一宮ト祭神同シ此社南ニアルユヘ南宮ト號スト又口碑纂記ニ據レハ祭神ハ金山

彦神ニテ美濃國南宮社ヲ移シ祭レルナリイツレカ是ナリヤ通證ニ今ノ社ハ寛文九年ニタツト云

又云 後冷泉院永承六年十一月授從三位云云

今按ニコノ事ミル所ナシ

南宮口碑纂記略 通證ニ載所也事長ク  
レハ要所ナトリ記ス

子爰當社南宮大明神者號正一位勳一等金山彦太神是則伊弉諾伊弉册尊產火之神時生神也然金山彦

尊號南宮者依南方火德陽神矣垂於此地跡當初傳謂 平城天皇之御宇美濃邑人流浪而來留當國府

中積於年月終成富祐家然自 天武天皇白鳳之初美濃國不破郡府中祭此神後移于南中山自然以後

産于美濃國者爲氏之神故更轉於此地而移祭于時大同二年丁亥也其時謂府中今府川高木中津用土僧殿栗柄是也故末社所々散在貫船之神社下南古大津和氣神社當東市平牛頭天王坤鎮座附賀美奈美神社在西尾大尾明神在北大門已經藏鐵樓堂神寶之數不遑翰墨松尾平井上呂毛三箇處凡在五十餘町神田雖然時變世轉保元平治之亂神寶舊記悉散失就中人王百一代 後小松院應永六年巳卯營建之云云此時纔本社而已其後當國大主御調郡木梨城主杉原又太郎殿被寄附四十二貫地至慶長之初國主福島正則沒却社領矣陵廢究此矣元和五年六月正則被配流于信州同年八月水野日向守勝成公爲當國主日土呂毛神田上田一反被寄之到正德于今寛文九巳酉歲豐田元義三谷氏等營建之鳥居延寶六戊午歲造之隨神門釋迦堂貞享四丁卯歲建之鐘鐺寶永六巳丑歲造之畢云云

納經數品悉記セス大般若經櫃ノ書付通證ニノスル所左ノ如シ

奉納大般若經六百軸

南宮大明神御寶前 願主相國寺沙門中高以下人名略ス

應永二十九年壬寅十月二十三日

六郡志隨神新古二牀有新きものは諸社に在如く菅冠をいたゞき狩衣にて弓矢を持古きは圖の如し又云古き像は永承六年巳前の彫刻と見ゆたり隨神ハ古語拾遺曰天照大神入于天石窟時群神歌樂令天手力雄神引啓其扉遷坐新殿令豐盤間戶命豐盤間戶命二神守衛門是並大玉命之子也云云

